ザイール川とタンガニイカ湖漁撈民の魚類認知の体系

安溪遊地*

目　次

1. はじめに
1.1. 研究の目的と調査の方法
1.2. 調査地域と部族
1.2.1. ザイール河畔
1.2.2. タンガニイカ湖畔
1.3. 言　語
1.3.1. 部族語
1.3.2. 共通語
1.4. 魚類相
2. ザイール川における魚類の認知——ソンゴーラ族の事例
2.1. 環境の認知
2.1.1. 人間の生活環境
2.1.2. 魚の生息地（ハビタット）
2.2. 漁　法
2.3. 魚類の認知——ソンゴーラ族の場合
2.4. 魚類の民俗分類（ソンゴーラ族・エニャ支族）
3. タンガニイカ湖における魚類の認知——ブワリ族を中心に
3.1. 環境の認知
3.1.1. 人間の生活環境
3.1.2. 魚の生息地（ハビタット）
3.1.3. 季節変化
3.2. 漁　法
3.3. 魚類の認知——ブワリ族を中心に
3.4. 魚類の民俗分類（ブワリ族）
4. 比較と考察
4.1. 魚への関与の様態
4.2. 魚類の民俗分類について
4.2.1. 民俗分類の構造の比較
4.2.2. 魚類相と民俗分類
4.2.3. 生業経済と民俗分類
謝　辞
引用文献

1. はじめに

1.1. 研究の目的と調査の方法

本報告は，熱帯アフリカの陸水での漁撈を主生業としている人々が，魚類に対してどのような知識をもっているかを明らかにすることを第一の目的としている．自然と人間の関係の諸相の解明にはさまざまのアプローチが可能であろうが，ここではエスノ・サイエンスという立場に立って記載をおこなう．漁撈活動そのものについては別報を準備中である．民族魚類学についての研究報告は，民族植物学などとは対照的にきわめて少なく，Morrill (1967)，Anderson (1969, 1972)，Bulmer *et al.* (1975)，Akimichi (1978) などがあるにすぎない．ことに多種の淡水魚類が分布するアマゾン，熱帯アフリカ，東南アジア等は，今日なお続々と新種が発見される地域であり，民族魚類学的な調査はほとんど手つかずのままであると言っても過言ではない．

本報の第二の目的は，大河と大湖という二つの異なる水界環境で，それぞれ魚に依存して生活している集団間の比較を試みるという点にある．この比較によって，熱帯アフリカにおける 1) 魚類相と，2) 魚類に対する認知体系，3) 生業活動ないし生業経済の三者の関係の諸相がより明らかになるものと考える．

調査にあたっては，魚種の採集と同定に多くの時間がさかれた．採集は，漁撈活動の場と集落や市場でおこなった．標本が新鮮なうちに方名やその性質についての聞き込みをおこない，ホルマリン標本にして日本に持ち帰った．標本は，1979 年度京都大学動物生態学研究室タンガニイカ湖・ザイール川生態調査隊のラベルを付して同研究室に保管してある．標本番号 09105～09217 がザイール川，09500～09683 がタンガニイカ湖からの標本である．

タンガニイカ湖の魚種は Poll (1953, 1956)，Brichard (1978) を用いて現地で同定をおこなっ

* 沖縄大学法経学部一般教養科講師

た．ザイール川の標本は BOULENGER (1909-1916) を中心に脚注[1] に示す文献も参照して同定した．同定にあたっては，京都大学農学部水産学教室の山岡耕作氏と京都大学理学部動物学教室の高村健二氏の御援助を得たが，同定の最終的な責任は筆者にある．

認知体系に関する聞き込みは，1 調査地あたり 2 人ないし 5 人のインフォーマントを対象に実施した．

1.2. 調査地域と部族

調査地域はザイール河畔とタンガニイカ湖畔の 2 カ所である．両地域はいずれもザイール共和国のキヴ (Kivu) 州に属している．前者はマニエマ (Maniema) 亜州キンドゥ (Kindu) 県，後者は南キヴ (Sud-Kivu) 亜州フィジイ (Fizi) 県に含まれる (図 1)．

1.2.1. ザイール河畔

ザイール河畔では，マニエマ亜州の州都キンドゥの下流に居住する赤道バントゥー系のソンゴーラ (Songola) 族を調査対象にした (図 2)．調査期間は 1978 年 7～12 月，1979 年 12 月～1980 年 2 月であった．ソンゴーラ族にはいくつかの支族が含まれるが，調査をおこなったのは，エニャ (Enya) 支族，クコ (Kuko) 支族，ビンジャ (Binja) 支族であった．エニャ支族はザイール川沿いに列状集落をつくり，年間を通じて漁撈生活を営んでいる．その他の支族は街道をはさんだ平行集落をつくり，焼畑農耕を主な生業としている．魚類の認知と漁撈活動についての調査の重点はエニャ支族[2] に置いた．

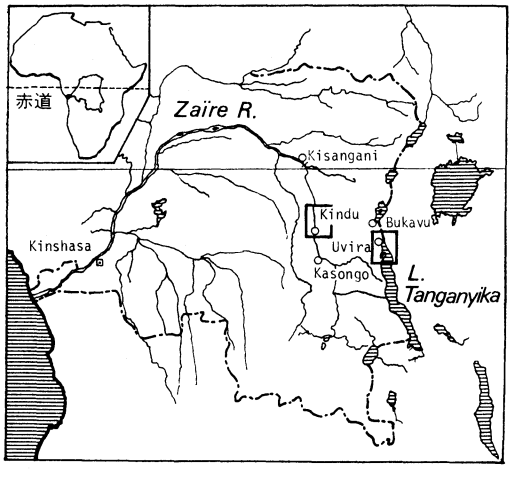


図 1 ザイール共和国における調査地の位置

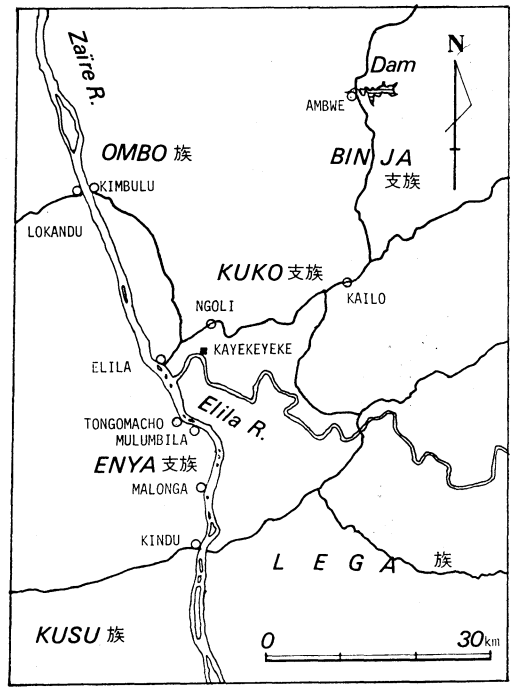


図 2 ザイール川での調査集落と部族の分布
[太い実線は道路を示す．■は物々交換市である．]

1) NICHOLS et GRISCOM (1917), DAVID et POLL (1937), POLL (1957; 1959; 1967; 1971; 1973; 1976), POLL et GOSSE (1963), GÜNTHER (1973), GERY (1977), BANISTER and BAILEY (1979) など．

2) Enya, Wagenia 等の名称をもち専業的漁撈を主生業とする集団が，カソンゴ (Kasongo)，キンドゥ，キサンガニ (Kisangani) (図 1) を中心として，ザイール川沿いに分布している．カソンゴ周辺の集団はルバ (Luba) 族起源であるといい，キサンガニの集団はレガ (Lega) 族に近縁であるとされている (BULCK, 1948, p. 502)．キンドゥ周辺の集団は，現在ではソンゴーラ族に帰属意識をもっており，後述のように言語的にもソンゴーラ語の一方言を話している．伝承では，キンブル (Kimbulu) 集落の集団は，レガ族の土地からエリラ (Elila) 川を筏で下ってきたといい，ムルンベラ (Mulumbila) 集落のリネージはザイール川本流の上流からやってきたという (図 2)．

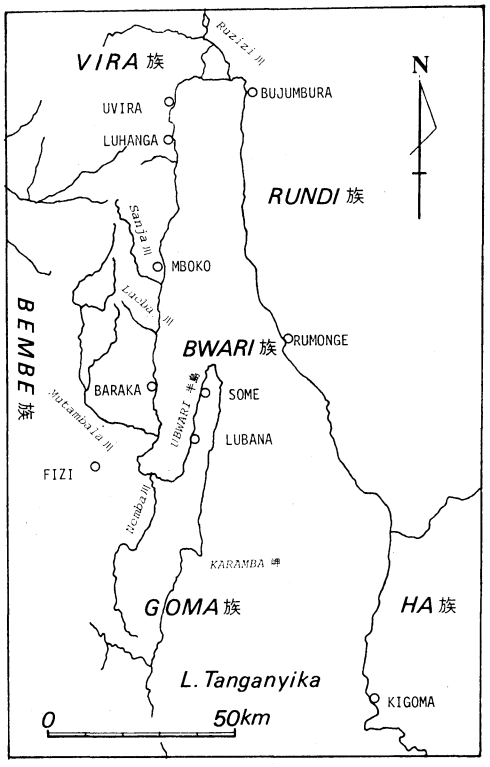


図 3　タンガニイカ湖での調査集落と部族の分布

1.2.2.　タンガニイカ湖畔

タンガニイカ湖畔ではウブワリ (Ubwari) 半島に居住するブワリ (Bwari) 族に調査の重点を置いた．調査期間は 1979 年 9～11 月であった．この間，南キヴ亜州の州都ウヴィラ (Uvira) から約 100 km 南方のバラカ (Baraka) に居住するベンベ (Bembe) 族について約 1 週間，ルハンガ (Luhanga) に居住するヴィラ (Vira) 族について 2 日の調査をおこなった (図 3)．

ブワリ族はベンベ族の下位集団と見なされている (Boone, 1961, p. 19)．しかし彼ら自身の主張するところによれば，ブワリ族には南方のルバ (Luba) 族の土地から来たグループと，北のルンディ (Rundi) 族の土地から来たグループがあったという．ṁwámì (首長) のリネージは，ブルンディの支配者階級であるトゥシ (Tusi) 族そのものであるとされている．

ベンベ族は，マニエマ地方のレガ (Lega) 族由来であることが知られている (Boone, 1961, p. 22)．

ヴィラ族は，ウヴィラ周辺のごく限られた地域に住んでいる．ウヴィラ北方のルジジ (Ruzizi) 川右岸に住んでいるフレロ (Fliru) 族と近縁であるという．湖岸沿いに居住する諸部族のおもな生業はダガーと呼ばれるニシン科の小魚を獲ることからなりたっている．

1.3.　言　　語

1.3.1.　部 族 語

ソンゴーラ語は Guthrie の D グループに入る言語で (Guthrie, 1967, p. 12)，いくつかの支族方言を区別することができる．その詳細については別報で述べた (安渓, 1981)．ここではエニャ支族方言の音素と名詞のクラスを筆者の調査結果にもとづいて示す (表 1)．ブワリ族の言語について公表された資料はない．ヴィラ族のインフォーマントによると，ブワリ語はゾバ (Zoba) 語とほとんど同じだという．ゾバというのは，ヴィラ族の中の水辺に住んで漁撈を主生業としてきた集団を指す名称だという．ヴィラ語については Meeussen (1951 c) による調査があるが公表されてい

表 1　ソンゴーラ語エニャ支族方言の音素 (A) と名詞のクラス (B)

(A)　音　素

母　音	/	i̧	i	e	a	o	u	ụ /
半母音	/	y					w	/
子　音	/	m	n		ny		ŋ	
		b	l		nj		ng	
		p	t	s	ch		k	/
トーン　高	/ ´ /				低		/ ` /	

(B)　名詞のクラスと prefix

	単　数	複　数
1.	mu, mo, ϕ	ba
2.	mu, mo	mi, me
3.	ki, ke	bi̧
4.	lu, lo	n, ng, m, mp
5.	n, m, ϕ	n, m, ϕ
6.	i̧	ma
7.	bu, bo	ma
8.	ka	tu, to

prefix のトーンは低/ ` / である．

表 2 ブワリ語の音素 (A) と名詞のクラス (B)

(A) 音 素

母音	/ i e a o u /	
半母音	/ y w /	
子音	/ m n ny ŋ	
	b l j	
	p f t s ch k	
	v z g /	
トーン	高 / ´ /	低 / ` /

/si/=[ʃi], /zi/=[ʒi] であるが表記にあたっては shi, ji を用いた.

(B) 名詞のクラスと prefix

	単数	複数
1.	m, ϕ	ba
2.	m	mi
3.	ki	bi
4.	lu	n, m
5.	n, m, ϕ	n, m, ϕ
6.	li, ji, e, ϕ	ma
7.	bu	ma
8.	ka	tu

prefix のトーンは低 / ` / である.

ない. バントゥー語の文献集をまとめた BASTIN (1975) によれば, ヴィラ語はガンダ (Ganda), ルワンダ (Rwanda), ルンディ (Rundi), シ (Shi) 等の諸語とともに J グループに入れられている. おそらくブワリ語もこのグループに入るものであろう. ブワリ語について, 筆者の調査した音素と名詞のクラスを示す (表 2).

ベンベ語は, ソンゴーラ語とともに D グループに入れられている.

以上 4 つの言語は, いずれも高低のトーンをもつ言語である. ブワリ語とヴィラ語は 5 母音, ソンゴーラ語とベンベ語は 7 母音で両者の間には違いが認められる. ソンゴーラ語ビンジャ支族方言, ヴィラ語, ベンベ語に関しては MEEUSSEN の未発表資料を利用させていただいた (MEEUSSEN, 1951, a, b, c).

1.3.2. 共 通 語

ザイール共和国の東部では, 共通語としてスワヒリ (Swahili) 語が通用する. タンザニアで使われるスワヒリ語とは異る点が多いので, ザイール・スワヒリ語と呼んでおきたい. 調査地はキヴ州西端と東端であったので, ザイール・スワヒリ語とはいっても両地域の間には語彙にかなりの相違が見られた. ブワリ族の多くの人々は, タンザニアとの往来が頻繁であるためか, タンザニアのスワヒリ語をも自由に操ることができた.

筆者の調査は, 主としてザイール・スワヒリ語によって進められた[3].

1.4. 魚 類 相

アフリカ産の淡水魚は, 44 科, 280 属, 2510 種が知られている (POLL, 1973, p. 113). 本報告で扱う魚種はそのうち表 3 に示す 22 の科に属していた. 各科の魚を図 4 に示す. POLL は魚類相からみて, アフリカ大陸を 16 区に分けている (POLL, 1957, p. 54). 筆者が調査した両地域は, ザイール川沿いがコンゴ (Congo) 区とルアラバ (Lualaba) 区の境界に, タンガニイカ湖がタンガニイカ区に位置している.

表 3 調査地域で確認された魚類の科の構成

科番号	学 名	和 名
01	PROTOPTERIDAE	ハイギョ科
02	POLYPTERIDAE	ポリプテルス科
03	CLUPEIDAE	ニシン科
04	NOTOPTERIDAE	ナギナタナマズ科
05	MORMYRIDAE	モルミルス科
06	CHARACIDAE	カラシン科
07	CITHARINIDAE	コケビラメ科
08	CYPRINIDAE	コ イ 科
09	ICHTHYOBORIDAE	イクチオボルス科
10	AMPHILIIDAE	アンフィリウス科
11	BAGRIDAE	ギ ギ 科
12	CLARIIDAE	ヒレナマズ科
13	MALAPTERURIDAE	デンキナマズ科
14	MOCHOCIDAE	サカサナマズ科
15	SCHILBEIDAE	シルベ科
16	CYPRINODONTIDAE	メダカ科
17	CHANNIDAE	タイワンドジョウ科
18	ANABANTIDAE	キノボリウオ科
19	CENTROPOMIDAE	アカメ科
20	CICHLIDAE	カワスズメ科
21	MASTACEMBELIDAE	トゲウナギ科
22	TETRAODONTIDAE	フ グ 科

科の配列は POLL (1973) に従う.
科番号 09, 10, 15 は筆者による仮称.

3) 共通語は < > に囲んで表記する.

コンゴ区からは，42 属 669 種の魚が知られ，そのうち 548 種がこの区の固有種である (Poll, 1974, p. 22)．ルアラバ区 (Lualaba-Upemba-Lufira) からは 69 属 182 種が知られており，そのうち 41 種がこの区の固有種である (Poll, 1976, p. 20)．タンガニイカ区（タンガニイカ湖と湖に流入する河川を含む）からは 85 属 250 種以上の魚種が報告されており，そのうち 44 属 192 種が固有種である (Brichard, 1978, p. 72-76)．これら 3 区の特色は，種数がきわめて多く，固有種（タンガニイカ区では固有属）の占める率が高いことである．

本文中に“ザイール川”という場合は，コンゴ区とルアラバ区を合せたものを，また“ザイール水系”という場合は，この“ザイール川”にタンガニイカ区を合せた水域を指すことにする．

2. ザイール川における魚類の認知——ソンゴーラ族の事例

2.1. 環境の認知

森林の中に居住しているクコ支族については別報（安渓，1981）で報告したので，ここではエニャ支族について述べる．

2.1.1. 人間の生活環境

ザイール川[4] は lùàlàbà (ǹgàlàbà)[5] と呼ばれている．ザイール川沿いの地帯は mùchìlì wá lùàlàbà“ルアラバの近く”，ザイール川から隔たった地域は nkàndà“陸地”と呼ばれている．

エニャ支族の kàchá（集落）は，lòbèlé“岸辺（河辺の斜面）”の上の mùtúndù“水のつかない所”に位置している．集落の下の舟着き場を ìbúngù (mà-) という．ソンゴーラ族以外の漁撈民は，ザイール川の kìlílá（中州）や，増水期に水没するような所にも住んでいる．しかしこれは一時的な滞在であることが多く，フィッシング・キャンプと呼ぶ方がよいであろう．

ルアラバの上流は mùlù，下流は màlíngá という．エニャ支族とクコ支族は，ソンゴーラの上流の支族を Bìsímùlù，下流の支族を Bàmàlíngá と呼ぶ．川の対岸は kùlúlú，こちら側は chàámbá という．島と岸との間にできた狭い水路は m̀pùkú と呼び，ザイール川を遡上するときに利用される．

2.1.2. 魚の生息地（ハビタット）

魚が生息する環境は，kìlìbà（湿地），lùúchì（川），lùàlàbà（ザイール川本流）の 3 つに分けられている．キンドゥ周辺で lùúchì と呼ばれるのはザイール川右岸の支流 Elila 川のみで，ほかの川は kàáchì（小川）と呼ばれる．

kìlìbà は，増水期または雨季に水没する場所を指す．乾季にも水が引かないような場所はとくに kìchábáchábá kí kìlìbà と呼ぶ．クコ支族はこれを màtàlú と呼んでいる．このような湿地はたいてい ǹkúngú yí kàáchì“川の源頭部”にある．川がザイール川に注ぐ場所は，mùsúlù（河口）と呼ばれている．

ザイール川の岸辺に近い部分を kùsí といい，流れの中央部を mwìyàbà“川の幅の中”とか，mùúgì yá lùàlàbà“ルアラバのまん中”と表現する．

魚の棲む場所は，底質によって大きく 3 つに分けられる．lòchómbú（泥湯），ìsé（砂地），màwè（岩場）である．lòchómbú は湿地と川に多い．砂地は中州に多いが，大増水が何回かあったあと，乾季に砂地の露出する所が減った．màwè はさらにいくつかに分けられている．礫岩の多い所は bìsángásàngà といい，二枚貝が多いという．mèlá というのは，平たい板状の岩を敷きつめたような場所で，櫂を立ててもすべってしまう．ǹtúndí はひとかかえほどの岩で，小川にもザイール川にもある．家くらいもある大きな岩は múnùngù といい，乾季に頭を出し水があたってグォーッと音を立てる．mùsúsá（急流）は，上流の kìkúlú（巨岩の露出した所）に見られる．

4) 以下ザイール川と称する場合は，本流を指すことにする．

5) 以下部族語の複数形は（ ）に入れて示す．(—) は単複同型．ソンゴーラ族は，ルアラバが海というもうひとつのルアラバへ流れ込んでいることを昔からばくぜんと知っていたという (Delhaise, 1909, p. 201)．

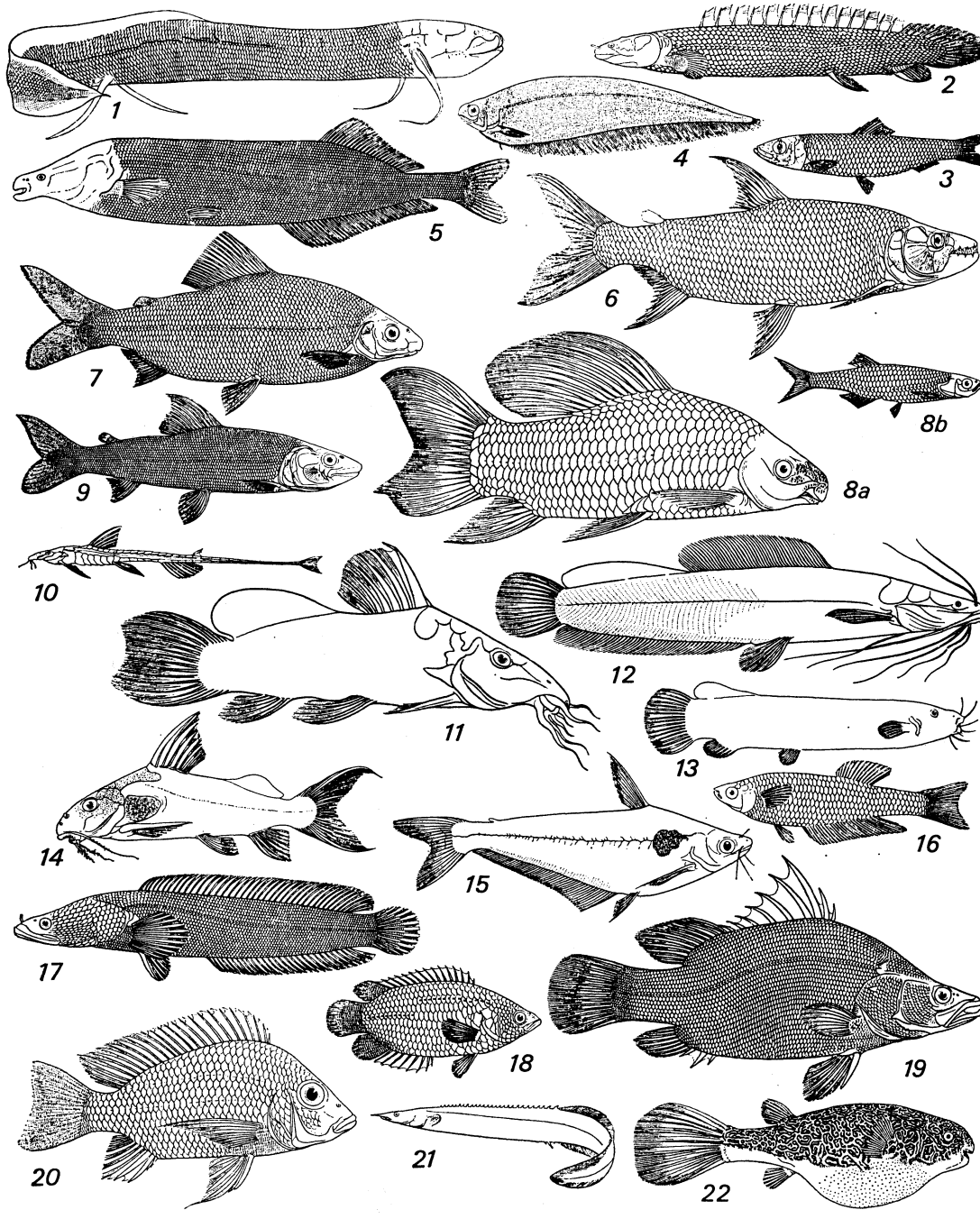


図 4 アフリカの淡水魚

図 4 の説明

1.	Protopteridae	*Protopterus dolloi* Blgr.
2.	Polypteridae	*Polypterus congicus* Blgr.
3.	Clupeidae	*Limnothrissa miodon* Blgr.
4.	Notopteridae	*Xenomystus nigri* Gthr.
5.	Mormyridae	*Mormyrops deliciosus* (Leach)
6.	Characidae	*Hydrocynus goliath* Blgr.
7.	Citharinidae	*Distichodus fasciolatus* Blgr.
8 a.	Cyprinidae	*Labeo velifer* Blgr.
8 b.	Cyprinidae	*Engraulicypris bredoi* Poll
9.	Ichthyoboridae	*Eugnatichthys eetveldii* Blgr.
10.	Amphiliidae	*Belonoglanis tenuis* Blgr.
11.	Bagridae	*Auchenoglanis occidentalis* Cuv. et Val.
12.	Clariidae	*Heterobranchus longifilis* Cuv. et Val.
13.	Malapteruridae	*Malapterurus electricus* Gmel.
14.	Mochocidae	*Synodontis decorus* Blgr.
15.	Schilbeidae	*Eutropius grenfelli* Blgr.
16.	Cyprinodontidae	*Lamprichthys tanganicanus* (Blgr.)
17.	Channidae	*Ophicephalus obscurus* Gthr.
18.	Anabantidae	*Ctenopoma oxyrhynchus* Blgr.
19.	Centropomidae	*Lates niloticus* (L.)
20.	Cichlidae	*Tylochromis lateralis* Blgr.
21.	Mastacembelidae	*Mastacembelus congicus* Blgr.
22.	Tetraodontidae	*Tetraodon mbu* Blgr.

番号は表 3 の科番号に対応している.

Reproduced from (Poll, 1957) by permission from the author and Kon. Mus. Tervuren, Belg.

植物にかかわりのある呼称としては，河辺に藪がせり出した所を ìséngò という．丈の高いイネ科草本 (màkàngà) が群生している水辺を màkàngà という．

màkìlà (流し網) を流せる場所を kyànjá kí màkìlà (網の道) という．それぞれの網の道には近くの集落名が付けられている．網の道と網の道の間には kìkátì (沈んでいる木) があって網を流すことができない．kìkátì には，kìchíndì (水中の伐り株) と mùkùlà (水中の倒木) とがある．

乾季なら櫂が立つ浅い所は mùímà，深い所は mùlìbà という．とくに深い穴がある所は ìkúndúlì (渦) が巻いており，kìnchìmbì と呼ぶ．

水の表層を ànkàndà ní màánjì，中層を m̀wíngyà màánjì，川底を m̀bílú という．

魚類のすみかに関するこれらの知識のうち，魚の生態と関連して頻繁に出てくるものを表 4 にまとめた．

2.2. 漁　　法

ソンゴーラ族のエニャ支族とクコ支族の間には，漁法の構成に違いがある．たとえば，クコ支族には小川や湿地での小型の魚を獲る漁法が多いが，エニャ支族には少ない．両支族の漁法を彼らの分類に従って述べる．漁法には f 番号の形でコードを付す．

f 10　kò-tòtá (素潜り)　-tòtá は潜ることで，Ātòtí mù-m̀bílú (彼は水の底に潜る) というように表現する．ǹdúbú (脱頭銛) を持って潜るのは f 11 で kò-tòtá-né-ǹdúbú と呼ばれる．乾季に家ほどの大岩の下に潜って突く方法と，や

表 4　ザイール川における魚類のハビタットの民俗知識——ソンゴーラ族エニャ支族の場合.

略号	Songola 語	説　明
A	kìlìbà (bì-)	湿　地
A_1	kìlìbà-kí-kìlílá	中州 (kìlílá) の湿地
B	lùúchì (ǹgúchì)	Elila 川
C	kàáchì (tù-)	小　川
C_1	ǹkúngú-yí-kàáchì	小川の源頭部
C_2	mùsúlù (mì-)	小川がザイール川に流れ込む所
D	kùsí-yí-lùàlàbà	ザイール川の岸辺近く
D_1	màkàngà (—)	イネ科草本のやぶ (*Echinochloa* 属と *Vossia* 属)
D_2	ìséngò (mà-)	灌木が岸辺からせり出している所
E	mùúgì-wí-lùàlàbà	ザイール川の中流
E_1	ànkàndà-ní-màánjì	水の表面近く
E_2	m̀wìngyà-màánjì	中　層
E_3	m̀bílú (—)	川　底
F	bòmà (—)	ダム．Ambwe の水力発電用ダム湖 (図 2).
m	lòchómbú (ǹ-)	泥　場
s	ìsé (mà-)	砂　場
r	màwè (—)	岩　場
r_1	mèlá (—)	平たい大岩の所
r_2	bìsángásángà (—)	礫岩の多い所

はり乾季に岸辺の kìbúmbá という，土にうがたれた深い穴にひそんでいるギギ科の魚を突く方法の二つがある．濁って視界の効かない水中に長時間潜ることは，よほど度胸がないとできないと言われる．

f 20 kò-élà (掻い出し漁) 小川を堰止めて水を掻い出す漁で，主として女が乾季におこなう．

f 21 kò-élà-né-kàı̨tá 魚藤 kàı̨tá を使う掻い出し漁で，栽培2種，野生6種の植物がこれに用いられていた．小川の岸辺で毒を流すのは男の仕事である．

f 30 kàlúngú 釣り．鉤(つりばり)を使う漁法は f 31～f 36 の6種類がある．餌には，魚の切り身，mòsóbò (ミミズ)，m̀pósè (アフリカオオゾウムシの幼虫) 等動物性のものと，m̀bı̨là (アブラヤシの実)，kàòmbóòmbà (無毒種キャッサバ芋をゆでてつぶした団子) 等の植物性の餌がある．魚はその食性から，1) 鉤にかからないもの，2) キャッサバの団子しか食べないもの，3) キャッサバの団子以外の餌を食べるもの，4) あらゆる餌を食べるものの4つに区別されている．

f 31 màlílí つけ鉤．鉤に半尋の釣糸を付けて岸辺 (表4の D_1) または湿地 (同 A と A_1) に縛り，1日に2回餌を取りかえる．ナマズとハイギョがよく獲れる．

f 32 mùkándá 流し鉤であるが，鉤に2尋の釣糸を付け，mùkúlú (*Raphia* ヤシの葉柄の芯) を浮きにしたものを 100 から 200，川の面に数 km にわたって流し，主としてシルベ科の魚を獲る．

f 33 mòlómbà 置き鉤．長さ 1 m 余の mòlómbà (パラソルトゥリー) の浮きに錘と 2，3 本の鉤を付けたものを 30 本ばかり，岸辺 (D) やエリラ川 (B) の数尋の深さの所に入れる．

f 34 mòmpésó 棹釣り．mòmbáká (棹) を使う漁で，小さな鉤も大きな鉤も使う．小さい鉤は子供の遊びや f 35 の餌を獲るときに使う．大きな鉤は ı̨bòndò (*Raphia* ヤシ) の葉柄の棹を使って岸辺に立てておく．この棹はよく浮くので，力の強いタイガーフィッシュなどが棹ごと持っていってしまっても丸木舟で追いかけて捕えることができる．

f 35 mùtámbá 延縄．縄に 1 尋おきにナイロン糸で鉤を 200 ほど付ける．キャッサバの餌ならサカサナマズ科の魚がかかり，それ以外の餌ならナマズやギギがかかる．

f 36 mùshı̨pı̨ 大鉤．長さ約 80 mm 以上の鉤で，魚を餌にしてオオナマズ，デンキナマズ，ナイルパーチなどを獲る．

f 40 ı̨lùngà うけ．獣を捕える罠と同じ名前で呼ばれており，f 41～f 48 の8種がある．

f 41 kàlı̨mù 円錘形のうけの一種で，満水期にイネ科草本の中に仕掛けて，コケビラメ科の大型の魚を獲る．

f 42 mòóngósó 細長いうけ．口の直径が 10～20 cm，長さ 1～2 m の長円錘形で堰に差し込んで水流に押し流される魚を捕える．小川でおこなう漁である．

f 43 lùbìyà 堰そのもののこと．小川に幅 10 m，高さ 2 m ほどの堰を木で作り，そこに f 42 に似た長さ 5 m もある袋状のうけ mùànjù (mì-) を差し込む．小乾季のあとの，3～4 月の大雨で川に押し流される小魚が大量に獲れる．

f 44 kìsúbú 中型のうけ．直径 25 cm，長さ 60 cm ほどのうけで，二重のかえしがついている．kyònyá という幼虫をつぶして葉に塗りつけたものでうけをくるみ，小川の浅瀬に入れる．

f 45 kàlékà 小型のうけ．f 44 と同じ形だが，長さが 30 cm ほどしかない．使用法は f 44 とほぼ同じ．ただし乾季だけの漁法である．

f 46 lòlékà 舟べりのうけ．長さ 6 m，深さ 85 cm ほどのがま口状のうけ．2 人で丸木舟に乗って，岸辺の藪 (D_2) に舟を寄せ，この口の下端に固定した2本の柄で口を大きく水中に広げ，別の長い棒でやぶの下をつついてひそんでいる魚をうけの中に追い込み即座に引き上げる．主として夜間におこなう漁で，大小さまざまの魚が獲れる．

f 47 kètétà 柵とうけを併用する漁法のそ

の 1. *Raphia* ヤシの葉柄を編んで作る柵 lùká-lá を，岸辺にイネ科の草が生えている所 (D_1) に半円形に巡らせ，lùpángà (山刀) でこの草を刈り取って次第に柵を縮め，一端に固定してある kàònỳ (tò-) という 2 m 以上もあるうけの中に魚を追い込む．明け方おこなう．

f 48 mpỳndì　柵とうけを併用する漁法のその 2. または"鰓(えり)". 末広がりに柵を固定してその要の地点に f 47 と同じ大型のうけを固定し，夜，丸木舟でそっと近づいて，棒で柵の中をつついて魚をうけの中へ追い込む．乾季の漁だがザイール川の満水期には，小川を堰き止めるようにして設置することもある．

f 50 màkỵlà　網漁．f 51～f 59 の 9 種がある．川底を流す網は màkỵlà mí m̀bỵlú と呼ぶ．

f 51 bùcháká　流し網のその 1. 幅 1 m ほどの網で，網目は指が 4～5 本入る大きさ．昔はトウダイグサ科のつる草 lùkúsà で作っていたが，1950 年代からはナイロン糸で編むようになった．網の上端には lỵkùpé (浮き) を，下端には kàngándà (錘) をつけ，浮きと錘の数を調節して，川底近くを掃いて通るようにしなければならない．長さは 1 尋 (kèsèmbé) を単位に計るが，普通は 300 尋程度である．網の両端に長さ 80 cm ほどの大浮き (m̀bàgé) を縛りつける．乾季にも雨季の増水期にも，昼でも夜でも流すことができ，頭が網の目と同じ大きさの魚はすべて獲れる．

f 52 àbùlàmídèsù　流し網のその 2. 工場で編みあげてあるナイロン製の網．糸が細く目が指 4 本分と，f 51 より狭いほかは f 51 によく似る．11, 12 月にサカサナマズ科の魚を獲るのに適する．

f 53 chàcháchà　流し網のその 3. f 52 の糸をさらに細く網目を指 2～3 本分にしたもので乾季に用いる．破れやすいので増水期には適しない．

f 54 mèlélé　流し網のその 4. lùkúsà のつるを編んだ網 (f 51) を二つ合わせて幅の広い網をつくり，片腕ほどの浮きを 30 cm おきに付け，錘はつけない．長さ 150 尋くらい．昼夜ともに用いる．現在ではこの漁法は見られなくなっている．

f 55 sàlí　流し網のその 5. 浮きを半尋おきに，錘を 1 尋おきに付けて浮くようにした網を夜間に流し，タイガーフィッシュを獲る．

f 56 màkỵlà-mí-mùmpúngú　流し網のその 6. 網目は指 1 本幅の細かい網．長さは 3～10 尋と短く，岸辺近くの水面を 20 ～50 m 流して，コイ科やカラシン科の小魚 mùmpúngú を獲る．月夜の明け方がよいという．

f 57 bùkákálỵá　地引網．網目が指 2～2.5 本幅の網を lùkúsà のつるで編んだ 20～40 尋ほどの網で，浮きはひじから指先までの長さ，錘は手首から指先までの長さの間隔で付ける．夜間 2 人で砂地の出ている所を丸く囲んで，岸に向けて引き寄せる．ムーンフィッシュがよく獲れるが，最近はこの網をつくらない．

f 58 kìkútú　刺網．岸辺や小川のイネ科の草の間に固定する．長さは 15 尋ほどを 1 単位にしていくつか仕掛ける．普通は，流し網としてはもはや使えない破れた網 (bỵúchý) を利用する．満水期に藪が水底に沈む一時期に，この刺網をもっとも頻繁に用いる．

f 59 lỵmỵ́nà　投網．直径 4 m ほどのナイロン製の投網．川下のロケレ (Lokele) 族がもたらしたもので，岸辺や舟から投げる．これらの漁法の一覧表を表 5 として示す．

2.3. 魚類の認知——ソンゴーラ族の場合

魚をエニャ支族は ÑFÌÍ[6] (—) と呼び，クコ支族は KÈSÓKÓ (BỴ-) と呼ぶ．魚以外に水中に生息しているものとしては，ǹgùbý (カバ) と ǹg-wènà (ワニ) がある．前者は NYÀMÀ (けもの) であり，後者は水中にいて鱗があるから魚だというインフォーマントもいたが，kèsélélé (尾びれ) がないのだからやはり NYÀMÀ なのだとする説が多かった．カエルの類には kìlìmbà/mùtùkù[7],

6) 他の方名を包摂する方名を包括名と呼び，これを大文字で表わすことにする．

7) ／の記号は別名 (シノニム) を表記するために用いる．

表 5 ソンゴーラ族の漁法

略号	Songola 語	説 明
f 10	KÒ-TÒTÁ	素潜り
f 11	kò-tòtá-né-ǹdúbú	銛を用いる素潜り
f 20	KÒ-ÉLÀ	掻い出し漁
f 21	kò-élà-né-kàɩ̨tá	魚藤 (kàɩ̨tá) を用いる掻い出し漁
f 30	KÀLÚNGÚ (TÙ-)	釣り一般
f 31	màlílí (—)	つけ鉤
f 32	mùkándá (mì-)	流し鉤
f 33	mòlómbà (mè-)	置き鉤
f 34	mòmpésó (mè-)	棹釣り
f 35	mùtámbá (mì-)	延縄
f 36	mùshìpì (mì-)	大鉤
f 40	ỊLÙNGÀ (MÀ-)	うけの類一般
f 41	kàlíɩ̨mù (tù-)	円錐形の大型うけ
f 42	mòóngósó (mè-)	細長いうけ*
f 43	lùbìyà (m̀-)	堰に細長い大型うけを併用*
f 44	kìsúbú (bì-)	中型のうけ．2 重のかえしをもつ*
f 45	kàlékà (tò-)	小型のうけ．2 重のかえしをもつ*
f 46	lòlékà (ǹdékà)	舟べりの大型うけ
f 47	kètétá (bì-)	柵とうけを併用する漁法その 1
f 48	mpụ̀ndì (—)	柵とうけを併用する漁法その 2
f 50	MÀKỊLÀ (—)	網漁一般
f 51	bùcháká (—)	流し網その 1. 網目粗い
f 52	àbùlàmídèsù (—)	流し網その 2. 網目中ぐらい
f 53	chàcháchà (—)	流し網その 3. 網目細かい
f 54	mèlélé (—)	流し網その 4. 幅が大きい
f 55	sàlí (—)	流し網その 5. 浮く網
f 56	màkìlà-mí-mùmpúngú	流し網その 6. 小魚用
f 57	bùkákáɩ̨á (mà-)	地引網
f 58	kìkútú (bì-)	刺網
f 59	lìmíɩ̨nà (—)	投網

* クコ支族のみが使用する．

kàmòtè, kèmpótè 等の方名があり，これらのオタマジャクシは ìbólò と呼ばれ，成長したものとともにすべて食用にされるが魚ではないという．節足動物は mòpálì (テナガエビ) や ìkálá (カニ) 等がおり，クコ支族では“カニは少ないが lùkúlùngùnyú (ゲンゴロウ) がわれわれのカニなのだ”といい，この 3 者は食用となるが魚ではないとされる．その味がもっとも魚に近いがやはり魚ではないとされるのは ǸKÉSÉ (—) という包括名で呼ばれる軟体動物で，水棲の lòkésé (カラスガイのような二枚貝) kìkúlùnkésé (小型の二枚貝)，ìkésé (カキ)，lòkókú (巻貝)，陸棲の ǹkòlà (アフリカマイマイ) 等が食用とされる．結局ソンゴーラ族の ǸFÌÍ ないし KÈSÓKÓ というフォーク・カテゴリーは，ほぼ硬骨魚類綱という分類学上のカテゴリーに対応しているということができよう．

前述のように比較的しっかりした分類の枠組をもつかに見えるソンゴーラ族の ǸFÌÍ/KÈSÓKÓ に含まれる多数の方名の一つ一つを同定した結果を表 6 に示す．種は科別に整理し，科の配列は Poll (1973) に従い，科内の属，属内の種はそれぞれアルファベット順に並べた．1) 種の集合と，2) シノニムを整理した方名の集合の，各要素間の対応関係の一つ一つに番号を付し，1) または 2) の任意の要素にリファーできるようにする．なお後述のタンガニイカ湖の資料と区別するために，このザイール川の資料には Z- を付することにする．表 6 にはレファレンス番号，学名，同定の根拠 (4 けたの番号は採集 No., Obs. は筆者の観察，Inf. は図鑑の写真等で得た情報)，体長 (頭の先から尾鰭のつけ根までの standard length を mm 単位で示す) を記載する．方名はソンゴーラ族のエニャ支族，クコ支族，ビンジャ支族について記載し，共通語による名称があるものはそれも記入してある．また，前述の魚類のハビタットについての認知を表 4 の略号で，それを獲る漁法に関する聞き込み資料を表 5 の略号で記入した．

以下の記載は，主としてエニャ支族のインフォーマントから得た．それぞれの ǸFÌÍ (魚) の性質を彼らの語るまま記したものである．それを次の①～⑥の項目に分けて順次記述し，筆者の観察ないしコメントは，①の前に，あるいは〔 〕に囲んで⑥の後に記す．

① どのような魚か，他の魚との相違点は何か．生息地と習性について．

② 漁獲の多寡と季節性および，漁法について特記すべきこと．

③ 味覚と好悪について．

④ 俗信について．

⑤ 超自然的用途（呪薬のたぐい）．

⑥ その他（タブーに関するものはここに含める）．

Z 1　kìbúbà (bị-)　① Z 2 の大きいものを指す．太ももほどになる．

Z 2　ǹsémbé (—)　①この魚の鰭は màbélè（乳房）と呼ぶ．ヒトと同じように乳房をもち，これで泳ぐ．②釣の餌にはミミズ，アフリカオオゾウムシの幼虫，油ヤシの果実を用いる．f 48 mpụ̀ndì 漁でときどき獲れるが1度に1匹しか獲れない．湿地で f 36 mìshìpị̀ 漁をするとき運がよいと2匹とれる．③ 1 晩煙でいぶすとおいしい．kìsálị̀（カワスズメ科の魚の燻製）のような味だ．ゆでたラッカセイのように粉っぽくておいしい．骨がない．女はあまり食べたがらない．④鰭を油ヤシの幹に巻きつけて登り，ヤシ酒を飲むといわれている．⑥ kị̀ị̀lá（タブー）があり，食べる時に mòkélé（骨）を噛みつぶしてはいけない．このタブーを破った男は mòntèmbèlè（性的不能）になる．

Z 3　mùkúngá (mì-)　①ワゲーニャの魚[8]である．小魚を食べる．湿地にいて湿地をゆさぶる魚である．②季節を問わず獲れる．③肉がニワトリに似ているので ǹkókó-yí-màánjị̀（水のニワトリ）とも呼ぶ．⑥諺があり，村の人々に喜びをもたらす男にたとえられている．Mùkúngá lùtị̀kìsà màlị́bà. Lùsùú lùkwèlè mùkúngá, màlị́bà málálà. “ムクンガは湿地をざわめかせる．ムクンガが死んだ日には湿地は静まりかえってしまう．”この諺が意味するところは，“いつも笑いや歌や話で村中を愉快にする男がいないと，村は静まりかえってしまう”ということである．

Z 4　kàpàndàmụ́kòngè (tò-)/mòkòmbè (mè-)　Z 3 の子供であるとする説と，別の魚であるとする説があった．後の説をとなえたものによれば，生息地などは Z 3 にそっくりだが，親指くらいの太さにしかならないという．②目の細かい f 58. kìkútú 網で獲れる．

Z 5　mùkúngá (mì-)　ビンジャ支族方言．Z 3 より黒っぽい．アンブウェのダム湖で獲れたもの．

Z 6, Z 41　lùndàkálà (ǹ-)　科が異なるが同じ方名で呼ばれている．共通語では Z 55 も“大きい ndakala”と呼ばれている．②目の細かい網で獲る．〔市場で Z 6 と Z 7 をひと山1ザイールで売っていた（1979 年末には 1 ザイールはほぼ 100 円であった）．他の魚よりも高価である．〕

Z 8　lùkùmbì (ǹ-)/mùkúmbí (mì-)　①紙のようにうすっぺらな魚．形は T 117 ị̀pèpélé に似ている．陸に上がっても長い間息をしている．⑥タブーがあり，これをいつも食べると，死ぬ時になってもなかなか死ぬことができない．ちょうどこの魚のように片胸はもう腐りはじめているのに，心臓はまだ止らないのだ．

Z 9～Z 26　モルミルス科はすべて ̀MPÓTÒ (—) ないし MÙPÓTÒ (MÌ-) という包括名をもっている．クコ支族とビンジャ支族はこれを kàmbóbó (tò-) と呼んでいる．共通語の〈ndomondomo〉とは〈ndomo（唇）〉が長い魚が多いことと関連があろう．②概して水量が多い 10～4 月によく獲れる．ミミズで釣ることもでき，f 50 網漁や f 40 うけ漁でも獲れる．

Z 9～Z 11　lùkúúị̀ (ǹ-)　吻が長く下垂している．①体高は掌ぐらいになる．

Z 12　lòbébé (m̀-)　下顎の付属物が円錘状に長く伸びる．ビンジャ名の意味は“口のカンボーボ”である．①体高は掌ほどになる．③美味．皮は堅いが身は軟く頭は脂っこい．

Z 13, Z 15～Z 17　lòsèsè (ǹ-)　Z 14, Z 24～Z 26 もその呼称の一部に lòsèsè という部分を含んでいるが，単に lòsèsè と呼ばれるものは，下唇がわずかに突き出たものだけである．①体高

8) 漁撈専業民〈Wagenia〉が好む魚という意味．獲れても，売ったり，物々交換の市へ持って行ったりせずに食べてしまう．

表 6 魚 類 の 認 知

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Enya 支族名 Enya Names
	PROTOPTERIDAE (ハイギョ科)			
Z 1	*Protopterus* sp.	Inf.	—	2 kìbúbà (bḭ-)
Z 2	*Protopterus aethiopicus congicus* Poll	Obs.	ca 400	1 ǹsémbé (—)
	POLYPTERIDAE (ポリプテルス科)			
Z 3	*Polypterus congicus* Blgr.	9163	490	2 mùkúngá (mì-)
Z 4	*Polypterus* sp. juv.	Inf.	—	1 kàpàndàmṹkòngè (tò-)/ mòkòmbè (mè-)
Z 5	*Polypterus ?ornathipinnis* Blgr.	Obs.	350	—
	CLUPEIDAE (ニシン科)			
Z 6	*Microthrissa obtusirostris* (Blgr.)	9140	54	lùndàkálà (ǹ-)
Z 7	*Microthrissa royauxi* (Blgr.)	9139	69	—
	NOTOPTERIDAE (ナギナタナマズ科)			
Z 8	*Xenomystus nigri* (Gthr.)	Obs.	190	lùkùmbì (ǹ-)/ mùkúmbí (mì-)
	MORMYRIDAE (モルミルス科)			MPÓTÒ/MÙPÓTÒ
Z 9	*Gnathonemus elephas* Blgr.	9119	182	lùkúúḭ (ǹ-)
Z 10	*Gnathonemus ibis* Blgr.	9116	195	lùkúúi (ǹ-)
Z 11	*Gnathonemus tamandua* (Gthr.)	9118	177	lùkúúḭ (ǹ-)
Z 12	*Gnathonemus petersi* (Gthr.)	Obs.	350	lòbébé (m̀-)
Z 13	*Gnathonemus macrolepidotus* (Ptrs.)	9180	122	lòsèsè (ǹ-)
Z 14	*Gnathonemus greshoffi* (Schth.)	9183	89	lòsèsè-lí-lùàlàbà
Z 15	*Gnathonemus stanleyanus* (Blgr.)	9120	174	lòsèsè (ǹ-)
Z 16	*Marcusenius ?nigricans* Blgr.	9122	57	lòsèsè (ǹ-)
Z 17	*Marcusenius wilverthi* Blgr.	9121	145	lòsèsè (ǹ-)
Z 18	*Mormyrops* sp.	Inf.	—	2 ǹtáḭ (—)
Z 19	*Mormyrops deliciosus* (Leach)	9117	192	1 mòmètè (mè-)
Z 20	*Mormyrops masuianus* Blgr.	9196	524	mùnkùmbà-wá-lḭ̀là
Z 21	*Mormyrops nigricans* Blgr.	Obs.	270	mòmètè-wí-káàchḭ̀
Z 22	*Mormyrops* sp.	Inf.	—	mùchḭ̀màsúngú (mì-)
Z 23	*Mormyrus ?bumbanus* Blgr.	9153	185	ḭ̀bḭ́ò (mà-)
Z 24	*Petrocephalus sauvagei* (Blgr.)	9174	115	lòsèsè-lí-kìbùngì/ mùsìkà-lùbùngì
Z 25	*Petrocephalus stuhlmanii* Blgr.	9184	73	lòsèsè-lí-kìsíbìlì
Z 26	*Stomatorhinus microps* Blgr.	9199	63	lòsésé-lí-kìsíbìlì
Z 27	?	Inf.	—	ǹtàfṹ (—)
	CHARACIDAE (カラシン科)			
Z 28	*Alestes imberi* Ptrs.	9142	69	kìbílà (bḭ-)
Z 29	*Alestes macrolepidotus* (Cuv. et Val.)	9115	122	mùmpúngú (mì-)
Z 30	*Alestes macrophthalmus* Gthr.	9168	118	màndà-yí-kìbílà/ ḭ̀yúchà (mà-)
Z 31	*Alestes poptae* Pellegr.	9114	124	kìbílà (bḭ-)
Z 32	*Hepsetus odoe* (Bloch)	9216	248	m̀wéngè (—)
Z 33	*Hydrocynus* spp.			MÀNDÀ (—)
Z 34	*Hydrocynus goliath* Blgr.	Obs.	ca 500	màndà-yí-m̀wéngè
Z 35	*Hydrocynus ?vittatus* Casteln.	Inf.	—	3 m̀bìngà (—)
Z 36	*Hydrocynus forskali* Cuv.	9169	260	2 màndà-yí-múm̀púngú

ソンゴーラ族の場合

Kuko 支族名 Kuko Names	Binja 支族名 Binja Names	共通語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁法 Catch
—	—	—	—	—
ǹsémbé (—)	sémbé (—)	sembe	A D_1 m	20 31 47 48 58
mùkúngá (mì-)	—	—	A C D	21 30 36 41 47 58
—	—	—	A C D	46 48 58
—	mùkúngá (mì-)	—	F	—
—	—	ndakala	D	56 59
—	—	ndakala	D	56 59
mòkòmbé (mè-)	—	—	C	20 58
kàmbóbó (tò-)	KÀMBÓBÓ	ndomondomo		30 46 47 52 53 58
—	—	—	D	46
—	—	—	D	46
—	—	—	D	46
—	kàmbóbó-kí-mòlómò	—	C	—
kàmbóbó (tò-)	kàmbóbó (tò-)	—	D	46
—	—	—	D E_3 m	46
—	—	—	D	46
—	—	—	D	46
—	kàmbóbó-į̀sésé	kemamba	D	46 58
—	—	—	D_1 D_2 E	30 51
—	—	—	D	35 36 46 51
—	kàmbóbó-kí-mùsílíbándà	—	A B D_1	33 35 46
—	—	—	C	—
—	—	—	C D m	—
—	—	—	D E r s	30 46 52 53
—	—	—	D E_3 m	46 53 58
kàmbóbó (tò-)	—	—	C D	20 46
kàmbóbó (tò-)	—	—	C D	20 46
—	—	—	E r s	35
kìbílà (bį̀-)	—	kibela	D	34 46 58
mùpúngú (mì-)	mùbàį̀ (mì-)	pungululu	D F	34 56
—	į̀újà (mà-)	—	D F	—
—	—	—	D	34 46 58
m̀wéngè (—)	m̀wéngè (—)	—	C	20 47 58
màndà (—)	—	manda		31 54 55 58
—	àngànyà (bà-)	—	E	51
—	—	—	D	31 36 55
—	—	—	D	—

表 6 (つづき)

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Enya 支族名 Enya Names
Z 37	*Hydrocynus* sp. juv.	Inf.	—	1 kàmàngámàngà (tù-)
Z 38	*Micralestes* sp.	9205	60	lùsàlísàlí (ǹ-)
Z 39	*Petersius ?leopoldianus* Blgr.	9138	56	kìbílà (bḭ-)
Z 40	*Petersius modestus* Blgr. male	Obs.	130	—
Z 41	*Petersius* sp.	9165	55	lùndàkálà (ǹ-)
	CITHARINIDAE (コケビラメ科)			
Z 42	*Citharinus* sp.	Inf.	—	2 m̀bùlí (—)
Z 43	*Citharinus gibbosus* Blgr.	9107	107	1 lùbúkù (m̀-)
Z 44	*Distichodus* spp.			MÒKÀSÁ
Z 45	*Distichodus* sp.	Inf.	—	2 ǹchṵ̀nà (—)/ mòkàsá-wí-ǹchṵ̀nà
Z 46	*Distichodus antonii* Schth.	Obs.	550	1 kìmpùkùsù (bḭ-)
Z 47	*Distichodus atroventralis* Blgr.	Obs.	ca 500	3 kàkwémbè (tò-)/ mòkàsá-wí-kàsìí
Z 48	*Distichodus* sp.	Inf.	—	2 kàbúmbwá (tù-)
Z 49	*Distichodus fasciolatus* Blgr.	9109	106	1 mòkàsá-mòélò
Z 50	*Distichodus langi* Nich. et Grisc.	Obs.	510	mánchì (—)/ mòkàsá-wí-kàlòmò
Z 51	*Distichodus lusosso* Schth.	9108	210	mùkùpì (mì-)
Z 52	*Distichodus maculatus* Blgr.	9109	310	mùlùngùsḭ̀ḭ̀bà (mì-)/ mùlùngùchùmà (mì-)
Z 53	*Distichodus sexfasciatus* Blgr.	9187	114	ŋèmbè (—)
	CYPRINIDAE コイ科)			
Z 54	*Barbus holotaenia* Blgr.	9185	66	lùúndḭ (m̀púndḭ)
Z 55	*Barilius lujae* Blgr.	9137	72	mùlùbí (mì-)
Z 56	*?Engraulicypris congicus* Nich. et Grisc.	Inf.	—	mùntítínfìì (mì-)
Z 57	*Labeo barbatus* Blgr.	Obs.	545	mùtándá (mì-)
Z 58	*Labeo ?coubie* Ruppell	Obs.	452	m̀pólóŋónḭ̀ (—)
Z 59	*Labeo cyclopinnis* Nich. et Grisc.	Obs.	545	mòlóngè (mè-)
Z 60	*Labeo falcipinnis* Blgr.	9143	670	2 m̀bélélṵ́ (—)
Z 61	do.	9197	112	1 mùnkṵ́nchṵ̀ (mì-)
Z 62	*Labeo lineatus* Blgr.	9193	300	ǹsḭ́là-yí-lòchómbṵ́
Z 63	*Labeo ?lineatus* Blgr.	Obs.	500	ǹsḭ́là-yí-lùngúlà
Z 64	*Labeo ?macrostoma* Blgr.	Obs.	620	mòlàngànjàlà (mè-)
Z 65	*Labeo sorex* Nich. et Grisc.	9172	430	kàmbùlùkùtù (tù-)
Z 66	*Labeo ?weeksi* Blgr.	9192	120	mòsòmbò (mè-)
Z 67	*Labeo* sp.	Inf.	—	2 kìkùngùlà (bḭ-)
Z 68	*Labeo longipinnis* Blgr.	9135	125	1 kèmbèlàmà (bḭ-)
Z 69	*Labeo* sp.	9214	215	mùúlḭ̀ (mì-)
Z 70	*Labeo* sp.	Inf.	—	ǹkùlùngú (—)
Z 71	*?Labeo* sp.	Inf.	—	2 ḭ̀tùlù (mà-)
Z 72	*?Labeo* sp.	Inf.	—	1 kàpòépòé (tò-)
	ICHTHYOBORIDAE (イクチオボルス科)			
Z 73	*Eugnathichthys eetveldi* Blgr.	9112	141	mùnkwánkwà (mì-)
Z 74	*Ichthyoborus besse* Gthr.	9113	122	—
Z 75	*Mesoborus crocodilus* Pellegr.	Obs.	190	—

表 6 つづき

Kuko 支族名 Kuko Names	Binja 支族名 Binja Names	共 通 語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁 法 Catch
—	—	—	D	56
lùsálìsàlí (ǹ-)	—	—	C	20
—	—	—	D	34 46 58
ì̧chụ̀ngí (mà-)	ì̧jụ̀ngí (mà-)	—	C F	53
—	—	—	—	—
—	—	—	E s	51
lùbúkù (m̀-)	lùbúkù (m̀-)	—	A C m	21 53 55 57 58 59
mòkàsá (mè-)	mùkàsá (mì-)	MUKASA	D E	31 47 48 51 53
—	—	—	D_1	41 46 48 51
—	—	mukasa-wa-maganga	A D_1 E	21 46 51 58
—	—	—	E_3 s	34 51
—	—	—	—	—
—	—	—	D m	34 53 58
—	—	mukasa-wa-cinq-minutes	D r s	52
mùkùsùkùsù (mì-)	—	—	D_1	53
—	—	—	D_1	46 48 53
—	—	masamba	A D_1	21 46 53
lùúndị̀ (m̀púndị́)	lùpúndị̀ (m̀-)	—	C	20 21 32 43 45
—	—	—	D	56 59
mùtítíánfìì (mì-)	—	—	A C D_1	21 46 53 58
—	—	—	E r	51
—	—	—	C E r	52 53
—	—	—	E r	51 52
m̀pónò (—)	—	pono	E r	30 51
—	—	—	D	46 58
—	—	sila	A C D m	35 46 51 58
—	—	sila	C E s	51 52 58
—	—	mwarabu	E r s	51
—	—	—	E r s	51 52
—	—	sila	A C D m	21 35 46
—	—	liputu	D	46 48 53
—	—	liputu	D m	35 46 53 58
—	—	—	E s r	52 53
—	—	—	E r	51
—	—	—	E r	30 35 51 52
—	—	—	C C_2 r	30 35
—	—	—	D_1 E	46 53
—	—	—	D	46
—	mùúkùlù (mì-)	—	F	50

表 6 つづき

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Enya 支族名 Enya Names
	AMPHILIIDAE (アンフィリウス科)			
Z 76	*Belonoglanis tenuis* Blgr.	9217	62	kànyòn̩ìnfìí (tò-)/ nyòn̩ìnfìí (—)
	BAGRIDAE (ギギ科)			
Z 77	*Auchenoglanis occidentalis* (Cuv. et Val.)	Inf.	—	3 kìbùwá (bì-)
Z 78	do.	Obs.	ca 500	2 kàmpété (tò-)
Z 79	?do.	Obs.	—	1 ì̀kómbé (mà-)
Z 80	?*Auchenoglanis* sp.	Inf.	—	ì̀kómbé-chí-mìsúlù
Z 81	*Bagrus ubangensis* Blgr.	9124	235	mùnùngúngòlà (mì-)
Z 82	*Chrysichthys* spp.			MPÈNGÈLÈ
Z 83	*Chrysichthys cranchii* (Leach)	Obs.	ca 1000	2 ǹkàmbà (—)
Z 84	do.	9125	—	1 kèkòlù (bì-)
Z 85	*Chrysichthys* sp.	Inf.	—	1 ì̀bòlá (mà-)
Z 86	*Chrysichthys* sp.	Obs.	—	1 m̀pèngèlè (—)
Z 87	*Chrysichthys* sp.	Obs.	ca 600	mùùngúlù (mì-)
Z 88	*Chrysichthys brevibarbis* (Blgr.)	Obs.	230	mùùngúlù (mì-)
Z 89	*Gephyroglanis longipinnis* Blgr.	9146	96	mùùǹgúlù (mì-)
	CLARIIDAE (ヒレナマズ科)			ǸGÒLÀ (—)
Z 90	*Channallabes apus* (Gthr.)	9203	165	ǹkámbángòlà (—)
Z 91	*Clarias buthupogon* Sauv.	9155	270	ǹkéngé (—)
Z 92	*Clarias platycephalus* Blgr.	9207	138	kìmbúlì (bì-)
Z 93	*Clarias* sp.	Inf.	—	2 mùbúmbí (mì-)
Z 94	*Clarias* sp.	Inf.	—	1 ǹgòlà (—)
Z 95	?*Clarias* sp.	Inf.	—	—
Z 96	*Heterobranchus longifilis* Cuv. et Val.	Obs.	—	4 ǹsàmbà (—)
Z 97	do.	Obs.	ca 700	3 mòsàmbàòlà (mè-)
Z 98	do.	Inf.	—	2 ǹgòlà (—)
Z 99	do.	Inf.	—	1 kàòlàkànchíì (tò-)
	MALAPTERURIDAE (デンキナマズ科)			
Z 100	*Malapterurus electricus* (Gmel.)	Obs.	540	nyìnkì (—)
	MOCHOCIDAE (サカサナマズ科)			
Z 101	*Atopochilus guentheri* Schth.	9147	460	ǹkótò (—)
Z 102	*Synodontis* spp. of smaller size	Obs.	—	ǸJÌÍ (—)
Z 103	*Synodontis acanthomias* Blgr.	Obs.	360	m̀pùkúsú (—)
Z 104	*Synodontis alberti* Schth.	9177	76	káòmbélá-ǹsàmbà-lùkùmbí/ì̀lùngàmàndèlù (mà-)
Z 105	*Synodontis angelicus* Schth.	9215	151	mòpílí (mè-)/ ǹjìí-yí-mòpílí
Z 106	*Synodontis congicus* Poll	9128	105	ǹjìí-yí-máǹtóndì
Z 107	*Synodontis decorus* Blgr.	9126	112	ǹjìí-yí-mísùtálì
Z 108	*Synodontis dorsomaculatus* Poll	9144	82	ǹjìí-yí-ì̀tòkè
Z 109	*Synodontis greshoffi* Schth.	9188	70	ǹgàngà-mòélò
Z 110	do.	9189	60	ǹgàngà-m̀wílù
Z 111	*Synodontis ?katangae* Poll	Obs.	520	mòǹèmbá (mè-)/ kètòngétòngé-(bì-)
Z 112	*Synodontis pleurops* Blgr.	9127	109	ǹjìí (—)

表 6 つづき

Kuko 支族名 Kuko Names	Binja 支族名 Binja Names	共 通 語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁 法 Catch
—	—	—	D	40
—	—	—	E_3 m	33 50 52
2 kìbùwá (bì-)	kìbùwá (bì-)	kafeke	D m	30 35 46 51 52 53 58
1 ì̀tòkòtòkò (mà-)	—	—	A C	21 31 34
—	—	—	C_2	—
mùnùngú (mì-)	mùnùngú (mì-)	—	D	30 46 52 53
m̀pèngèlè (—)	m̀pèngèlè (—)	pengele		
—	—	karimba	E r	11 36 51
—	—	—	D E s r	11 33 35 36 46 51 52 53 58
—	—	—	D E s r	
—	—	—	D E s r	
—	—	—	D E s r	11 33 35 36 46 51 52 53
—	—	—	D E s r	
—	—	—	—	—
lùkámbá (ǹ-)	—	kambanyoka	C m	20 45
ì̀yòmbì̀ (màòmbì̀)	—	—	C	20 31 42 43 45
kìmbùúlì̀ (bì-)	—	—	C D E	20 31 32 35 36 43
—	—	—	C	30 43 50
ǹgòlà (—)	—	kambale	A C	20 21 35 42 43 44 45
lùkìndá (ǹ-)	—	—	C	45
2 ǹsàmbà (—)	2 sàmbà (—)	—	A D_1	36 47
1 mòsámbángòlà (mè-)	1 ì̀sàmbàngòlà (mà-)	—	A D_1	31 36 46 51
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
nyì̀kì̀ (—)	nyì̀kì̀ (—)	nyika (—)	D_2 F	30 36 46 58
—	—	koto	E r	10 51 52
ǹjìkí (—)	ì̀kóngó (mà-)	—	A D F s r	33 34 35 46 53 58
—	—	likatu/likukulumbi	D E s r	31 35 51 52 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	iyomvi	D E r r_2	11 31 35 51 53
—	—	—	D A s r	33 34 35 46 53

表 6 つづき

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Enya 支族名 Enya Names
Z 113	*Synodontis smithi* Blgr.	9132	110	kànkùlùnkùlù (tù-)
	SCHILBEIDAE (シルベ科)			
Z 114	*Eutropius* sp. ad.	Inf.	—	2 kàbị̀lì (tù-)
Z 115	*Eutropius* sp. juv.	Obs.	322	1 kàngélé (tò-)
Z 116	*Eutropius grenfelli* Blgr.	9148	139	1 kàngélé (tò-)
Z 117	*Schilbe mystus* (L.)	9149	235	ỉpèpélé (mà-)
Z 118	*Schilbe* sp.	9186	109	ỉpèpélé-chí-kàáchỉ
	CYPRINODONTIDAE (メダカ科)			
Z 119	*Epiplatys sexfasciatus multifasciatus* (Blgr.)	9160	38	mòtóngónyỉnkỉ (mè-)
	CHANNIDAE (タイワンドジョウ科)			
Z 120	*Ophicephalus obscurus* Gthr.	Inf.	—	2 kèmpòngò (bỉ-)
Z 121	do.	9154	220	1 mùbúndú (mì-)
	ANABANTIDAE (キノボリウオ科)			
Z 122	*Ctenopoma nanum* Gthr.	9208	41	—
Z 123	*Ctenopoma nigropannosus* Reich.	9200	87	kìsìlụ́ (bỉ-)
	CENTROPOMIDAE (アカメ科)			
Z 124	*Lates niloticus* (L.)	Obs.	370	2 m̀pàpá (—)
Z 125	do.	Inf.	—	1 m̀pàlàlàŋèmbè (—)
	CICHLIDAE (カワスズメ科)			
Z 126	*Hemichromis fasciatus* Ptrs.	9201	135	—
Z 127	?*Lamprologus* sp.	Inf.	—	mùwỉngìlí (mì-)
Z 128	*Nannochromis squamiceps* (Blgr.)	9213	48	—
Z 129	?*Tilapia* sp.	Inf.	—	kìtúndú (bỉ-)
Z 130	*Tylochromis lateralis* (Blgr.)	Obs.	—	2 m̀pàlàlà-yí-máǹkólỉ
Z 131	do.	9106	—	1 m̀pàlàlà (—)
Z 132	*Tylochromis ?lateralis* (Blgr.)	Obs.	225	kìtúndú-mpàlàlà
	MASTACEMBELIDAE (トゲウナギ科)			
Z 133	*Mastacembelus sclateri* Blgr.	9105	256	mùnkùmbà (mì-)
	TETRAODONTIDAE (フグ科)			
Z 134	*Tetraodon* sp.	Inf.	—	ǹtụ̀tụ̀ (—)

同定の基準: 9163 等は標本番号, Obs. は観察, Inf. は図鑑等による聞きこみ.
体　　長: Standard Length,
方名の前に 3, 2, 1 等の番号があるものは, それらがひと組の"出世魚"と見なされている
ハビタット: 表 4 の略号を使用.
漁　　法: 表 5 の略号を使用. 聞き込みと筆者の観察による.

は掌ほどになる.

Z 14 lòsèsè-lí-lùàlàbà (ǹsèsè-chí-lùàlàbà) "ザイール川のロセセ"という名前をもっている. 体長の割に目が大きい.

Z 15～Z 17→Z 13[9]

9) 矢印は"参照"の意.

Z 18 ǹtáỉ (—) ① Z 19 の大きくなったもので, 長さ 80 cm 以上, 体高も 25 cm 位になる. 魚食性である. ②釣りあげるとき丸太を引き抜くように抵抗なく釣れる. ③美味で, 骨まで食べることができる.

Z 19 mòmètè (mè-) ① Z 18 の小さいも

表 6 つづき

Kuko 支族名 Kuko Names	Binja 支族名 Binja Names	共 通 語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁 法 Catch
—	mùsúàngà (mì-)	—	D A s r	33 34 35 46 53
—	—	hongwe	E_1	32 35 51 52
—	—	—	D	32 58
—	—	mukelekeke	D	32 58
mùpéndákúlà (mì-)	—	pendakula	C D	31 33 34 53 56 58
—	—	—	C	20
mòtóngónyị̀kị̀ (mè-)	—	—	C	20
—	—	—	—	—
—	—	singa	A D m	21 30 31 46 47 48 52 53 58
kìùchí (bị̀-)	—	—	C	20 43
kìsìlú (bị̀)	kìsìlú (bị̀)	—	C D	20 34 43
kìsàngúlà (bị̀-)	—	—	D_1 E s m	36 46 51 52
—	—	—	D	46 53 58
kèkèlèlè (bị̀)	kìjùlá (bị̀-)	—	C	20
—	—	—	D_1	34 46
mòlàngàí̀kò (mè-) / mùàngàí̀kà (mì-)	—	—	C	20
—	—	—	D	—
—	—	—	D	58
—	kìkúsú (bị̀-)	kemembe	D_1 E m s	34 47 52 53 58
—	—	—	D m	47 58
mùkùmbà (mì-)	mùkùmbà (mì-)	munonga	D m	33 34 35
ǹtụ̀tụ̀ (—)	ǹtụ̀tụ̀ (—)	tutu	D m	30 46 48 51 53

ことを示す．数字が大きいほど上の生長段階．

ので，魚食性．

Z 20 mùnkùmbà-wá-lị̀là (mìnkùmbà-yá-lị̀là) “エリラ川のトゲウナギ (Z 133)” という名をもち，エリラ川に多いという．ビンジャ名は“口の短いカンボーボ”の意．① Z 19 に非常によく似た魚だが頭がより大きく短い．太さは腕ほど，長さ約 50 cm になる．② 6～10 月の減水期によく獲れる．

Z 21 mòmètè-wí-kàáchị̀ (mèmètè-yí-kàá-chị̀) ①“小川のモメテ”〔モメテ Z 19 より全体に黒っぽく寸づまりである．〕

Z 22 mùchí̀màsúngú (mì-) ①口が細く

て長い．口は lùkúúì (Z 9～Z 11) のように下に曲らず，まっすぐである．体高 30 cm 近くになる．MPÓTÒ の中では ntáì (Z 18) についで大きくなる．川岸の土の壁に穴を掘ってその中に入っている．③ Z 12 lòbébé のように美味．

Z 23 ìbíò (mà-) ① kìnchìmbí (深い淵) の底にすみ体高は掌2つ分ほどになる．

Z 24 lòsèsè-lí-kìbùngì (nsèsè-yí-kìbùngì)/ mùsìkàlùbùngì (mì-) ① "kìbùngì (霧) のロセセ" という名をもつ．体色が霧のように真白いからである．MÌPÓTÒ の中では最も小さい．岸辺の流れのゆるい所におり，捕えると「グフグフグフ」と鳴く．④ mùsìkà-lùbùngì は mòsèkà wàsìyà lùbùngì "霧が残していった乙女" の略である[10]．

Z 25, Z 26 lòsèsè-lí-kìsíbìlì (nsèsè-yí-bìsíbìlì) ① lòsèsè の中ではとくに小さく，下唇が全然突出していない．口が kìsíbìlì に似ている．〔kìsíbìlì (クコ支族方言で kàsíbìlì) とは齧歯目の哺乳動物ケインラット *Thrynomys* sp. のことである．〕

Z 27 ntàfù (—) ①掌2つほどの体高になる．③口の部分が脂こくて美味．

Z 28, Z 31, Z 39 kìbílà (bì-) 一つの名で呼ばれていた．小型のカラシン科のうち，比較的体高の大きいものを指す．もっとも多いのは Z 28 であった．①岸辺の水面近くにいる．②棹で釣るときには，浮きをつけて鉤が深く沈まないようにする．5, 6 月によく獲れる．

Z 29 mùmpúngú (mì-) ①岸辺の水面近くにいる．②米飯や油ヤシの果実で釣れる．5, 6 月に多い．f 56 の màkìlà-mí-mùmpúngú (mùmpúngú 用の小さい網) 漁で1度に 200 匹も獲れる．Kindu の市場では6匹1山で 2 ザイールもする[11]からもうけは大きい．③食べるとき小骨が喉にひっかかる．

Z 30 màndà-yí-kìbílà (màndà-yí-bìbílà)/ ìyúchà (màúchà) MÀNDÀ (→Z 33) の1種とされている．màndà-yí-kìbílà とは，"kìbílà (Z 28 など) のような小さい歯をもった MÀNDÀ" という意味だという．① MÀNDÀ の1種だが他の MÀNDÀ ほど大きくならない．③ Z 124, mpàpá のように頭に肉が多い．肉は Z 44, MÒKÀSÁ のように粉っぽくて美味．④この魚を食べているときに人に呼ばれたら，口を閉じたまま返事をしないと，粉が喉にひっかかって咳きこんでしまう．

Z 32 mwéngè (—) ②ザイール川沿いでは雨季の満水期に，f 47 kètétá 漁で獲れる．森林に居住する支族は，乾季に f 20 kò-élà 漁で獲る．③小骨が多い．

Z 33 MÀNDÀ (—) 包括名．Z 34～Z 37 の *Hydrocyonus* 属と Z 30 を含む．②乾季に，水面を流す網でよく獲れる．

Z 34 màndà-yí-mwéngè (—) ① mwéngè (Z 32) のような口をした MÀNDÀ．長くて白い．尻鰭の上半分が赤く，体高は 30 cm にもなる．最も大きい MÀNDÀ である．

Z 35 mbìngà (—) ① Z 35～Z 37 は同じ魚であるが生長するにつれて呼び名が変る〔と考えられている〕．大きくなるが，Z 34 ほどにはならない．②乾季に，夜間 f 55 sàlí 漁で獲る．

Z 36 màndà-yí-múmpúngú (màndà-yí-mímpúngú) ① "mùmpúngú (Z 29) のような MÀNDÀ"．水平に3本の縞がある．

Z 37 kàmàngámàngà (tù-) ①指ほどの小さい MÀNDÀ．②乾季，夜間に指1本半という目の細かい網を用いた f 56 màkìlà-mí-mùmpúngú 漁で獲る．

Z 38 lùsàlísàlí (n-) ①小川の小魚．kìbílà (Z 28, Z 31, Z 39) は白いがこれは黄色い．② kyònyá (樹上に丸い巣をつくる虫の幼虫) の餌を用いて釣る．

Z 39 →Z 28

Z 40 ìjùngí (mà-) ビンジャ支族方言．①サーディンにそっくりだが，背鰭が長い．③味も

10) mòsèkà が mùsìkà になっているのは lùbùngì との母音調和のためであろう．

11) 1979 年 12 月現在の価格．1980 年 1 月には，すべての魚は 1 山 1 ザイール (約 100 円) の公定価格となった．

缶詰のサーディンに似ている.

Z 41 →Z 6

Z 42 m̀bùlí (—) 英名を moonfish という. ① Z 43 の大きいものを指す. 最大のものは体高が 40 cm ほどになる. ② 9, 10 月によく獲れる. ③肉は Z 44 MÒKÀSÁ に似て美味. ⑥授乳中の女性はこれを食べてはならない. この禁を破ると子供が lùàmbù という, 肩で息をする病気になる.

Z 43 lùbúkù (m̀-) ① Z 42 の小さいものを指す. ②釣りでは獲れない. ③小さいうちは泥のにおいがして不味. ⑥授乳中の女性が食べることはタブーとされている.

Z 44 MÒKÀSÁ (MÈ-) *Distichodus* 属のすべての種 (Z 45～Z 53) を含む. ①鱗が鋭くよく網を破る魚. ②雨季の水位が最も高い時期によく獲れる. 体高が掌 2 つまでのものは 8～12 月によく獲れる. ③美味. ⑥肉が黄色いものを授乳中の女性が食べることはタブーである.

Z 45 ǹchṵ̀nà (—)/mòkàsá-wí-ǹchṵ̀nà (mèkàsá-yí-ǹchṵ̀nà) ① Z 46 の大きいもの. この魚が MÒKÀSÁ のなかでもっとも大きくなり, 体高は 60 cm に達する. ② 5, 6 月に獲れる. ⑥授乳中の女性が食べることはタブーとされる.

Z 46 kìmpùkùsù (bḭ̀-) ① Z 45 の小さいものを指す. 普通は岸辺の大型イネ科草本の繁みの中にいるが, 洪水のあとこの草が腐る 5 月にはその臭いをのがれて, 川の中央部に移る. 〔共通語 〈mukasa-wa-maganga〉 は, 〈maganga〉 というイネ科草本の繁みのモカサという意味である。〕 ③小さいときは 〈maganga〉 の臭いがして不味.

Z 47 kàkwémbè (tò-)/mòkàsá-wí-kàsìí (mèkàsá-yí-tùsìí) ① Z 47～Z 49 は同一の魚とされている. 川の中に沈んでいる木 (kìkátḭ̀) の下におり, 体高 30 cm ほどになる. ③脂が白く非常に美味. これを食べると胸がすーっとするという. ④しかし, 脂が多いので ǹdá (下痢) をおこすこともある.

Z 48 kàbúmbwá (tù-) ①体高が掌 2 つまでのものをこの名で呼ぶ.

Z 49 mòkàsá-mòélò (mèkàsá-mèélò) ①“白いモカサ”という意. 掌 1 つほどの大きさのものをこの名で呼ぶ. ②ミミズを餌にして釣る.

Z 50 mánchì (—)/mòkàsá-wí-kàlòmò (mèkàsá-yí-tòlòmò) ①体は大きいのに小さな口が下向きについているので kàlòmò (小さな口) という. 共通語で 〈mukasa-wa-cinq-minutes〉 と呼ぶのは, 水から揚げるとたった 5 分で死んでしまうという意味である. 岩に着く nyḭ́ngè (コケ) を食べる. ② 6～9 月の減水期, とくに 8 月によく獲れる.

Z 51 mùkùpì (mì-) ① Z 51 と Z 53 はよく似た模様をもっているが, Z 51 は口が細い. ②8 月によく獲れる. ⑥授乳中の女性が食べることはタブーである.

Z 52 mùlùngùsḭ̀ḭ̀bà (mì-)/mùlùngùchùmà (mì-) ①尻鰭が赤く, 体側に 3 列ほどの点々がある. ② 3～5 月によく獲れる. 小さい個体は f 53 chàcháchà 網漁で獲り, 5 月には f 48 mpṵ̀ndì 漁で獲る. まれに f 46 lòlékà 漁でも獲れる. ⑥授乳中の女性が食べることはタブーである.

Z 53 ŋèmbè (—) ①〈masamba〉 と共通語で呼んでいるのは, 布地で Z 51 と Z 53 の模様によく似たものがあり, それが 〈masamba〉 と呼ばれていたためであるという. ②8 月にたくさん獲れる. ⑥授乳中の女性が食べることはタブーである.

Z 54 lùúndḭ́ (m̀púndḭ́) ①この魚は“小川の小さな lùndàkálà (→Z 6, Z 41)”であるという. lùndàkálà と違うところは, 口に小さな棘〔歯〕がないこと, 体の中ほどに水平の黒いすじがあることである. 〔別のインフォーマントは, “小川の kìbílà” だといった.〕

Z 55 mùlùbí (mì-) ①“大きな 〈ndakala〉”である. 親指ぐらいにまでなる. 月の明るい夜明け方に, 虫を求めてザイール川を遡上するという. ② 3～10 尋の目の細かい網 (f 56) を岸辺

近くの水面に流し，9～3 月の間に獲る．③味は缶詰のサーディンに似る．クズウコン科の葉で ì̱kétà（包み焼き）にすると美味．⑥値段が高い．

Z 56 mùntítínfìì (mì-) ① mùmpúngú (Z 29) に似た指ほどの小魚．尾鰭が小さい．小さな木片のように堅く，肉も血もない．燻製にしなくても腐らない．②ごく稀な魚で，乾季に目の細かい網にかかることがある．③食べられない．⑤男性の精力剤になる．製法は，イネ科の ì̱sùngù-sùngù (*Echinochloa pyramidalis*) と雄の小犬の睾丸をこの魚に混ぜて焼き，その灰を kìyùngí (*Pistia stratiotes* サトイモ科) でつくる塩と混ぜ，下腹部とその背側に剃刀で切り傷をつけたところへすり込む．傷が治ると精力がつくといわれる．〔クコ支族の集落にこの魚の干物をもっている男がいて，1 匹 5 ザイールという高値で売るといっていた．〕

Z 57 mùtándá (mì-) ① mòlóngè (Z 59) に似ているが，より顔が短くてひげが長い．② 11～2 月によく獲れる．③燻製にすると非常に美味．その味は kìtìkà（甘いバナナ）のようだ．脂が多く mòkòkò（ヒツジ）の肉のようだ．

Z 58 m̀pòlóŋónì̱ (—) ①小川の m̀bélélú̱ (Z 60) だ．②ザイール川の水量が増えてくる 2, 3 月頃にごく稀に獲れる．③大変美味．

Z 59 mòlóngè (mè-) ① mùtándá (Z 57) の mùúnjò "叔父"．色は酷似するがひげがなく顔が細長い．② 11～2 月に獲れる．③脂が多くヒツジの肉のようだ．

Z 60 m̀bélélú̱ (—) ①ふくらはぎ大以上のものを指す．それ以下のものは Z 61 の名で呼ばれる．②年中，この仲間ではもっとも頻繁に獲れる．普通は流し網を用いるが，稀に炊いたキャッサバの団子を餌にすると釣れるという．〔表 6 に示した体長 670 mm の個体は，12 kg あった．〕

Z 61 mùnkú̱nchù̱ (mì-) ① Z 60 の小さいものを指す．

Z 62 ǹsí̱là-yí-lòchómbú̱ (—) Z 63 とともに ǸSÍ̱LÀ という包括名で呼ばれる．① "泥場の ǸSÍ̱LÀ" で，Z 63 の "叔父"．色は灰のように暗い．ザイール川にいるが，洪水時には小川に入ってくる．②あまり獲れない魚だが 6～8 月に獲れる．よく網を破る横着者だ．③脂がなく不味で栄養もない．

Z 63 ǹsí̱là-yí-lùngúlà (—) ① lùngúlà とはどういう意味かわからない．全体に Z 62 より白く，鰭が赤味を帯びている．② Z 62 と同じ．③ Z 62 と同じ．

Z 64 mòlàngànjàlà (mè-) ①名前の意味は "空腹を愛する者" である．きたないものを全然食べず，腹を開いても脂肪しか詰まっていない．② 8～4 月に獲れるが，10～2 月にとくに漁獲が多い．③味は m̀bélélú̱ (Z 60) に同じ．〔共通語名を〈mwarabu〉"アラブ人" というが，あるいはイスラム教のラマダン（断食月）の習慣と，この魚の食性とを結びつけたものかもしれない．〕

Z 65 kàmbùlùkùtù (tù-) ① "柔かくなるもの" という意味．クコ支族はインゲンマメを同じ名で呼んでいる．口は ǹkótò (Z 101) に似る．太もも大になるが，m̀bélélú̱ (Z 60) や ǹkùlùngú (Z 70) ほどには達しない．② 11～2 月に獲れる．③ m̀bélélú̱ (Z 60) や ǸSÍ̱LÀ (Z 62, Z 63) のような味だがひき肉のように柔かく美味．この魚は炊くと鱗までやわらかくなり，昔の人は鱗ごと食べた。ただし小さいうちは骨ばかりの魚だ．④魚の王様である．昔父親にこの魚をおいしく炊いてもっていくと，父親はいたく喜んで奴隷を 1 人くれたといったこともあった，それほど珍重された魚．

Z 66 mòsòmbò (mè-) ①白くて，平たく，短く，あまり大きくならない．② 6～9 月によく獲れる．③少し苦みがある．④共通語名は，Z 62, Z 63 と同じ〈sila〉である．Z 66 が成長して Z 62 や Z 63 になると昔の人は思ったのだ．

Z 67 kìkùngùlà (bì̱-) ① Z 68 の大きいもの．体高は掌 2 つ分ほどになる．

Z 68 kèmbèlàmà (bì̱-) ①掌 1 つ分ほどまでのものを指す．②あまり獲れない．

Z 69 mùúlì̱ (mì-) ① Z 66 に似た魚だが体高が低くて細長い．小さい魚だが，ザイール川

の真中を泳いでいる．kàmbùlùkùtù (Z 65) の mòtó "弟" である．② 5～10 月によく獲れる．f 53 chàcháchà 網でしか獲れないので，この網の導入以前には獲れなかった．③小骨が多く，細長くて堅く不味．⑥下流の Ubundu の急流の岩の多い所には，ふくらはぎ大の mùúlị̀ がいるという．

Z 70 ǹkùlùngú (—) ① m̀bélélụ́ (Z 60) の kìkángá (親類) だ．mòlàngànjàlà (Z 64) の "叔父" であるともいう．形は m̀bélélụ́ に，色は mòlàngànjàlà に似る．ǹkùlùngú と mòlàngànjàlà の関係は，mùtándá (Z 57) と mòlóngè (Z 59) の関係と同じだ．色が同じで，前者の方が大きくなるという共通点があるからである．② 10～2 月に稀に獲れる．

Z 71 ị̀tùlù (mà-) ①非常に大きくなり，鱗が大きいのが特徴．②稀にしか獲れない．③脂肪は油ヤシの実の核のように真白で美味．m̀bélélụ́ (Z 60) の味がする．④殺すとき，頭をたたくと全身が苦くなり食べられなくなる．

Z 72 kàpòépòé (tò-) ① Z 71 の小さいもの．岩のある川に多いが，大雨のときにはザイール本流にも出てくる．③ ị̀tùlù の味がする．〔Z 71, Z 72 は，キャッサバの芋を餌にした f 35 延縄漁で獲れるといい，*Labeo* 属ではなく，大型の *Barbus* 属かもしれない．〕

Z 73 mùnkwánkwà (mì-) ① MÀNDÀ (Z 33) に似るが歯が鋭くない．ゾウにつくような lùkwá (ǹ-) "ダニ"[12]が鰓蓋の中に 4, 5 匹もいることがある．体高は指 4 本分までになる．② 11～3 月にときどき獲れる．③頭には虫がいるので頭は切り取って捨てる．燻製にした物を煮ると MÀNDÀ や MÒKÀSÁ (Z 44) のようで美味．④ mòlòị̀ wá ǹfìí "魚の邪術師" である．なぜなら，この魚は他の魚の鱗を食べて生きている．鱗を食われた魚は遠からず死ぬ．漁で獲れる魚は注意深く見れば必らず鱗の一部が欠けている．それはこの mùnkwánkwà が食った跡なのだ．〔ヒレ食い (fin-eater) というこの魚の食性はよく知られていて，それを邪術に結びつけている点が興味深い．〕

Z 74 —— 〔Kindu の市場で買い求めたもの．方名は得られなかった。〕

Z 75 mùúkùlù (mì-) ビンジャ支族方言．

Z 76 kànyònị̀nfìí (tò-)/nyònị̀nfìí (—) ①羽をもつ魚で，姿がやや ǹjìí-yí-mòpị́lị́ (Z 105) に似ている．指 2 本ほどの太さになる．水面のすぐ下を波を立てながら泳ぎ，水面を 3, 4 m 飛ぶように見えるので，kànyònị́-ǹfìí "鳥魚" という名がついている．②非常に稀．10 年も見ないことがある．③食べない．④ ǹgwènà (—) (ワニ) や mòkésị́ ⟨chunuzi⟩ (人魚) のいる深い淵にいる．こういう淵には悪霊が住むといわれている．

Z 77 kìbùwá (bị̀-) ①顔が ǹgùlùbì (イノシシ) に似ている．体高がヒトの肩幅位になり，ǹkàmbà (Z 83) に迫る大きさである．泥場で泥を食べている．②年中獲れる．③脂肪は黄色く，大きな肉片がとれて美味．

Z 78 kàmpété (tò-) ① Z 77 の小さいもの．太もも大までのものを kàmpété と呼ぶ．

Z 79 ị̀kómbé (mà-) ① Z 77, Z 78 の小さいもの．太さが腕ほどまでのものを指す．

Z 80 ị̀kómbé-chí-mìsúlù (màkómbé-mí-mìsúlù) ①口は Z 79 ị̀kómbé のようだが，全体に淡色で，mùsúlù (川の口) にいる．kìbùwá の "叔父" だ．背鰭と胸鰭が mìkúwà (棘) になっており強い毒がある．②洪水時によく獲れる．③味は kìbùwá に同じ．

Z 81 mùnùngụ́ngòlà (mì-) ① mùnùngụ́ は "もどき" を意味するので，mùnùngụ́-ǹgòlà という名は "ǹgòlà (Z 94, Z 98 など) もどき" の意である．ǹgòlà の "叔父" である．成長しても腕より細い．小魚と泥を食べている．②年中獲れる．③燻製にしたのを炊くと美味だが，生のものを料理してもまずいので kàbólé (トウガラシ) を効かす．

12) これはダニではなく等脚目の *Ichthyoxenus expansus* Van Name である (Gosse, 1963, p. 186).

Z 82 M̀PÈNGÈLÈ (—) Z 83～Z 89 をこの包括名で呼んでいる.

Z 83 ǹkàmbà (—) ①ザイール川で一番大きくなる魚. 大きなものは体の幅が 50 cm に達する. Z 84～Z 86 が大きくなったものである. ② 6～12 月に獲れる. ③肉が多く, 非常に美味だが mòŋèmbá (Z 111) には及ばない. bàchụ̀ngú (白人) はこの魚の頭のスープを好む. ④この魚をたくさん獲る人は, 特別の呪薬を使うが, この呪薬を作るには人を殺す必要があると言われている.

Z 84 kèkòlụ̀ (bị-) /m̀pèngèlè-yí-kèkòlụ̀ (m̀pèngèlè-yí-bị̀kòlụ̀) M̀PÈNGÈLÈ のうちで体色の黒っぽいもの. kèkòlụ̀ という名前は kìkúlú "大きい岩が出ている急流" に多いためにつけられたのだという. 本当は m̀pèngelè-yí-kìkúlú と呼ばなければならないという. 岸辺の斜面にふくらはぎ大の穴を深く掘りその中にいる. この穴を kìbúmbá と呼ぶ. 大きくなったものを捕えると「ムームー」と鳴く. ② 8～11 月の減水期に, ǹdúbú (銛) をもって潜る f 11 kò-tòtá-né-ǹdúbú 漁で獲る. 一つの穴に普通 2 匹づつ入っているので, 1 匹獲ったら足の裏で穴を塞いであとの 1 匹も捕える. ③ M̀PÈNGÈLÈ の味はどれも同じで美味. ④ kìbúmbá の中の 2 匹は必ず雄と雌だという.

Z 85 ị̀bòlá (mà-) /m̀pèngèlè-yí-ị́bòlá (m̀pèngèlè-yí-màbòlá) ① mùtútú "へそ" のところが傷あとのように盛り上っている. 色は Z 84 同様暗色. ②漁法その他は Z 84 に同じ.

Z 86 m̀pèngèlè (—) ①あまり黒くなく, 頭の形が Z 84 のように平たくない. ②漁法その他は Z 84 に同じ.

Z 87, Z 88 mùùngúlù (mì-) ①大きくなっても ǹkàmbà (Z 83) にならない. 全体に細長く, 口が Z 84～Z 86 のように幅広くない. 砂地に多い. 昔は Tongomacho 集落の対岸にこの魚の穴 (bị̀búmbá-bí-mìùngúlù) がたくさんあったが, 大洪水でみんな壊れてしまった. ②漁法その他は Z 84 にほとんど同じ.

Z 89 mùùngúlù (mì-) Z 87, Z 88 と同じ方名で呼ばれているが 10 cm 程の小魚で属も異なる.

Z 90 ǹkámbángòlà (—) クコ支族では lùkámbá (ǹ-) と呼ぶ. ①紐のように細長い ǸGÒLÀ だ. 頭が ǸJÒKÀ (ヘビ) に似ている. ǹgòlà (Z 94) の "叔父" だ. ② 5～7 月の乾季に小川を掻い出して (f 20) 獲れる.

Z 91 ǹkéngé (—) ① ǸGÒLÀ の一つ. 棘に毒をもつので, 掻い出し漁 (f 20) のときなど, 素手でつかまないように気をつける. ③非常に美味. 〔クコ支族名 ị̀yòmbị̀ は, mòŋèmbá (Z 111) の共通語名 〈iyomvi〉 とほとんど同じである. 棘の鋭さという共通点はあるが全く別の魚である.〕

Z 92 kìmbúlị̀ (bị-) ①形は Z 91 と同じだが, 黄色い ǸGÒLÀ だ. 腕よりも太くなる.

Z 93 mùbúmbí (mì-) ①小川の ǸGÒLÀ 小さいときは ǹgòlà (Z 94) と呼ぶ. 腕ほどの太さになる.

Z 94 ǹgòlà (—) ① Z 93 の小さいもの.

Z 95 lùkìndá (ǹ-) クコ支族方言. ① lùkámbá (Z 90) に似るが, やや短小. 色もそれほど黒くない.

Z 96 ǹsàmbà (—) ① Z 97～Z 99 と同じ魚だ. ǸGÒLÀ 中最大で, 体の幅が 50 cm 以上になる. 水位が最高になる時期に湿地に入ってゆく. ②水位の変動期に獲れる. ③大変美味. 皮は柔らかく, kànyéké (脂鰭) には脂がのっている. 頭の中央は石のように堅いが両側には肉があり, 腹には黄色い脂肪がある. ị̀kétà (包み焼き) にしたら 〈machafu inakufa〉 "ほっぺたがおちるほど" 美味. 女も喜んで食べる. ⑥ Kusu 族はこの魚を食べない. もし食べると, 中風のように体の自由がきかなくなるという. 燻製にすると油が抜けて小さくなるので, 生で売らないと損をする.

Z 97 mòsàmbàòlà (mè-) ① Z 96 の小さい段階で, 太もも大までのもの. ②以下は Z 96 に同じ. 〔mò-sàmbà-òlà という名称はこの魚が ǹsàmbà (Z 96) と ǹgòlà (Z 98) の中間に位置

することを表わしていると考えられる.〕

Z 98 ǹgòlà (—) ① Z 96, Z 97 の小さい段階で，ふくらはぎ大までのもの．名前が Z 94 と同じだが，Z 98 は小さいときから kànyéké (脂鰭) があることで Z 94 と区別される.

Z 99 kàòlàkànchíì (tò-)/kàòlàkànchíì-mbé-kàbókò (tòòlàtònchíì-mbé-tòbókò) ① Z 96, Z 97, Z 98 の小さい段階で，腕大までのもの．mbé-kàbókò とは“腕のような”という意味である.

Z 100 nyìnkì (—) デンキナマズ① ìsé-ngò (岸辺の藪) の下にいる．電気をもっていて，川の中でやられると危険だ．ワニでも殺してしまう．②釣りで獲れることが多い．f 58 bìkútú 網にかかった魚を食べて，吐きもどすことができず，そのまま網にかかっていることがある．③非常に美味．軟らかい皮を獣の皮のように剝ぎ，普通肉だけを食べるが，皮も燻製にすると獣の肉のようになる．昔は皮ごと炊いて食べた．nyùngú (土鍋) に ìbùngú (クズウコン科の大きな葉) を一枚敷いて，その上にデンキナマズを入れ，ほんの少しの水と沢山のヤシ油でゆっくり炊くのだという．皮はすっかり溶けて粘いヤシ油色になる．アルミ鍋で炊いては水っぽくて駄目だ．⑤皮と身との間に mòntè (血管) と呼ばれるすじがある．これをはずして，ある草と混ぜ燃やして灰をつくり，体に剃刀で傷をつけ瀉血してこの灰をすり込むと体に力がつき，戦いの時にたとえ 10 人の敵に捕えられても一撃で倒すことができるという．⑥ワゲーニャの魚だ.

Z 101 ǹkótò (—) ①急流にいて，川底の岩につく nyíngè (苔) を食べている．口が ǹgù-lùbì (イノシシ) のようだ．肉は牛肉のように赤く，mùsìí (血) は人の血のようだ．② 7～9 月の乾季に稀に獲れる．口で岩にはりついているのを潜って行って引き剝がすが，無理に引くと口がちぎれてしまう．③ザイール川のどの魚よりも美味．包み焼きにするとこの上なくうまい．料理するとき màlù-mí-màánjì (ヤシ酒) を入れるとそれがヤシ油のようになる．⑥ワゲーニャの魚だ.

Z 102 ǸJÌÍ (—) *Synodontis* 属のうち，大型の Z 103 と Z 111 以外は ǸJÌÍ という包括名をもっている．①鋭い毒棘 (mìkúwà) を 3 本もつ．獲ったらすぐこの棘を折っておかないと危険．たくさん獲れたときは kàngándà (網漁の筒状の錘り) の穴に棘を差し込んで折ると手にけがをしない．②年中獲れるが満水期に水没した森の中に入ってゆくのでこの時期は f 58 bìkútú 網によくかかる.

Z 103 m̀pùkúsú (—) ① mòŋèmbá (Z 111) ほど大きくならない．棘の毒は Z 111 よりも強い．足を刺されて腫れ上り，1 カ月も歩けないことがある．②ザイール川の満水期には獲れないが水位の変動期によく獲れる．③肉は ǸKÍ-MÀ (サル) の肉のように脂肪がない．皮はデンキナマズ (Z 100) のように柔らかい．Z 111 ほど美味ではない.

Z 104 káòmbélá-ǹsàmbà-lùkùmbí (tó-)/ìlùngàmàndèlù (mà-) ①この長い名前は“ǹsàmbà (Z 96) に lùkùmbí (タムタム) をたたいてやる小さなもの”という意味で，2 番目の名前は“長いひげ”という意味だ．長い kàmòè-mòè (ひげ) をもち ǹsàmbà (Z 96) のようだし，体形が lùkùmbí に似ているからついた名前かもしれない．③小さく，不味．ほかに食べ物がないときしか食べない.

Z 105 mòpílí (mè-)/ǹjìí-yí-mòpílí (ǹjìí-yí-mèpílí) ①体が少し長い ǸJÌÍ．色は真っ黒く，黄色い模様がある．③苦味があり不味．⑥授乳中の女性がこれを食べることはタブー．禁をおかすと子供が lùàmbù という病気になる．〔lùàmbù については Z 42 ⑥ を参照.〕

Z 106 ǹjìí-yí-máǹtóndì ①体側に丸い模様が 2～4 個ある ǸJÌÍ．この模様のことを，màntóndì と呼ぶ．成長するにつれて模様が増える．〔ザイール川に近い小川でかい出し漁 (f 20) をしたとき，Z 28 kìbílà とともにこの魚が多く獲れた.〕

Z 107 ǹjìí-yí-mísùtálì (—) ①体に水平平な模様がある ǸJÌÍ．〔mìsùtálì はおそらくス

ワヒリ語の〈mistari〉である．“筋”という意味である．〕

Z 108 ǹjìí-yí-ị̀tòkè (ǹjìí-yí-màtòkè) ① 体中に細かい斑点がある ǸJÌÍ.

Z 109, 100 は ǸGÀNGÀ (—) という包括名をもつ．ǸJÌÍ-YÍ-NGÀNGÀ とも呼ばれる．① ǸGÀNGÀ とは呪術医のことで，この魚は魚の世界の呪術医である．

Z 109 ǹgàngà-mòélò (ǹgàngà-mèélò) ①“白い ǸGÀNGÀ”という意味だ．

Z 110 ǹgàngà-m̀wí̧lù (—) ①“黒い ǸGÀNGÀ”という意味だ．〔標本は Z 109 の方が Z 110 よりやや明るい色をしていたが，同定の結果は同種であった．〕

Z 111 mòŋèmbá (mè-)/kètòngétòngé (bị̀-) ①キンドゥより上流に住む人々が kètòngétòngé と呼ぶ．棘の毒は m̀pùkúsú (Z 103) ほど強くない．刺された足を湯につけて暖め，塩をぬって布で巻いておくと2日で治癒する．②満水期以外に獲れ，11～12 月に多い．③非常に美味．皮が柔らかく，口のまわりに脂が多い．byàáŋàngú (エラ) もうまい．⑥この魚を炊いた汁にはのどをやわらげる力がある．咳が出るときにこの汁を2回も飲めばすっかり治ってしまう．

Z 112 ǹjìí (—) ①一番多い ǸJÌÍ だ．

Z 113 kànkùlùnkùlù (tù-) ①えび茶色の魚．脂鰭が長く大きい．

Z 114 kàbị́lì (tù-) ① Z 115 の大きいもの．体高が掌2つ分近くになる．体色は白っぽい．月夜に水面近くを泳ぐ．この習性は，Z 114～Z 117 のすべてがもっている．②川の水位が中くらいのときによく獲れる．釣りの餌はキャッサバの芋団子，魚，ミミズのいずれも釣れる．③白人が好む魚だ．非常に美味．肉は砂糖のように甘く，脂肪には塩気がある．骨は真ん中の1本だけである．このスープは甘く，米飯によくあう．⑥脂が多いので燻製にしても乾かない．

Z 115, Z 116 kàngélé (tò-) ① Z 114 の幼魚で，体高が指幅3本分位までのもの．〔Z 115 と Z 116 は別種である．〕

Z 117 ị̀pèpélé (mà-) ① Z 114～Z 116 に比べて体色が暗く，口の幅が広い．尻鰭が下向きに曲っている．体高は指幅 3 本位になる．tùbí̧ (糞) を食べる魚だ．②中位の水位のときによく獲れる．〔共通語名の〈pendakula〉は“食べることを好む”という意味である．〕

Z 118 ị̀pèpélé-chí-kàáchị̀ (màpèpélé-mí-tùáchị̀) ①小川の ị̀pèpélé (Z 117) の意味．〔小型で細かい斑点をもつ．〕

Z 119 mòtóngónyị̀nkị̀ (mè-) メダカ．①小川の小魚．頭に白い点がある．役立たずの魚で，食べるところもない．“陸地”の人は，かい出し漁でたくさん獲れれば食べる．

Z 120 kèmpòngò (bị̀-) ① Z 121 の大きいもの．kèmpòngò とはオンボ語でキャッサバのことだ．③美味，肉が真白で粉っぽい．それでこの名がついたという．

Z 121 mùbúndú (mì-) ①ふくらはぎ大までのものを指す．② 6～10 月の乾季に獲れる．③包み焼きにすると美味．④人によってはこの魚を食べると全身にこの魚にあるような模様の kìlímbị̀ (bị̀-) (吹き出もの) が出る．この病気を kàtíndí と呼ぶ．

Z 122 kìùchí̧ (bị̀-) クコ支族方言．①小川の小魚．

Z 123 kìsìlú̧ (bị̀-) ①小川の小魚．乾季にはザイール川の川辺に出てくる．②骨ばかりの魚．〔クコ支族では，kìsìlú̧ に黒いものと赤味がかったものの2種類があると聞いた．掻い出し漁ではもっとも多量に獲れる魚で，kò-sòngòlà (串ざし) にして丸く連らねたものを燻製にして売ることもある．クコ支族にとってきわめて大切な魚である．〕

Z 124 m̀pàpá (—) Nile perch. ①大変大きくなる．魚食性．③肉は白く，kèlèbé (ミズマメジカ) の肉に似る．⑥授乳中の女性が食べることはタブー．

Z 125 m̀pàlàlàŋèmbè (—) ① Z 124 の小さいもので，体高が掌2つ大までのもの．④誰も Z 124, Z 125 の卵を見たものがない．そこで昔の

人は味のよく似た m̀pàlàlà (Z 131) がこれを生むと考えてこういう名をつけた．⑥授乳中の女性にとって食べることはタブー．〔ŋèmbè はコケビラメ科の魚 (Z 53) であるが，それとの関連についての言及はなかった．〕

Z 126 kèkèlèlè (bị-) クコ支族方言．①小川の小魚．大きくなるのは斑点が2つで頬が赤い．②釣りでは獲れない．

Z 127 mùwíngìlí (mìíngìlí) ① kìsìlụ́ (Z 123) に似るが，親指大で短小．②めったに獲れない．

Z 128 mòlàngàíkò (mè-)/mùàngàíkà (mì) クコ支族方言．①小川の小魚．たくさん群れているのでかい出し漁で簡単に獲れる．ジグザグを画きながら泳ぐ．

Z 129 kìtúndú (bí-) ① kìsìlụ́ (Z 123) に似るが，掌大になる．m̀pàlàlà (Z 131) の黒いものだ．

Z 130 m̀pàlàlà-yí-máǹkólì (—) ① Z 131 の大きくなったもの．最大で体高は掌2つ大になる．鰓蓋の縁が赤い．2匹づつ一緒に泳ぐ習性がある．口を使って喧嘩をすることがあり ìtàngà (たも網) ですくって2匹とも獲ることができる．〔そのほかの特徴は Z 131 参照．〕

Z 131 m̀pàlàlà (—) ①全体に白っぽい魚．普通は岸辺近くにいるが，7月には川の中ほどの砂地に移動する．②水位の変動時によく刺し網 (f 58) にかかる．③味は m̀pàlàlàŋèmbè (Z 125) に似る．〔Z 131 が Z 130 になるのは，単に大きさの差によってでなく，婚姻色が出たものが Z 131 であるとも考えられるが，季節による体色の変化についての言及はなかった．〕

Z 132 kìtúndú-mpàlàlà (bì-) ① m̀pàlàlà のやや暗色のもの．kìtúndú (Z 129) と m̀pàlàlà (Z 131) の中間の魚だ．〔観察によれば，頭部の緑色が強く，尻鰭に斑点をもつ個体であった。〕

Z 133 mùnkùmbà (mì-) トゲウナギ．①背中に小さなトゲが並んでいる．②6～10月によく獲れる．頭が小さいので網漁ではとれず，もっぱら釣る．③包み焼きにすると美味．

Z 134 ǹtụ̀tụ̀ (—) フグ．①人間のように笑い，ふくれる魚で，歯があり，人の歯や kìsíbìlì (ケインラット) の歯に似ている．②あまり獲れないが 2～6 月に獲れることがある．③臭く不味．皮はゾウのようだ．食べるときには，皮を剝ぎ，燻製にしてから料理する．④この魚を食べると mùpìtù (不運) になり，水に落ちれば死んでしまう．⑤皮を燻製にして薬にする．剃刀で体に傷をつけてこの薬をすり込むと，刀で刺されても刀がとおらない体になる．1958 年まで白人に鞭で打たれてきたが，鞭で打たれても傷つかないための薬として利用された．⑥食べることはタブーであるという老人もいるが，食べるという人も多い．しかし kàlìmù (肝臓) はけっして食べない．

2.4. 魚類の民俗分類 (ソンゴーラ族・エニャ支族)

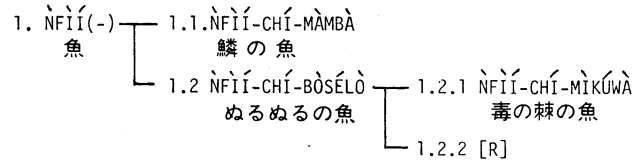
2.3 節で述べてきた，住民の魚類に関する認知は，果してどのように体系づけられているのだろうか．ソンゴーラ族エニャ支族の魚類に対する民俗分類のありようを見てゆきたい (図 5)．

ここで図5の表記法についていくつかの約束をしておかなければならない．これらはすべて，ソンゴーラ族自身のもっている体系を忠実に表わすためのものである．1) 包括名 (他の方名を包摂する方名．さまざまの段階がある．) を大文字で表わし，他の方名を包摂することのない方名 (個別名) を小文字で表わす．2) 包括名でも個別名でもないレキシームは ( ) に包んで表記する[13]．3) 方名がついていないがフォーク・カテゴリーと認められるカヴァート・カテゴリーは〔 〕に入れて示す．ここでは，“～ではない”という点でひとつにくくられている “residual category” (Hunn 1977, p. 79-80) と，生長段階によって方名が変

13) たとえば lòsèsè と lòsèsè-lí-kìsíbìlì という2つの魚があるときこの2つに共通なレキシーム “lòsèsè” を取り出すことができるが，実際には後者を単に “lòsèsè” と呼ぶことはない．即ち後者を含む包括名 LÒSÈSÈ が存在しないことになる．それで図5の 1.1 に示すようにかっこつきで (lòsèsè) と表記されている．

図 5 魚類の民俗分類——ソンゴーラ族エニャ支族の場合

[個別名は小文字で，包括名は大文字で表わす．/ はシノニムを表わす．[L.S.] はいわゆる“出世魚”で，数字が大きいほど，成長段階が上である．(lòsèsè) などについては本文を参照]



包括名			個別名	表6の参照番号	表3の科番号
1.1	MÀNDÀ(-)	[L.S.]	3 m̀bìngà(-)	Z36	06
			2 màndà-yí-mùmpúngú	Z37	06
			1 kàmàngámàngà(tù-)	Z38	06
			màndà-yí-kìbílà	Z31	06
			màndà-yí-m̀wéngè	Z34	06
	MÒKÀSÁ(MÈ-)	[L.S.]	3 kàkwémbè(tò-)/ mòkàsá-wí-kàsìí	Z47	07
			2 kàbúmbwá(tù-)	Z48	07
			1 mòkàsá-mòélò	Z49	07
		[L.S.]	2 ǹchùnà(-)/ mòkàsá-wí-ǹchùnà	Z45	07
			1 kìmpùkùsù(bì-)	Z46	07
			mánchì(-)/ mòkàsá-wí-kàlòmò	Z50	07
			mùkùpì(mì-)	Z51	07
			mùlùngùsìbà(mì-)/ mùlùngùchùmà(mì-)	Z52	07
			ŋèmbè(-)	Z53	07
	MPÓTÒ(-)/ MÙPÓTÒ(MÌ-)	(lòsèsè)	lòsèsè(ǹ-)	Z13 Z15 Z16 Z17	05
			lòsèsè-lí-kìbùngì	Z24	05
			lòsèsè-lí-kìsíbìlì	Z25 26	05
			lòsèsè-lí-lwàlàbà	Z14	05
		(mòmètè) [L.S.]	2 ǹtáì(-)	Z18	05
			1 mòmètè(mè-)	Z19	05
			mòmètè-wí-kàáchì	Z21	05
			ìbíò(mà-)	Z23	05
			lòbébé(m̀-)	Z12	05
			lùkúúì(ǹ-)	Z9 Z10 Z11	05
			mùchìmàsúngú(mì-)	Z22	05
			mùnkùmbàwálìlà(mì-)	Z20	05
			ǹtàfù(-)	Z27	05
	[L.S.]		2 ìtùlù(mà-)	Z71	08
			1 kàpòépòé(tò-)	Z72	08
	[L.S.]		2 kìkùngùlà(bì-)	Z67	08
			1 kèmbèlàmà(bì-)	Z68	08
	[L.S.]		2 kèmpòngò(bì-)	Z120	17
			1 mùbúndú(mì-)	Z121	17

図 5—2

	[L.S.]	2	mùkúngá(mì-)	Z3	02
		1	kàpàndàmʊ́kòmbè(tò-)/ mòkòmbè(mè-)	Z4	02
	[L.S.]	2	m̀bùlí(-)	Z42	07
		1	lùbúkù(m̀-)	Z43	07
	[L.S.]	2	m̀bélélʊ́(-)	Z60	08
		1	mùnkʊ́nchʊ̀(mì-)	Z61	08
(m̀pàlàlà and/ or kìtúndú)	[L.S.]	2	m̀pàlàlà-yí-mánkólì	Z130	20
		1	m̀pàlàlà(-)	Z131	20
			kìtúndúmpàlàlà(bì-)	Z132	20
			kìtúndú(bì-)	Z129	20
	[L.S.]	2	m̀pàpá(-)	Z124	19
		1	m̀pàlàlàŋèmbé(-)	Z125	19
	ǸSÍLÀ(-)		ǹsílà-yí-lòchómbʊ́	Z62	08
			ǹsílà-yí-lùngúlà	Z63	08
	(ǹfìí)		kànyònìnfìí(tò-)/ nyònìnfìí(-)	Z76	10
			mùntítínfìì(-)	Z56	08
			kàmbùlùkùtù(tù-)	Z65	08
			kìbílà(bì-)	Z28 Z31 Z39	06
			kìsìlú(bì-)	Z123	18
			lùkùmbì(ǹ-)	Z8	04
			lùndàkálà(ǹ-)	Z6	03
				Z41	06
			lùúndí(m̀púndí)	Z54	08
			mùnkwánkwà(mì-)	Z73	09
			mòlàngànjàlà(mè-)	Z64	08
			mòlóngè(mè-)	Z59	08
			mùlùbí(mì-)	Z55	08
			mòsòmbò(mè-)	Z66	08
			mùtándá(mì-)	Z57	08
			mòtóngónyìnkì(mè-)	Z119	16
			mʊ̀úlì(mi-)	Z69	08
			mʊ̀wíngìlí(mì-)	Z127	20
			m̀wéngè(-)	Z32	06
			ǹkùlùngù(-)	Z70	08

1.2.1	ǸJÌÍ(-)	ǸGÀNGÀ(-)	ǹgàngà-mòélò	Z109	14
			ǹgàngà-m̀wílù	Z110	14
			ǹjìí(-)	Z112	14
			ǹjìí-yí-ìtòkè	Z108	14
			ǹjìí-yí-mísʊ̀tálì	Z107	14
			ǹjìí-yí-mòpílí/ mòpílí(mè-)	Z105	14
			kànkùlùnkùlù(tù-)	Z113	14

図 5—3

				káòmbélá-ǹsàmbà-lùkùmbí/ ìlùngàmàndèlù(mà-)	Z104	14
	MPÈNGÈLÈ(-)	[L.S.]	2	ǹkàmbà(-)	Z83	11
			1	kèkòlú(bì-)/ mpèngèlè-yí-kèkòlú	Z84	11
			1	ìbòlá(mà-)/ mpèngèlè-yí-íbòlá	Z85	11
			1	mpèngèlè(-)	Z86	11
				mùùngúlù(mì-)	Z87 Z88	11
					Z89	11
	(ìkómbé)	[L.S.]	3	kìbùwá(bì-)	Z77	11
			2	kàmpété(tò-)	Z78	11
			1	ìkómbé(mà-)	Z79	11
				ìkómbé-chí-mìsúlù	Z80	11
				mòŋèmbà(mè-)/ kètòngétòngé(bì-)	Z111	14
				mpùkúsú(-)	Z103	14
1.2.2	NGÒLÀ(-)/ (òlà)	[L.S.]	2	mùbúmbí(mì-)	Z93	12
			1	ŋgòlà(-)	Z94	12
		[L.S.]	4	ǹsàmbà(-)	Z96	12
			3	mòsàmbàòlà(mè-)	Z97	12
			2	ŋgòlà(-)	Z98	12
			1	kàòlàkànchíì(tò-)/ kàòlàkànchíì-mbé-kàbókò	Z99	12
				ǹkámbángòlà(-)	Z90	12
				mùnùngúngòlà(mì-)	Z81	11
				ǹkéngé(-)	Z91	12
				kìmbúlì(bì-)	Z92	12
	(ìpèpélé)			ìpèpélé(mà-)	Z117	15
				ìpèpélé-chí-kàáchì	Z118	15
		[L.S.]	2	kàbílí(tù-)	Z114	15
			1	kàngélé(tò-)	Z115 Z116	15
		[L.S.]	2	kìbúbà(bì-)	Z1	01
			1	ǹsembé(-)	Z2	01
				mùnkùmbà(mì-)	Z133	21
				ǹkótò(-)	Z101	14
				ǹtùtù(-)	Z134	22
				nyìnkì(-)	Z100	13

るが“ひとつの魚”とみなされているいわゆる“出世魚”の2種類だけを，〔R〕，〔L.S.〕の記号のもとに表示する．L.S.とは生長段階 Life-cycle Stage の略である．

エニャ支族は ŃFÌÍ（魚）（民俗分類における第0レヴェル）[14] を ŃFÌÍ-CHÍ-MÀMBÀ（鱗の魚）と ŃFÌÍ-CHÍ-BÒSÉLÒ（ぬるぬるの魚）に分けている（第1レヴェル）．後者の中には ŃFÌÍ-CHÍ-MÌKÚWÀ（三本の毒棘をもつ魚）が認められている（第2レヴェル）．第3レヴェル以下には MÀNDÀ, MÒKÀSÁ 等8つの包括名があり，そのうち，ŃGÀNGÀ が ŃJÌÍ に包摂されている．したがってエニャ支族の魚類の民俗分類は，通常5レヴェル．最大で6レヴェルから成るということになる．“出世魚”は全部で18の系列があり，43の方名を含む．そのうち4つの段階をもつものが3組9方名，2段階のものが14組30方名（1.2.1の ǹkàmbà は小さいうちは3つに分けられているが，成長すると一つの名前になるとされているため）であった．43の方名は全個別名108（シノニムを除く）の約40%に相当する．

表6に Z 1 から Z 134 までソンゴーラ族の方名と魚種の対応関係を示した．このうち包括名とエニャ以外の支族でのみ知られているもの計13例を除いた121例について，個別名と魚種との対応のあり方を見よう．実際に採集または観察できなかったものがあったが，それらの多くは“出世魚”に属する方名に対応すべき種であった．そこで“出世魚”系列中の方名 a が同定できなかった場合は，同じ系列に属する他の方名 b の対応する種を a の魚種と推定することにする．このような操作によって，前記121例は少なくとも96の魚種に対応していることになる．個別名と魚種が1対1で対応していた例が59（59個別名59種），1対多になっていた例が17（6個別名17種），多対1になっていた例が36（36個別名16種），多対多になっていた例が9（7個別名4種）であった．多対多というのは，異なる魚の成長段階に同一方名が当てられている例（Z 93, 94 と Z 96～99）のように，個別名と魚種が網目のように対応している場合である．エニャ支族では108の個別名を96の魚種に対応させているということになる．

クコ支族の魚類の民俗分類では，KÈSÓKÓ というただ一つの包括名の下に38の個別名があり，民俗分類の体系は2レヴェルからなっている．“出世魚”は2系列あり，4つの個別名がこれに属していた．

3. タンガニイカ湖における魚類の認知——ブワリ族を中心に

3.1. 環境の認知

3.1.1. 人間の生活環境

ブワリ族は彼らが居住する環境を大きく kìbàlò（陸地）と lùújì（湖）に分けている．kìbàlò には múà（集落）がある．集落の後方は若干の lìmà（焼畑）があり，m̀wítù（森林）が斜面を覆っている．森林の主要構成種は kìshíkú, m̀bámá 等の *Brachystegia* 属の樹種である．斜面を標高400 m ほど登ると kàbànà“平原”が広がっている．ブワリ族は2，3世代前にはこの平原に集落をつくって居住していたという．平原を横切れば半島の反対側に出ることができる．現在の集落は m̀fúkúfúkú wé màájì（波打ち際）から100 m 以上離れた場所に位置している．集落の前方は m̀wèà（舟付き場）になっている．舟付き場をも含めた水辺を広く búà と呼び，砂を敷きつめた lùbúà（m̀-）“ダガー干し場”が並んでいる．

3.1.2. 魚の生息地（ハビタット）

魚類は lùújì（湖），m̀wèlà（川），kìjìbà（湿地）に生息している．湖は kù-búà[15]（水辺）と，kù-m̀wèjì（沖）に分けられる．水辺には細かい名称がある．m̀tààngà（浅瀬）は，傾斜が緩かな遠浅の場所で，底質は m̀sékè（砂）であることが多い．kàlíŋí（深み）は，急に落ち込んで深くなっている所で，底は普通 màbwè（岩）である．河

14) Berlin *et al.* (1974, p. 26) の“Unique beginner”である．松井（1978, p. 22）はこれだけを「包括名」と呼んでいるが，本報の用法とは異なる．

15) ku- は“～において”という意味をもつ接頭辞．

口等の泥が多い場所は，fáshì yé ǹdàkà (泥場) と呼ばれる．イネ科の màkàngà (*Vossia* sp.) が生えている所は màkàngà と呼ばれる．岸辺に岩が沢山ころがっている場所は màkángálá という．水の表層は màájì màsé màsé (少ない水)，中層は màájì mé bùkúlú (中間の水)，下層は màájì mé mùshí (下の水) と表現される．

魚類の生息地に関する民俗知識を表7にまとめて示す．

3.1.3. 季節変化

一年は bùzòò (雨季) と m̀wángá (乾季) の2つの mèŋú (季節) に分けられる．雨季は10月に始まり，1月にやや雨量が減るが，雨季の終りの4月頃に降雨はピークを迎える．この時期には大変寒く感じるという．湖の水量も増え，波打ち際が，距離にして 10 m 以上移動する．乾季は5～9月である．雨季が始まる9月から10月初旬の時期をとくに lèmbà と呼ぶこともある．落葉していた森の木が若葉をつける時期である．

なぎを bòŋé と呼んでいるが，mwèlà (風) は季節，昼夜，方向，強さ等によって分けた7方名がえられた．そのうち，漁撈活動ができないほど激しい風が二つあった．その一つは ŋùnzà で，雨季の始めに湖の北端のルジジ川から間欠的に吹く強風．いま一つは ànzà で乾季の夕方に西から休みなく吹く風．また1月には，風は弱いのに対岸のルエバ川の方からボートをひっくり返すような大波が来る．これを kìvúmà と呼ぶ．

表 7 タンガニイカ湖における魚類のハビタットの民俗知識——ブワリ族の場合．

略号	Bwari 語	説 明
G	kìjìbà (bì-)	湿 地．
H	m̀wèlà (mèèlà)	川．
H_1	àbùì-né-m̀wèlà	河 口 域．
I	m̀tààngà (mì-)	浅瀬．傾斜が緩い所．
I_1	m̀sékè (—)	砂地の所．
I_2	màkàngà (—)	イネ科のやぶ (*Vossia* 属)
J	kàlíŋí (tù-)	深み．岩場で傾斜が強い．
J_1	màájì-màsémàsé	水の表面近く．
J_2	màájì-mé-bùkúlú	中層．
J_3	màájì-mé-kùshí	底．
K	m̀wèjì (—)	湖の沖あい．

表 8 ブワリ族の漁法

略号	Bwari 語	説 明
f 60	MÀÈLÀ (—)	釣り一般．
f 61	m̀tándò (mì-)	底釣りその 1．
f 62	m̀tándò-wé-ǹdúbú	底釣りその 2．カワスズメ科の ǹdúbú 獲り．
f 63	kàléngé (tù-)	棹釣り．
f 64	màèlà-mé-mìkèké	擬似鉤その 1．アカメ科の m̀kèké 獲り．
f 65	mèlèmétà (—)	擬似鉤その 2．
f 66	kàbàmbà (tù-)	延縄その 1．
f 67	mòòjí (mì-)	延縄その 2．
f 68	kìnàndà (bì-)	延縄その 3．
f 70	MÒÒNÒ (MÌ-)	うけ一般．
f 71	mòònò (mì-)	うけ．
f 80	—	網およびそれに類するもの．
f 81	mùkábà (mì-)	刺網その 1．
f 82	bùkìlà (mà-)	刺網その 2．
f 83	kàsàngálà (tù-)	地引網その 1．網目粗．
f 84	m̀kwábó-wé-nzàngà	地引網その 2．ダガー獲り．
f 85	m̀kwábó (mì-)	地引網その 3．ダガー以外の魚を獲る．
f 86	ǹgózò (—)	たも網その 1．伝統的ダガー漁．
f 87	kìpé (—)	たも網その 2．
f 88	kù-kwátà-né-m̀wéndà	布きれですくう．

3.2. 漁 法

ブワリ族の漁法を表8にまとめて示す．

f 60 màèlà 釣りないし釣針そのもの．f 61～f 68 の8種類があった．

f 61 m̀tándò 沖で昼ごろおこなう舟からの釣り．chàmò (餌) にはダガーを用いる．

f 62 m̀tándò-wé-ǹdúbú 底が岩場になった深みに舟を出して早朝におこなう釣り．主に ǹdúbú というカワスズメ科の魚が獲れるので m̀tándò-wé-ǹdúbú と呼ぶ．

f 63 kàléngé "棹釣り"．イネ科の màléngé (*Phragmites* sp.) の茎を棹として用いる釣り．子供がイネ科草本の繁みめがけて鉤を投げ，カワスズメ科の小魚を獲っているのをよく見かけた．

f 64 màèlà-mé-mìkèké m̀kèké というアカメ科の 30 cm ほどの魚を釣る方法だが現在

では用いられていない．長さ 20 cm の釣り糸を棒につけ，かえしのない二重鉤 (double-hook) の上方に白い布またはニワトリの羽根を結びつける．夜，月が少し出たところ沖に出て釣る．水中に鉤を入れて回していると，白いものがひらひらするのにひかれた mìkèké がかかる．擬餌鉤の一種．

f 65 mèlèmétà 擬餌鉤．回転する黄銅製のスプーンを付けた鉤を長い釣り糸につけて，ボートの後から曳く．手製だがごく最近に導入されたものである．

f 66 kàbàmbà 延縄の一種．直径 1 mm ほどの紐に，1 尋おきに鉤をつける．やや沖の方から岸に平行にダガーの餌をつけながら沈めてゆく．400 から 500 尋もある長いもので，入れてから再び上げるのに明け方から昼ごろまでかかる．鉤は手製でかえしのない独得のものである (Brandt, 1972, p. 41 の図)．

f 67 mòòjí (mì-) 延縄の一種．直径 5～6 mm の縄に，ヨーロッパ製の鉤を 200 ほどつけ，両端には bòyà (浮き) をつける．夕方流しておき翌朝行って引き上げる．この餌もダガーである．

f 68 kìnàndà 延縄の一種．古タイヤを解体して丈夫な紐とピアノ線を得，このピアノ線を曲げて尖らして鉤にしたもの．市場に完成品が売られているのを見た．漁法としては f 66, f 67 に同じ．

f 71 mòònò (mì-) うけ[16]．ブワリ族は昔はほとんどうけを作らなかったが，ベンベ族やマサンゼ (Masanze) 族のものをまねて作っている．筆者が住んでいたソメ村ではその 1 個を見ることができた．長さ 50 cm, 直径 30 cm ほどで，màléngé またはアブラヤシの小葉の中助を編んだものである．紐で石を 2 個つけてイネ科草本が生えている岩場に沈める．内部に餌としてダガーを入れ，夕方沈めて翌朝見にゆく．

16) ウブワリ半島の南の Karamba 地方 (図 3) では ǹdízò という大型のうけで川の魚を獲っているという．

f 80 網漁は f 81～f 88 の 8 種類ある．

f 81 mùkábà 50 m から 70 m ほどの網に，1 尋おきに小さい網をつけ，両端には浮きをつけておく．網は ǹgòyì という野生の蔓植物の皮で作り，20 cm×30 cm ほどの大きさで，目の大きさは 10 cm 余である．網と網との間には sàŋú という白い木の皮を 3 筋ずつつける．午前 3 時ごろから湖に入れる．アカメ科の大型魚がかかる．

f 82 màkìlà 刺網．手の指 3, 4 本大の目の網を ǹgòyì の蔓で編んで用いる．網の幅 2 m で目が 20 入る．長さ 50～60 m．陸に対して平行にも垂直にも入れる．夕方入れて翌朝揚げる．

f 83 kàsàngálà 目の粗い地曳き網．砂地で曳く．昼夜とも曳くが獲れる魚の種類は異る．

f 84 m̀kwábó-wé-nzàngà "ダガーの地曳き網"．目の大きさが 5 mm ほど，幅 5～6 m，長さ 50 m ほどのもの．コンゴ独立後，目の細かい地曳き網がブワリ族にも知られるようになったが，それ以前は目の粗いものだけだった．m̀kwábó によるダガー漁は現在最も盛んにおこなわれ，ブワリ族の生業の中心になっている．ダガー漁は月のない夜間におこなわれる．石油の圧力ランプ〈karabai〉を 2 個つけた bwǎtò (小舟) で沖に出，ダガーの群れを明りに引きつけて砂浜近くまで漕ぎ寄せる．その群れに地曳き網を巡らして獲るという方法が多い．石油の圧力ランプが導入され始めたのが 1956 年であったという．それ以前は，後方の山に生えている *Brachystegia* 属の木を m̀wèngè (薪) に用いてダガーを誘引した．1937 年より前には kìmólì (たいまつ) を燃やしていたという．kìmólì は岸辺のイネ科植物 màkàngà か màléngé を蔓で巻いて 5 m もの長さに縛りあげたものであったという[17]．

f 85 m̀kwábó 地曳き網．f 84 と同じ網を昼引いて，ダガー以外の魚を獲ることもある．

17) たいまつを用いてダガーを獲る方法も，それを改良した薪を用いる方法も，いずれも対岸に住むトングウェ (Tongwe) 族がもたらしたものだといわれている．

表 9 魚類の認知

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Bwari 名 Bwari Names
	PROTOPTERIDAE (ハイギョ科)			
T 1	*Protopterus aethiopicus* HECKEL	Obs.	ca 500	sémbè (—)
	POLYPTERIDAE (ポリプテルス科)			
T 2	*Polypterus* sp.	B.	—	—
	CLUPEIDAE (ニシン科)	Inf.	—	LÙZÀNGÀ (N-)
T 3	*Limnothrissa miodon* (BOULENGER) ad.	9534	100	3 lùmù (mà+)
T 4	do. juv.	Obs.	—	2 kìsàmbà (bì-)
T 5	do. juv.	Inf.	—	1 mwàlá (—)
T 6	*Stolothrissa tanganicae* REGAN ad.	9555	78	4 kàlúmbà (—)
T 7	do. juv.	9555	62	3 kàùzùlúmbá (—)
T 8	do. juv.	9555	48	2 kàùzù (—)
T 9	do. juv.	9587	25	1 mwàlá (—)
	MORMYRIDAE (モルミルス科)			
T 10	*Marcusenius stanleyanus* (BOULENGER)	B.	—	—
	CHARACIDAE (カラシン科)			
T 11	*Hydrocynus vittatus* CASTELNAU	B.	—	kàbwámèénò (tù-)/ kàbwáŋàáŋà (tù-)
T 12	*Alestes macrophthalmus* GÜNTER	P.	—	mánzè (—)
T 13	*Alestes rhodopleura* BOULENGER	9590	300	ngòlòò (—)
	CITHARINIDAE (コケビラメ科)			
T 14	*Distichodus sexfasciatus* BOULENGER	Inf.	—	kàshíshí (tù-)
T 15	*Citharinus gibbosus* BOULENGER	B.	—	kàbèéwè (tù-)/mánzà
	CYPRINIDAE (コイ科)			
T 16	*Barbus tropidolepis* BOULENGER	P.	—	m̀lìbà (—)
T 17	*Varicorhinus leleupanus* MATTHES	9636	87	kìtúmbí (bì-)
T 18	*Varicorhinus tanganicae* BOULENGER ad.	P.	—	màlàà (—)
T 19	do. juv.	9530	93	kìtúmbí (bì-)
T 20	*Barilius moorii* BOULENGER	9540	—	kìlàngàlà (bì-)
T 21	*Engraulicypris minutus* (BOULENGER)	9606	75	m̀lòŋó (mì-)
T 22	?	Inf.	—	kìtúmbímàlàà (bì-)
T 23	?	Inf.	—	kìtìŋà/kìtìngà (bì-)
T 24	?	Inf.	—	—
T 25	?	Inf.	—	—
	BAGRIDAE (ギギ科)			
T 26	? *Bagrus docmac* (FORSKAL)	B.	—	ngòná (—)
T 27	*Chrysichthys brachynema* BOULENGER	9577	132	m̀vùlù (—)/kìbóndè (bì-)
T 28	*Chrysichthys grandis* BOULENGER	9588	—	m̀bíísú (—)/ǹgúùkú (—)
T 29	*Chrysichthys graueri* STEINDACHNER ad.	Inf.	—	2 kìfyùnù (bì-)/m̀fùnù (—)
T 30	do. juv.	9638	61	1 ǹkòngwè (—)
T 31	*Chrysichthys platycephalus* WORTH. & RICARDO	9589	81	kìfyùnù (bi-)
T 32	*Chrysichthys sianenna* BOULENGER	9552	69	m̀nèkè (mì-)
T 33	*Phyllonemus filinemus* (WORTH. & RICARDO)	9640	63	m̀nèkè (mì-)
T 34	*Auchenoglanis occidentalis* (CUV. & VAL.)	9637	—	kàvúngwé (tù-)
	CLARIIDAE (ヒレナマズ科)			
T 35	*Dinotopterus cunningtoni* BOULENGER ad.	Obs.	—	2 shìŋà (—)
T 36	do. juv.	Inf.	—	1 kìlòlóshìŋà (bì-)/kìlòló (bì-)

ブワリ族・ベンベ族・ヴィラ族の場合

Bembe 名 Bembe Names	Vira 名 Vira Names	共通語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁法 Catch
sèmbè (—)	njòmbó (—)	njombo/mujombo	G	—
kúngúlúmákàmbà(mà+)	kúngúlúmàkàmbà(mà+)	—	I	—
ǸDÀKÀLÀ (—)	ǸJÁÀNGÀ (—)	NDAKALA/NDAGAA		
3 m̀bi̧yà (—)	2 m̀bíyá (—)	lumbu	K	84 85 86 87
2 ʔìsàmbà (bi̧-)	—	—	K	84 85 86 87
1 m̀kàlá (—)	1 m̀gàlá (—)	mgala	I_1 I_2	88
4 ʔàlúùmbá/ʔàlúùbá	4 kàlúmbà	—	K	84 85 86 87
3 ʔàùkyùlúmbá	3 kàhùjùlúmbá	—	K	84 85 86 87
2 ʔàùkyù/kyàngà	2 kàhùjú	—	K	84 85 86 87
1 m̀kàlá	1 m̀gàlá	mgala	I_1 I_2	88
m̀chi̧mbà (mi̧-)	kàchìmbà (tù-)	—	H	—
mbàngémèénYò/ ʔàbwáŋèéŋè/mángì	námàkúlà	—	I K	60 83
—	—	—	I J	—
ngòlókò (—)	—	ngoloko	I_1 I_2	63 84
—	—	—	H_1 J	—
ʔàbèéwè (tù-)	kàbèéwè (tù-)	mbanza/abasa	—	—
bìlíbì (—)/m̀líbà (—)	mbìlíbì (—)/m̀líbà (—)	mbiligi	G H I	70 82 84
ʔìtúmbí (bi̧-)	níngù (—)	—	G I_1	63 82 84 85
bàlàkà (—)	m̀bàlàgà (—)	—	H	—
ʔìtúmbí (bi̧-)	níngù (—)	—	G I_1	84
ʔìlàngàlà (bi̧-)	kìlàngàlà (bì-)	sardine	G H	84
ʔàbàngúlà	—	kabangula/ kabangulakichwa	K	84 86
—	—	—	—	—
	—	—	G H	—
námàtùù	—	—	H	—
i̧shémbé (mà-)	—	—	—	—
—	kìfùmbúkà (bì-)	mpoto	—	62 83
m̀bùlwè (mà+)	m̀vùlù (—)	kibonde	J K	61 66 82 84
—	m̀vùlù-yé-m̀lìbwè	kukumayi	J_3	66 67 82 84
ʔèΦyúnú (bi̧-)/èsú̧nú̧	—	—	—	—
—	—	—	—	84
—	—	—	—	66 67 84
m̀nèʔè (mi̧-)	m̀nèkè	shanana/sanana	I_1	63 84
—	—	—	I_1	84
ʔàbùngwè (tù-)	kàvúngwè (tù-)	kafieke	I K	66 83 84
m̀búʔá (—)	m̀búká (—)	singa	J	61 66 67 82
—	—	—	—	82

表 9 つづく

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Bwari 名 Bwari Names
T 37	*Tanganikallabes mortiaux* POLL	9563	160	kìlòlóshìŋà (bì-)/kìlòló (bì-)
T 38	*Clarias* spp.	Obs.	—	m̀bánè (—)/m̀lùbá (—)
	MALAPTERURIDAE (デンキナマズ科)			
T 39	*Malapterurus electricus* (GMELIN)	9513	—	nyìkà (—)
	MOCHOCIDAE (サカサナマズ科)			
T 40	*Synodontis ?dhonti* BOULENGER	B.	—	ǹdùmì (—)
T 41	*Synodontis multipunctatus* BOULENGER	9613	61	kàngòóngò (tù-)
T 42	*Synodontis* sp.	Inf.	—	—
T 43	*Synodontis* sp.	Inf.	—	—
	CYPRINODONTIDAE (メダカ科)			
T 44	*Lamprichthys tanganicanus* (BOULENGER)	9611	91	m̀shìyà (mì-)
	CENTROPOMIDAE (アカメ科)			
T 45	*Lates angustifrons* BOULENGER ad.	Inf.	—	3 kìmínyé (bì-)
T 46	do. ad.	Obs.	560	2 ŋòmbà (—)
T 47	do. juv.	Inf.	—	1 kàlèbèlébè (tù-)
T 48	*Lates mariae* STEINDACHNER ad.	Obs.	—	2 sàŋàlà (—)
T 49	do. juv.	Inf.	—	1 kàlèbèlébè (tù-)
T 50	*Lates microlepis* BOULENGER ad.	Obs.	—	2 nònjì (—)
T 51	do. juv.	9551	109	1 kàlèbèlébè (tù-)
T 52	*Luciolates stappersi* BOULENGER ad.	Obs.	ca 300	2 m̀kèké (mì-)
T 53	do. juv.	Obs.	—	1 nyámúnyàmù (—)
	MASTACEMBELIDAE (トゲウナギ科)			
T 54	*Mastacembelus cunningtoni* BOULENGER	9564	360	m̀lòmbó (mì-)
T 55	*Mastacembelus ophidium* GÜNTHER	9614	—	m̀lòmbó (mì-)
T 56	*Mastacembelus* spp.	Inf.	—	m̀lòmbó-wé-fìlìjì
	TETRAODONTIDAE (フグ科)			
T 57	*Tetraodon mbu* BOULENGER	B.	—	—
	CICHLIDAE (カワスズメ科)			
T 58	*Aulonocranus dewindti* (BOULENGER) male	9550	82	làlà (mà+)
T 59	do. female	9549	76	lèndà (mà+)
T 60	*Bathybates fasciatus* BOULENGER	9558	220	m̀bàngà (—)
T 61	*Bathybates minor* BOULENGER	9665	129	ndèngèlà (—)
T 62	*Boulengerochromis microlepis* (BOULENGER)	9579	223	ǹgùé (—)
T 63	*Callochromis microps melanostigma* (BOULENGER)	9673	—	kyòŋó (byò-)
T 64	*Cardiopharynx schoutedeni* POLL	9647	—	làlà (mà+)
T 65	*Chalinochromis brichardi* POLL	9617	66	lèndà (mà-)
T 66	*Cyathopharynx furcifer* (BOULENGER)	9620	107	làlà (mà+)
T 67	*Cyphotilapia frontosa* (BOULENGER)	9575	170	ǹdúbú (—)
T 68	*Grammatotria lemairei* BOULENGER	9562	91	nùngí (—)
T 69	*Haplochromis burtoni* (GÜNTHER)	9662	80	kìzòlè (bì-)
T 70	*Haplochromis horei* (GÜNTHER)	9632	89	kìlòmò (bì-)
T. 71	*Haplotaxodon microlepis* BOULENGER	9546	—	lùkóòkó (—)
T 72	*Hemibates stenosoma* (BOULENGER)	Obs.	—	—
T 73	*?Julidochromis* spp.	B.	—	—
T 74	*Lamprologus attenuatus* STEINDACHNER	9599	90	kàlílà (tù-)/wàkàlìndí (—)
T 75	*Lamprologus callipterus* BOULENGER	9570	105	njéènjá (—)

表 9 つづく

Bembe 名 Bembe Names	Vira 名 Vira Names	共 通 語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁 法 Catch
—	—	—	—	—
ʔàmbánè (—)	shòmvì (—)	kambale	G H	—
nɩ̀ʔá (—)	nyìká (—)	nyika	I J	63 84
—	—	—	J	82
ʔàngóngò (tù-)	nábálògwá?	—	I	63 82 84
—	nábátòló	—	—	—
ɩ̀kìkí	—	—	J	—
m̀sɩ̀yà (bà-)/lùsɩ̀à (m̀-)	kàlùsìhà/lùsìhà	—	I_2	63 84
—	—	kimize	K	66 67
—	2 ŋ̀gòmbà (—)	capitaine	K	66 67 81
—	1 kèkè-lyé-ngòmbà	—	K	60 84
2 sàngàlà (—)	2 shàngàlà (—)	sangala	K	61 66 81 82
1 ʔàlèbèlèbè	1 m̀zìngá	—	K	84
} nònjɩ̀ (mà+)	2 nònzì (—)	nonzi	K	81 83 84 85
	1 nzèlàbùnùngù (—)	—	K	84
2 mʊ̀ʔèʔé (mɩ̀-)	2 m̀gwàbúgà (mì-)/ m̀kèké (mì)	mikeke/mgebuka	K	64 84 86
1 bàánà-bá-mɩ̀ʔèʔé	1 bwànà-bwé-míkèké	sambaza	K	84
} m̀lòmbó (—)	} m̀gwàoò	mlombo	K	62 66 82 84
		mlombo	K	62 66 82 84
		—	I	—
—	sàmà (—)	kakamusi	H	—
—	—	—	I_1	84
—	—	—	I_1	84
m̀bàngà	m̀sùfí	bangabanga	K	60 66 80 82 84 85
—	—	lufukuzi	K	84
kùhè (mà+)	ŋ̀gùé (—)	kuhe	I_1 K	60 66 82 83 85
ʔìlìlìmà (bɩ̀-)	kìlìlímá (bì-)	—	I_1	84
ʔìífùìchɩ́ (bɩ̀-)	kàlàlàmbà (tù-)	—	I_1	84
—	—	—	I_1	84
ɩ̀làlà (mà-)	làlà (mà+)	—	I_1	84
ǹdúbú/ngùmúngùmù	ǹdúbù/ǹgùmúkùmù	—	J_3	62
nùngɩ́/nyùngɩ́	nùngí (—)	—	I_1	60 84 85
ʔèkyòlwè (bɩ̀-)	kìjòlè (bì-)	kijole	G I_1 I_2	63
ʔèlòmò/ǹdòmò	ǹdòmyò/ǹdòmò	ngebengebe	I	63 71
nyàlùkóòkó	—	—	I_1	60 84
ʔèlòlóké (bɩ̀-)	kìlòlógé (bɩ̀-)	—	—	60
ʔùlʊ̀ngú (—)	—	—	I	—
—	—	—	I_1	60 84 85
njékèchá (—)/ njèkèlèlè (—)	m̀zékélélé	—	I_1	60 84 85

表 9 つづく

参照番号 No.	学名 (和名) Scientific Names	同定の基準 Source	体長 (mm) St. L. (mm)	Bwari 名 Bwari Names
T 76	*Lamprologus compressiceps* Boulenger	B.	—	kàùbáò (tù-) /kìpángà
T 77	*Lamprologus cunningtoni* Boulenger	9580	210	kìndábùlùlù (bì-)
T 78	*Lamprologus elongatus* Boulenger	9502	84	kìsóndójà(bì-)/m̀sóndéjà(—)
T 79	*Lamprologus fasciatus* Boulenger	9655	91	kìtébò (bì-) /m̀bàsá (—)
T 80	*Lamprologus leleupi* Poll	B.	—	—
T 81	*Lamprologus lemairei* Boulenger	9512	130	kìkàlàkàtà (bì-)
T 82	*Lamprologus modestus* (Boulenger)	9633	92	m̀gùndà (mì-)
T 83	*Lamprologus tetracanthus* Boulenger	9648	69	kìndábùlùlù (bì-)?
T 84	*Lamprologus toae* Poll	9536	—	lèndà (mà+)
T 85	*Lamprologus tretocephalus* Boulenger	9539	—	yàánà-yé-ǹdúbú /ǹdúbú-yé-màbwè
T 86	*Lestradea perspicax perspicax* Poll	9529	98	kàshìkwà (tù-)
T 87	*Limnochromis auritus* (Boulenger)	B.	—	—
T 88	*Limnochromis microlepidotus* Poll	9658	80	kàshíní (tù-)
T 89	*Limnochromis* sp.	B.	—	—
T 90	*Limnotilapia dardennei* (Boulenger)	9553	215	ŋùnŋùlà (—)
T 91	*Lobochilotes labiatus* Boulenger	9515	—	ndàfwà (—) /m̀lòmò (mì-)
T 92	*Ophthalmochromis ventralis* (Boulenger)	B.	—	làlà (mà+)
T 93	*Ophthalmochromis nasutus* Poll & Matt.	9601	89	làlà (mà+)
T 94	*Perissodus microlepis* Boulenger	9581	76	m̀béètá (—)
T 95	*Petrochromis polyodon* Boulenger	9516	—	kyòŋó-kyé-màbwè
T 96	*Plecodus paradoxus* Boulenger	9547	104	m̀béètá (—)
T 97	*Plecodus straelini* Poll	9572	88	m̀béètá-yé-màbwè
T 98	*Salotherodon nilotica* (Linné)	Inf.	—	kímbwì
T 99	*Salotherodon tanganicae* (Günther)	9578	220	nŋèé (—)
T 100	*Simochromis babaulti* Pellegrin	9582	65	kyòŋó (byò-)
T 101	*Simochromis curvifrons* Poll	9571	87	kyòŋó (byò-)
T 102	*Simochromis diagramma* Günther	9560	102	kyòŋó (byò-)
T 103	*Simochromis marginatus* Poll	9531	77	kyòŋó (byò-)
T 104	?*Tanganicodus irsacae* Poll	B.	—	—
T 105	*Telmatochromis caninus* Poll	9634	86	kìílúfìfí (bì-)
T 106	*Trematocara marginatum* Boulenger	9511	28	sàkàsàkà (—)
T 107	*Trematocara stigmaticum* Poll	9666	60	sàkàsàkà (—)
T 108	*Tropheus moorii* Boulenger	9518	—	kyòŋó-kyé-m̀lábá
T 109	*Tylochromis polylepis* (Boulenger)	9521	100	ndàŋá (—)
T 110	*Xenochromis hecqui* Boulenger	9537	—	m̀béètá (—)
T 111	*Xenotilapia melanogenys* (Boulenger)	9526	128	m̀lùndà (mì-)
T 112	*Xenotilapia nigrolabiata* Poll	9622	79	kìngúmúngùmù (bì-)
T 113	*Xenotilapia ochrogenys bathyphilus* Poll	9527	78	kàpópó (tù-)
T 114	*Xenotilapia sima* Boulenger	9668	—	kàpópó (tù-)
T 115	*Xenotilapia tenuidentata* Poll	9561	52	kàpópó (tù-)
T 116	?	Inf.	—	—
T 117	?	Inf.	—	—
T 118	?	Inf.	—	—
T 119	?	Inf.	—	kìkùlìkùlì (bì-)

表の説明は表 6 と同じである．ただし，
同定の基準 B. は Brichard (1978) のカラー写真による聞き込み．
P. は Poll (1953, 1956) 所収の方名に対応させたもの．
Bembe 族の /ʔ/は声門閉鎖音．/Φ/は両唇摩擦音．

表 9 つづく

Bembe 名 Bembe Names	Vira 名 Vira Names	共 通 語 Lingua Franca	ハビタット Habitat	漁 法 Catch
ʔàbékò (tù-)	kàbégò	—	—	84
ʔédébùlùlù (bì-)	—	—	I_1	84 85
m̀dúùlwá (mì-)	mùndúlwà	—	I_1	64 84 85
—	—	—	J_2	84 85
—	mbòngò-yé-màázì	—	—	—
ʔèkàlàkàtà (bì-)	kìkàlàgàtà (bì-)	—	J	60 84 85
? m̀ʔùmbí	? m̀kùmbí	—	I_1	84 85
? swàhílì	? sùmàílì	—	I J_1	84
—	—	—	—	84
—	—	—	—	84
—	—	—	I_1	84 85
ʔèΦǵbéΦǵbè (bì-) ?	? lùfúbéfúbè	—	I J	—
? ʔàkǵlà (tù-)	—	—	I_1	84
—	? mùnùgóbángòlí	—	I_1 J_1	—
ʔùngùlà (mà+)	ngùngùlà (—)	kungula	I_1	61 63 82 84 85
ǹdàΦà (—)	ndàfwà (—)	—	J	84 85
ì̀làlálàlà (mà-)	—	—	—	—
ì̀làlálàlà (mà-)	—	—	—	—
—	—	—	—	84 85
ʔèhòngó (bì-)	kòkólà	—	J	85
? màlòlàì̀kùlú	—	—	—	84
—	—	—	J	84
—	—	ngege	G	83
ǹgèké	ǹgègé (—)	ngege	G I	80 83
ʔèhòngó (bì-)	kìkùlà (bì-)	kifute	J_1 J_1 J_1 J_1	71 84 85
bùtì̀nyà	m̀sìshá	—	H I_1	—
—	—	—	I	63 84 85
—	—	—	I_1	84
—	—	—	I_1	84
ʔèchíí̀kà (bì-)	—	—	J_1	84 85
ndàngá (—)	ndàngá/kàbálàlà	ndanga	I_1	84 85
mbèʔà (—)	m̀bèkà (—)	—	J_3	60 84
m̀lùndà/nùndà	m̀lòndà (mì-)	—	I_1	84 85
ʔìlyòngò (bì-)	—	—	I_1	84 86
—	—	—	I_1	63 84 85 86
m̀póòpó/m̀bóòpó	—	—	I_1	63 84 85 86
—	—	—	I_1	63 84 85 86
ʔàmì̀sí̀mì̀sí̀	—	—	J	—
ì̀ʔòòlà (mà-)	—	—	J	—
ʔìtúmbú (bì-)	—	—	I	86
—	—	—	I	—

f 86 ǹgòzò 〈lusenga〉 “たも網”. 直径 3 m 近い枠に，地引網と同じ目の網を張り，4 m ほどの柄をつけたたも網漁. 地曳き網を曳くことができる適当な浅瀬が近くにない場合や，m̀kwábó と比べて安価で小人数（2人）でできることから現在も行われている. 現在の方法は，2 人で舟に乗り石油の圧力ランプでダガーを集め，1 人が舟べりを棒で叩く. するとダガーの群れが水面近くにとび上るのでそこをもう1人がたも網ですくい獲る. 昔たいまつでダガーを集めていたころは，岸辺の水の中に2人の男がたも網を持って立ち，舟で引き寄せてきた群れをすくっていたという.

f 87 kìpé (—) 大型のたも網. 舟2艘をつなぎ合せて，その上に石油の圧力ランプをかかげ，集まるダガーを掬う. ごく最近ブルンディで始められたもの.

f 88 kù-kwátà-né-m̀wéndà 布で掬う. ダガーの稚魚の群れが岸辺近くに来たとき，女や子供が布切れやアルミ鍋でこれを掬う.

以上のようにおよそ 17 種類の漁法をブワリ族は知っていた. しかし現在の漁撈活動のほとんどは，夜を徹しておこなわれるダガー獲り (f 84, f 86) にあてられている.

3.3. 魚類の認知——ブワリ族を中心に

ブワリ語では魚類を ÈSWÍ (—) と呼んでいる. 魚と同じように水中に生活していても，m̀shìsá (エビ類)，ŋàlà (カニ類)，lùkùlò (二枚貝類)，〈tombetombe〉(クラゲ)，mìsúndù (ヒル) はけっして ÈSWÍ ではなく，KÌJÍMÙ “虫” だと考えられている. また，ブワリ族はこれらの生物を食物とはみなしていない. ブワリ族の ÈSWÍ はソンゴーラ族の ǸFÌÍ 同様，分類学上の硬骨魚類綱に対応していた.

表9はタンガニイカ湖およびその流入河川に棲息している魚類のうち，筆者が何らかの方法で確認しえたもののリストである. 記載の方法は表6のザイール川の場合に準ずるが，T- という符号でザイール川の Z- と区別する.

T 1 sémbè (—) ①“ヒトのように乳房をもつ魚”. 体の模様や色そして形は chátò (ニシキヘビ) に似ている. ③ブワリ族はこの魚を食べない. ǹjìlò (タブー) ではないが昔から食べなかった. 食べると吐きもどしてしまう. こんなものを食べるのはベンベ族だけだ.〔ウヴィラの市場ではしばしば売られていた.〕

T 2 kúngúlúmákàmbà (—) (ベンベ名) ブワリ族には知られていない. ①体長 40～50 cm になる細長い魚〔Vi〕. 鱗が堅く剝がすのが難しい〔Vi〕. センザンコウ (ʔàbángà, ベンベ語) のような魚だ〔Be〕. あまり泳ぎまわらない〔Vi〕. ②非常に珍しい魚〔Vi, Be〕. ⑤薬用にされる. 対岸のキゴマ (Kigoma) で皮のかけらを入手したことがある〔Vi〕.

T 3～9 はニシン科の2種の魚で，LÙZÀNGÀ (Ǹ-) と総称される. 共通語で〈ndagaa〉と呼んでいるものである.

T 3, T 4 ①ダガーの中で，大きくなる方の魚である. 幼魚段階のものは kìsàmbà といい，体長が T 6 の kàlúmbà を越えるぐらいから lùmù という名に変る. T 62, T 78, T 90 などに食われる. ②小さい方のダガー T 6～8 ほど沢山獲れない. 月のない夜には岸辺近くまで群れがやってくるが，せいぜい1カ月に 1～3 日ほどだ〔Vi〕. ③肉が柔らかくてあまりおいしくない. ⑥ T 3 は T 6 と同じくらいの大きさだが，乾燥させたものは T 3 の方が安い.〔調査期間中，半島の東側のディネ (Dine) 集落では T 3 ばかりが乾燥用の棚の上で燻製にされているのを見かけた.〕

T 5 と T 9 mwàlá (—) ダガーのごく小さいものを mwàlá と総称している. しかし，インフォーマントによっては T 5 を mwàlá-wé-kìsàmbà, T 9 を mwàlá-wé-kàlúmbà と呼んで区別できるとしていた. ①大きな魚を逃がれて岸辺に来る. ②女や子供が布や鍋を用いて岸辺で掬って獲る (f 88 の漁法). ③非常に美味. とくにヤシ油で料理すると美味. ⑥市場で売るために獲ることは禁止されているが，食べる分を獲っても問題はない.〔ウヴィラの市場で何度か売られているのを見るかぎり，ダガーの稚魚はほとんどが

T 9 であった.〕

T 6～8　①小さい方のダガー. kàlúmbà が最も大きく成長したものであり, kàùzùlúmbá, kàùzù の順に小さい段階を指す. 夜間灯火に集まる. 雨が激しく降ると湖面の表層から中層にもぐってしまう. 北風で水が底までかきまぜられるときには, うまく灯火に集まらない. ②4月, 湖の増水が著しいときもあまり獲れない. 雨季が始まって若葉が萠え出る lèmbà の時期に最もよく獲れる. おおむね夜間に獲っているが, 昼間でも群れが岸辺近くにやって来れば f 84 地曳き網漁で獲ることがある. ダガーのうちでもよく獲れる方の魚である. 昔は湖中がダガーでいっぱいだったが, 石油の圧力ランプの普及後はずいぶん減った. 最近5年間の減少が著しい. ダガー獲りは狩りと同じだ. 人によりときにより運, 不運があり, 予想はできない. ③味は T 6・T 7・T 8 の順で, 大きい方がよく肥えていて美味. ⑥乾燥したものの単価は T 6・T 7・T 8 の順に安くなる.〔ダガーには決った価格がなく変動が激しい. 1979 年 9 月現在乾燥した 90 kg 詰めの1袋が T 6 で 260 ザイール, T 8 は 200 ザイールで仲買い商人に引き渡されていた. 最近の値段の変動幅は, 1978 年 12 月にソメ集落で 550 ザイール, ウビラで 750 ザイールだったのが最高で, その後 400～300 ザイールの間を上下している. 天候が不順だと天日による乾燥ができず腐るので極端な品薄になることがある.〕

ウブワリではダガーが専らの収入源で, 他の魚は食べるだけしか獲らない.

T 10　m̀chị̀mbà (mị̀-) (ベンベ名)　ブワリ族のテリトリーにはモルミルス科の魚は見られない. タンザニアで〈ndomondomo〉と呼んでいる *Mormyrus* sp. とは異なり, 長い口吻部をもっていない. ①小川の泥場にいる〔Vi〕. 対岸のネンバ川 (図 3) にいる〔Bw〕. ②稀.

T 11　kàbwá-mèénò (tù-)/kàbwá-ŋ̀ààŋ̀à (tù-)　tiger fish の1種. ① kàbwá (イヌ) の mèénò (歯) という意味の名で, イヌよりも鋭い歯をもっている. 大きさはヒトのももくらいになる. x 字型に分岐した骨がある. ②稀. ③身が白くて柔らかく, 脂がのっていてうまい.

T 12　mánzè (—)　① T 11 に似るが歯が鋭くない. 分岐した骨をもつ. 鱗は T 16 に似る. 岩場の深みの底にいる. 川の近くにいる. ②稀.

T 13　ngòlòò (—)　②浅瀬. イネ科草本の藪や砂地にいるが泥場にも多い. 水面を泳ぐ〔Be〕. ルバナ集落 (図 3) の近くにはとくに多い. ②何でも食べる. ぼろ布でも石鹸でも食べる. 釣り針なしでも釣れてくる. ダガーも食うし草の葉も食い, よく獲れる. ③美味. 鱗を剝がし骨を細かく切ってから料理する. 骨が多いから 2, 3 才までの子供には食べさせない. ④結婚式での長老から花嫁への説教に "ngòlòò のようになるな" という部分がある. ngòlòò が激しく泳ぎまわることを, 家に落ちつかない女にたとえたものだ.

T 14　kàshíshí (tù-)　①湖の底層にいるが河口にも多い. 肉は黄色だ. ②稀.

T 15　kàbèéwè (tù-)/mánzà (—)　moonfish. ①体は平たくて大きいが頭は小さくこぶしほどしかない. 骨がそれほど多くない. ②稀.〔ウブワリ半島の先端を Mbanza 岬というが, これはこの魚の共通語名をとったものかもしれない.〕

T 16　m̀lìbà (—)　①歯がある. 大きい鱗がありひげはない. 体長 50～60 cm になる大きい魚である. 分岐した小さい骨が多い. T 17, T 19 kìtúmbí の "兄" である. 大雨のとき川に入り遡ってゆく. 乾季には湖に降りてくる. ③炊くと美味. 鱗ごと食べることができる〔Vi〕.

T 17, T 19　kìtúmbí (bì-)　体長 20 cm 位までのものは, 鱗の数に違いがあるだけでほとんど見分けがつかない. ① T 17 と T 19 は同じ魚である. T 16 に似る. 口の奥に歯がある.〔ヴィラ族でルジジ川にいる小さくて黄色い魚 (níngù) というのはおそらくこの 2 種の魚を指すものと思われた.〕

T 18　màlàà (—)　① T 19 とは別の魚である. かなり大きくなる. ヴィラ族はこれの子供が T 20 だと言っていた. ②川にいる. ウブワリ

半島の川にもいる.

T 19→T 17

T 20 kìlàngàlà (bì-) ①共通語で〈sardine〉と呼ばれるのは缶詰のイワシに似ているからである.〔ヴィラ族はT 18の子供だと言う. ベンベ族では ʔÌLÀNGÀLÀ には大小2種類あり, 大きい方は ṁlíbà (T 16), 小さい方は ỵshémbé (T 25) と呼ぶという. また, 湖のものと川のものとがあるという.〕

T 21 ṁlòŋó (mì-) ①ダガー獲りの灯に集まり水面を泳ぎまわる小魚. ②獲れる量は少ない. ③頭が苦い. ④よい魚ではない. この魚を食べると頭の中に傷ができて頭が痛くなる. どの部族の人も食べない.〔ダガーを干す砂場に, 乾燥したダガーが袋に詰められたあとこの魚が打ち棄てられているのを見かける. 共通語の名称〈kabangula〉または〈kabangulakichwa〉は〈wanga〉(傷つける),〈banguzi〉(大きな傷),〈kichwa〉(頭) 等の意味から, "(頭を) 傷つける小さいもの" といった意味であろう.〕

T 22 kìtúmbímàlàà (bì-) ①白っぽくて大きくなる魚. 体に水平な筋が入っている.〔名前は kìtúmbí (T 17, T 19)+màlàà (T 18) と分析できるが, 果たして *Varicorhinus* 属であるか否かは不明である. もともと成長段階によって, 小さい方から kìtúmbí-kìtúmbímàlàà-màlàà の3段階に, T 18 と T 19 の *V. tanganicae* を分けていたものが, 成長段階に関する知識が失われたとも考えられる.〕

T 23 kìtìŋà (bì-)/kìtìngà (bì-) ① *Barilius ubangensis* (Brichard, 1978, p. 352) に似ている. T 20 の類である.〔T 23 と T 24 は同じ魚を指すものかもしれない. ただし *B. ubangensis* はここには分布しないとされているのでこれに似た別の種であろう.〕

T 25 ỵshémbé (mà-) (ベンベ名) ①小さい魚. T 16 とともに ʔÌLÀNGÀLÀ (→T 20) と総称するともいう.

T 26 ŋ̀gòná (—)〈pono〉 ① T 27 に似るがもっと細長い. 腕大になる. ②稀. ④ほとんどのブワリ族の人はこの魚を食べない. これを食べると 2, 3 時間で力が抜けて眠ってしまう. 人が疲れたように見えるときには次のように尋ねる. "Ànólyá ŋ̀gòná? Màlá òsì ázélèkà." "おまえはンゴナを食べたのか. 体から力が抜けているよ."〔ジョンソンのスワヒリ語辞典に「pono: 動作の鈍い魚」とある. Ana usingizi kama pono. "彼はポノのように眠たがっている" という表現 (Johnson, 1939, p. 384) もある.〕

T 27～T 31 *Chrysichthys* 属は〈kilawagabo〉と総称される.

T 27 ṁvùlù (—)/kìbóndè (bì-) ① T 28 に似るが体色が白くて, T 28 より大きくなる. 昼は沖, 夜は岸辺にいる. 小さいものは岸辺の砂地にも岩場にもいる. ②釣れるときには, T 35 shìŋà と異なり 2, 3 度引いたり引かれたりすると上ってくる. ③炊いても焼いても大変美味. 滑らかな肉で, 骨が少ないので幼児にも食べさせる. 女たちの多くは食べない. ⑥沢山獲れると, 切れ目を入れて火で乾燥させる.〔ウヴィラの市場でもよく見かけた.〕

T 28 ṁbíísú (—)/ŋ̀gúùkú (—) ①体が真っ黒く, 体長は短く, 頭が平たい〈kilawagabo〉の1種. 夜間移動する. ②底釣りするとき ŋ̀dúbú (T 67) を餌にする. ③よく肥えている. 皮は脂が多く shìŋà (T 35) のように美味. ⑥食べない女が多い. 鱗がない魚は多くの女が食べない.〔ベンベ名は "岩の中のムヴル" という意味.〈kukumaji〉は "水のニワトリ" という意味. その味覚をニワトリにたとえている.

T 29, T 31 kìfyùnù (bì-)/ṁfùnù (mì-) ギギ類2種が同じ名で呼ばれていた. ①黒っぽくて細い〈kilawagabo〉⑥これを食べない女もいる.

T 30 ŋ̀kòngwè (—) ① T 29 の腕よりも細いもの.

T 32, T 33 ṁnèkè (mì-) ①小さい魚で T 28 や T 29 のように大きくならない. 浅瀬のやや沖寄りの所の底層にいる. ②生のダガーを餌にすると夜間よく釣れる. ⑥女も食べる. 胸鰭と

背鰭に棘があり，これに刺されるとひどく痛い．刺されたときには痛む所を火に近づけ，我慢できないほど熱くなったら火から遠ざける．これを繰り返すと痛みがひく．ワニでもこの棘で死ぬことがある〔Be〕．

T 34 kàvúngwé (tù-) ① T 27～29 に似るが頭が石のように堅い．大きいものは沖に，小さいものは浅瀬にいる．河口で好んで泥を食べている．②大きい川でよく獲れる．昼夜とも獲れるが，釣りでは獲れない③非常に美味．④捕えられると màfú màfú と鳴いて死ぬのが àfúú (死ぬ) とも聞こえる．⑥女の中には食べない人もいる．

T 35 shìŋà (—) オオナマズ．①太ももより大きくなったものを shìŋà と呼ぶ．深みにいるが水面にも上ってくる．月のある夜 6～8 時ごろ，10 匹も 20 匹も浮いたりもぐったりしながら岸辺に近づいてくる．②非常に耳ざとく悪賢い魚なので慎重にしないと獲れない．網や糸は強くなければならず，釣り上げるのに 5 時間もかかることがある．③非常に美味．

T 36, T 37 kìlòlóshìŋà (bì-)/kìlòló (bì-) ① T 38 はひげが 6 本だがこれには 8 本ある．kìlòló には“子供”という意味がある．shìŋà の“弟”で太ももくらいの大きさになる．

T 38 m̀bánè (—)/m̀lùbá (—) ナマズ．①ひげが 6 本ある．大きさは太ももどまり．②湿地や，ネンバ，ムタンバラ，サンジャ川 (図 3) などの大きい川にいる．湖にも少しはいる．雨が降って池ができ，2, 3 カ月もすると，どこで湧くのかこの魚がいる．②ウブワリには多くない〔ウブワリの青年の中には，ベンベ族が持ってくる燻製にしたものしか見たことがないという人もいる．老人は m̀lùbá が正しいブワリ語だと言っていた．〕

T 39 nyìkà (—) デンキナマズ．①触ると強い電気のようなものを感じる．ヒトのももほどの太さになる．②時々獲れる．美味だが，男の中にも食べない人が多い．④捕えるとき下唇を持てば手はしびれない．上唇を持つとしびれるが死ぬほどのことはない．⑤皮は食べないで薬〈dawa〉にする〔Be〕．

T 40 ǹdùmì (—) ① T 41 の“兄”である．T 41 に似るが大きい．斑点がなく全体に黒っぽい．頭の形は T 34 に似る．頭の幅は 15 cm ほどになる．②脂がのっていて美味．⑥食べない人もいる．

T 41 kàngòóngò (tù-) ①小さい魚で，T 40 の“弟”．砂と泥の混りあった所に多い．③美味．

T 42 nábátòló (—) (ヴィラ名) ①全身が真っ黒．〔おそらく T 40 と同種だが同定できていない．〕

T 43 ìkìkí (mà-) (ベンベ名) ①小さくて黒い．岩場にいる．昼でも獲れる．〔指小辞 bu- を付して bùìkìkí と呼ぶこともある．〕

T 44 m̀shìyà (mì-) メダカの 1 種．②ごく普通に獲れる．貪欲な魚だ．T 13 ngòlòò と並んでまっ先に鉤にかかってくる．③身が柔らかくて不味．⑥タブーではないが，こんな魚は食べないし先祖も食べなかった．子供が食べるだけ．結婚式に長老が花嫁に説教する文句の中に「m̀shìyà のようになるな ngòlòò (T 13) のようになるな」という部分がある．餌を入れるとすぐ食いつくこの魚の性質を，夫以外の男にすぐ誘惑される女にたとえているのだ．

T 45 kìmínyé (bì-), T 46 ŋòmbà (—) ① ŋòmbà の，2 人で担がなければならないほどに大きくなったものを kìmínyé という．②力は強いが，鉤にかかったら 3 度糸を引いたりゆるめたりするうちに水を飲んで上ってくる．昼夜とも獲れる．これを獲る漁法は多い．③柔らかく美味．〔ベンベ名が採集できなかったが，T 48 同様 sàngàlà と呼ばれているらしい．〕

T 47→T 51

T 48 sàŋàlà (—) ① T 46 に似るが頭が T 46 ほど長くなくむしろ小さい．②普通に獲れる．③大変美味．

T 49→T 51

T 50 nònjì (—) ① T 46, T 48 に似るが，nònjì は頭と目が小さい．形は T 52 m̀kèké

に似る．いつもダガーの群れを追っている．よく獲れる．②ダガーの群れに目が荒い地曳き網をまわして曳くと昼でも夜でも nònjì が獲れる．鉤ではほとんど獲れない．③肉は締っていて炊いても焼いても美味．ブワリの人は，nònjì が一番美味で，sàŋàlà, ŋòmbà の順だという．nònjì は白人が好きな T 62, yellow belly よりもうまい．どれでも自由に選べといわれればまず nònjì をとる．〔ヨーロッパ人は逆に，ŋòmbà〈カピテン〉→sàŋàlà→nònjì の順に評価している．〕

T 51, T 47, T 49 kàlèbèlébè (tù-) ブワリ族はこの3種の稚魚を一つの名で呼んでいる．〔ヴィラ族は種ごとに別の稚魚名を与えている．〕ブワリ族にも，ベンベ族同様に，nònjì は小さくても nònjì であると主張するインフォーマントがいた．しかし彼が sàŋàlà (T 48) であると主張した魚は同定の結果 T 51 であった．①それぞれ T 46, T 48, T 50 の稚魚．腕の太さを越えると名前が変化する．T 47 は他の2種より黒いのでわかる．灯火を追う．

T 52 m̀kèké (mì-) ①形は T 50 に似る．ダガーの群れを追っている．mìkèké の群れが岸近くに来たときは少々のことでは逃げない．②昔は釣り (f 64) で獲っていたが，月の出のころによく獲れた．きわめて普通．1979 年の 10 月ディネ集落に mìkèké の群れが来て，長さ 15 m の船外機つきボート 2 杯に満載するほど獲れた．⑥沢山獲れたときは燻製にする．〔ヴィラ名の m̀gwàbúgà とは「ダガー干し場 (búgà) まで来るもの」という意味であるという．〕

T 53 nyámúnyàmù (—) ① T 52 の稚魚．小さいものをとくに bùnyámúnyàmù と呼ぶこともある．②ダガーと一緒に地曳網で獲る．③美味．〔タンガニイカ湖北方 120 km も離れたブカヴ (図 1) の市場で売られていた．ブカヴでの生魚は T 52 と T 53 が主であった．T 53 をブカヴでは tolotolo ないし sambaza と呼んでいた．〕

T 54, T 55 m̀lòmbó (mì-) ①模様がなく全体に黄色っぽいトゲウナギ．⑥食べる人も食べない人もいる．

T 56 m̀lòmbó-wé-fìlìjì (mìlòmbó-yí-fìlìjì)) ①体に縞が入っている．砂地の中に岩が散らばっている所にいる．〔ベンベ族は，模様がないのは岩場の岩のすき間に，縞模様のものは砂地の底の方にいると言っていた．〕

T 57 sàmà (—) (ヴィラ名) フグ．①ふくれる．②ウブワリにはいない．大きい川にいる．⑤タンザニアでは畑のまじないに使うそうだ．キゴマの市場で売っているのを見た．

T 58～119 はいずれもただ一つの科，カワスズメ科に属する．「カワスズメ科」に相当するフォーク・カテゴリーはない．体長が小さくきわ立った特徴をもたないカワスズメ科の個体は LÈNDÀ (MÀ+), 〈SEMBE (MA+)〉と総称されている．

T 58 làlà (mà+), T 59 LÈNDÀ (MÀ+) 一つの種の雌雄が異なる名で呼ばれ，別の魚だと思われていた．làlà という名でこのほかにも T 64, 66, 92, 93 等を呼ぶ．これらには腹鰭の先が細長く伸びるという形態的特徴が共通している．làlà については T 66 で述べる．

T 60 m̀bàngà (—) *Bathybates* 属の多くは m̀bàngà という一つの名をもつらしい．①ダガーを食べている．⑥すぐに腐ってしまう．

T 61 ndèngèlà (—) ①m̀bàngà (T 60) に似るが，体長が短くて体高が高い．②ダガーの1種 kìsàmbà (T 4) を獲るとき，地曳網に沢山一緒に入っている．〔おそらく T 72 も同じ方名であろうが，サンプルが採集できなかったため一応別に扱う．〕

T 62 ŋgùé (—) yellow belly．タンガニイカ湖最大のカワスズメ科の魚．①沖にいるが砂地の浅瀬にも来る．砂地で子供を生む．子供が小さいうちは両親が子供を護っている．その様子はニワトリの親子のようだ．②目の荒い地曳き網 (f 83) で kàbòdòló (小ボート) 一杯も獲れることがある．③肉が締っていてたいへん美味．

T 63 kyòŋó (byòŋó) ブワリ族では T 100～T 103 の *Simochromis* 属と同じ方名にな

っているが，ベンベ族，ヴィラ族では別の方名が与えられている．①砂地にだけいる〔Be〕.

T 64 làlà (mà+) ①砂地にいて砂の中にプルプルーッと入り込む〔Be〕. →T 66

T 65 LÈNDÀ (MÀ+) ① LÈNDÀ（カワスズメ科の雑魚）である．

T 66 làlà (mà+) làlà という名称をもつ多くの種のうち，この種だけがブワリ族によって示される làlà の生態に合致しているように思われる．①腹鰭が長い．砂の上に丸い巣をつくる．この巣をブワリ語で kìfùkyò-kyé-làlà "làlà の巣" という．

T 67 ǹdúbú (—) ①頭の上にこぶがあって頭が2つあるように見える．②昼 10～11 時ごろとくによく獲れる．③脂がのっていて美味だが lùké 〈shombo〉（魚臭さ）が大変強い．〔この呼び名には T 67 の稚魚によく似た別の魚 (T 85) が含まれているようだ.〕

T 68 nùngí (—) ③小さいが美味.

T 69 kìzòlè (bì-) ①小さい．卵を産むころ体色が変る〔Be〕. 水が増える 4, 5 月，大型イネ科草本が水に沈むとその中に多い.

T 70 kìlòmò (bì-) ブワリ名 "-lòmò", ヴィラ名，ベンベ名の "-domo" はいずれも口という意味で，突き出た口吻部に由来するらしい．①小さい．④釣り上げるときの手応えが nékùkìjá kìchí né màchàkàchàkà "やぶの中に釣棹をおろしてもらってうれしい" と感じられる.

T 71 lùkóòkó (—) ①砂地だけにいて小さい kàùzù (T 8) や mwàlá (T 5, T 9) を食べている.

T 72→T 61

T 73 ʔùlùngú (—) (ベンベ名) *Charinochromis* も含まれているかもしれない．①小さくて細い．体側に水平な縞がある.

T 74 kàlílà (tù-)/wàkàlìndí (—) ①小さい．〔インフォーマントによって名称が異なった.〕

T 75 njéènjá (—) ①岸近くにいる小魚．③ T 77 のように苦いところがなく，脂がのっている.

T 76 kàùbáò (tù-)/kìpángà (bì-) ① pángà（刀）のように体が薄い．kà-ùbáò（小さい板）.

T 77 kìndábùlùlù (bì-) ③頭は大変苦い．内臓も苦いが，肉は美味.

T 78 kìsóndójà (bì-)/m̀sóndéjà (—) ① kìsòndójà が正しいブワリ語だと老人は言う．②夜も昼も獲れる．③苦みはなく美味.

T 79 kìtébò (bì-)/m̀bàsá (—) ① m̀bàsá は斧 〈shoka〉 のことでその三角形の刃のように口が細い.

T 80 mbòngò-yí-màázì (—) (ヴィラ名) ① mbòngò は陸棲の哺乳類ブッシュバックの名．体の黄色が mbòngò に似るので "水の mbòngò" と名付けたという.

T 81 kìkàlàkàtà (bì-) ①少し沖合いの岩場にいる魚.

T 82 m̀gùndà (mì-) ①小さい．②子供が釣る.

T 83 swàhílì (—) (ベンベ名) ブワリ族は T 77 と同じ名で呼ぶ．ベンベ語，ヴィラ語の swàhílì, sùmàílì という名は "スワヒリ" に由来するらしい．この魚はあまり逃げずじっと1カ所にいるので，"礼儀正しい" と言われる．この性質をイスラムないしスワヒリにたとえているのであろう.

T 84 LÈNDÀ (MÀ+) ① LÈNDÀ（カワスズメ科の雑魚）である.

T 85 yàánà-yé-ǹdúbú (—)/ǹdúbú-ye-màbwè (—) 2説あり，一つは T 67 の yàánà "子" であるといい，いま一つはそれに似ているが別のもので T 67 にはならないから別名 ǹdúbú-yé-màbwè "岩場の ǹdúbú" とするというものである．①岩場に近い砂地にいる．③あまり脂がのらない.

T 86 kàshìkwà (tù-) ① kàpópó T 113～T 115 に似るが，体に水平な赤い筋が1本ある．②子供が獲る.

T 87 ʔèΦǫ́bèΦǫ́bè (bì-) (ベンベ名) ④一

度口を閉じると二度と開かない魚〔Be〕.

T 88 kàshíní (tù-) ① LÈNDÀ である.

T 89 mùnùgóbángòlí (mì-) (ヴィラ名)〔*Limnochromis nigrippinis* の写真によって得られた方名.〕

T 90 ŋùnŋùlà (—) ①成熟するとのどの下が赤くなる. ②よく獲れる. ③大きいものは大変美味で, 焼いても炊いてもよい.

T 91 ndàfwà (—)/m̀lòmò (mì-) -lòmò は T 70 と同じく"口", "唇"の意であろう. ①本当のブワリ名は m̀lòmò である.

T 92, T 93 làlà (mà+) ブワリ族では T 66 等と同じ名だが, ベンベ族はこの2種を他と区別して ì̧làlálàlà と呼ぶ.

T 94 m̀béètá (—) m̀béètá と呼ばれる魚は他に T 96, T 110 がある. どれも細長い体をしている.

T 95 kyòŋ́ó-kyé-màbwè (byòŋ́ó-byé-màbwè) T 100～103 の *Simochromis* kyòŋ́ó と区別しない人もいるが"岩場の kyòŋ́ó"と呼び区別されている. 普通の kyòŋ́ó よりやや大型.

T 96 m̀béètá (—) 鱗食い (scale eater) という特殊な食性をもつ T 94, T 96, T 97 が体型の違いにもかかわらず m̀béètá という単一のレキシームに含められていることは興味深い. 体高が高く一見非常に異なる T 97 は m̀béètá-yé-màbwè "岩場の m̀béètá" と呼ばれる.

T 97 m̀béètá-yé-màbwè (—) ①腕大になる. 小さいときは岩場にいる.

T 98 kímbwì (—) ① nŋèé (T 99) に似るがもっと黒い. 湿地にいて kìzòlè (T 69) と一緒に獲れる. ③脂がよくのっている.

T 99 nŋèé (—) ① T 98 と同じ形をしている. ②ベンベ族は夜, 目の荒い刺し網を入れ, 舟べりを叩いてこの魚を網に追い込んで獲る. ごく普通に見られる魚でよく獲れる.

T 100～103 kyòŋ́ó (byòŋ́ó) これら4種の *Simochromis* 属はどの部族も区別していない. ①岩場にいる. よく獲れる. ②釣れたときの手応えは, m̀néngénèèngè という感じで2段に引く.

T 104 bùtì̧nyà (—) (ベンベ名) *Eretmodus*, *Spathodus* 属等の体型の似た小型魚をも指しているかもしれない. ①砂地にいる. ルジジ川にもいる.

T 105 kìílùfìfí (bì-) ① kìílù は"黒い"の意で, 黒色の小魚.

T 106, T 107 sàkàsàkà (—) ①白い. ndèngèlà (T 61) に似るがそれほど大きくならない. ②地曳網がまだ遠くにあるうちに, 網を逃れて砂浜に上ってくる. 白いのでよく目立つ. ③小骨が多い. ダガーと同じ料理法で食べる.

T 108 kyòŋ́ó-kyé-m̀lábá (byòŋ́ó-byé-mìlábá) ①"帯のある kyòŋ́ó"の意. 背中に黄色い模様がある. 岩の隙き間に住む. ベンベ名の ʔèchíì̧kà は"腹の中ほどが火のように赤い魚"の意味という.

T 109 ndàŋá (—) ①割合大きくなる. 地曳網に入ると多くは水面を飛んで逃げてしまう. ②釣りでは獲れない.〔ヴィラ名の kàbálàlà は擬音で, 水面を飛んでいるときはこの名で呼ばれる.〕

T 110 m̀béètá (—) ③非常に美味.

T 111 mùlùndà (mì-) ①細長い小魚. ②昼も夜も獲れる. ③小さいがとても美味. 指大のものがとくによい.

T 112 kìngùmúngùmù (bì-) ① kàpópó (T 113～T 115) に似るが目が大きい. 親指ほどの大きさの魚. ④釣れたとき m̀bèléjé ìsélsé "少し下さい"という手応えがある.〔kìlyòngò が正しいブワリ名で kìngùmúngùmù はスワヒリ語だというインフォーマントもいた.〕

T 113～115 kàpópó (tù-) ① T 111～115 はみな似ている.

T 116 ʔàmì̧sí̧mì̧sí̧ (tù-) (ベンベ名) 鰭が黄色い. *Lamprologus* の写真を見て与えた名称.

T 117 ì̧ʔòòlà (mà-) (ベンベ名) おそらく *Tropheus* 属で, ʔèchíì̧kà (T 108) とは別の赤くない模様のものを指すようである.

T 118 ʔìtúmbú (bị-) (ベンベ名) *Xenotilapia* に似た細長い魚らしい.

T 119 kìkùlìkùlì (bị-) *Simochromis* sp. の写真を見て与えた名. ①白っぽくて黒と赤の斑点がある. バラカに多い. ③不味.

3.4. 魚類の民俗分類 (ブワリ族)

2.4 のソンゴーラ族の場合に準じて, ブワリ族の魚類の民俗分類を図6に示す.

ブワリ族はすべての魚類を ÈSWÍ (—) という単一のフォーク・カテゴリーに含めている. ÈSWÍ には, ダガーを指す LÙZÀNGÀ, トゲウナギ ÌMLÒMBÓ, カワスズメ科の小魚を指す LÈNDÀ のわずか3つの包括名があるにすぎず, ブワリ族の民俗分類体系は, 魚に対しては3つのレヴェルから成っていることがわかる. 生長段階により名前が変るが "一つの魚" と認められている "出世魚" [L. S.] が 8 組ある. その内訳は4段階に分けられているものが1組4個別名, 3 段階が2組6個別名, 2 段階が5組 10 個別名であった. "出世魚" に含まれる個別名は合計 20 で全個別名 79 (シノニム 16 を除く) の約 25% であった.

表9に T 1 から T 119 までタンガニイカ湖における方名と魚種の対応関係を示した. このうちブワリ語による個別名がないもの 16 を除いた 103 例について, 個別名と魚種の対応を見ると, 個別名と魚種が1対1に対応しているものが 50 (50 個別名 50 種), 多対1になっているものが2 (2個別名1種), 1 対多になっているものが 28 (10 個別名 28 種), 多対多となっているものが 23 (17 個別名 11 種) であった. 結局ブワリ族では 79 の個別名に対し, 90 の魚種が対応していたことになる.

4. 比較と考察

4.1. 魚への関与の様態

ソンゴーラ族エニャ支族とブワリ族について, それぞれの魚への関与の様態を比較する. ただし漁撈活動そのものにかかわる部分は別報で扱う.

2章および3章で詳述したように, エニャとブワリは, 漁撈という点では魚に対して詳細でかなり客観的な認知体系をもっていた. しかし漁撈活動以外の関与のあり方を見ると, 魚が禁忌の対象になっている例や, 禁忌ではないが昔から食べない例, 呪薬の原料とされているといった例が観察された. この3点について, ソンゴーラ族エニャ支族とブワリ族の比較を試み, ザイール川のキサンガニの下流に居住する Lokele 族 (Gosse, 1962) と, タンガニイカ湖の東岸に居住する Tongwe 族 (伊谷, 1977; 掛谷, 1978) の例も併せて比較する.

何らかの禁忌の対象となっている魚は, 種の数にして, エニャ 9, ロケレ 6, ブワリ 0, トングウェ 3 であった. 禁忌の内容は, エニャ支族では 6 種までが, 「授乳中の女性は食べてはならない」という内容のもので, コケビラメ科の黄色の肉をもつ魚が 5, 黒地に黄色の筋という模様をもつサカサナマズ (Z 105) が 1, 卵をもたないという俗信があるナイルパーチ (Z 124～125) の計7であった. ナギナタナマズ科の小魚 (Z 8) は, 水から揚げられてもなかなか死なないという特性に関連させて食べることは禁忌になっている. ハイギョ (Z 1～2) の骨を噛み砕くと性的不能になるといわれていたが, その理由の説明は得られなかった. ロケレ族では目の粗い流し網 (f 51 に相当) で獲れたすべての魚の内臓と, さらに 4 種の魚 (Z 34, 51, 53, 83 に相当) の頭部は, 漁師自身が料理しなければならず, 女性はけっして食べてはならないとされる. また, 子供にニシン科の小魚 (*Odaxothrissa losera*) を食べさせてはならないと考えられている. この魚を子供が食べると, 病弱になってしまうからだという. 嫁入り前の婿は, パントドン科の小魚を食べてはならない. 水面を飛ぶこの魚のように, 男と駆け落ちするといけないからだという. (Gosse, 1962, p. 62-68). 後述のようにブワリ族が食用に供しない魚は多いのだが, それは社会的な禁忌ではない. トングウェ族では, デンキナマズ (→Z 100, T 39) の腰の鋭い骨で患部を瀉血して, 腕の腫れや腰痛を治療するが, この治療を受けた者はそのあとで扉にもたれてはいけないという. カワスズメ科の一つ

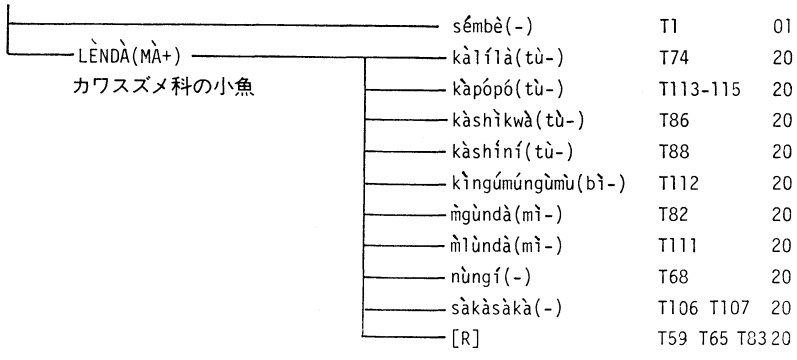
図 6 魚類の民俗分類——ブワリ族の場合.
[記号の用い方は，図 5 と同じである.]

包括名			個別名	表 9 の参照番号	表3の科番号
ÈSWÍ(-) 魚	LÙZÀŃGÀ(N-) ダガー	[L.S.]	4 kàlúmbà(-)	T6	03
			3 kàùzùlúmbá(-)	T7	03
			2 kàùzù(-)	T8	03
			1 mwàlá(-)/ mwàlá-wé-kàùzù	T9	03
		[L.S.]	3 lùmù(mà+)	T3	03
			2 kìsàmbà(bì-)	T4	03
			1 mwàlá(-)/ mwàlá-wé-kìsàmbà	T5	03
	(kàlèbèlébè)	[L.S.]	3 kìmínyé(bì-)	T45	19
			2 ŋòmbà(-)	T46	19
			1 kàlèbèlébè(tù-)	T47	19
		[L.S.]	2 sànŋàlà(-)	T48	19
			1 kàlèbèlébè(tù-)	T49	19
		[L.S.]	2 nònjì(-)	T50	19
			1 kàlèbèlébè(tù-)	T51	19
	(kìtúmbí and/or màlàà)		kìtúmbí(bì-)	T17 T19	08
			màlàà(-)	T18	08
			kìtúmbímàlàà(bì-)	T22	08
	(kyòŋó)		kyòŋó(byòŋó)	T63 T100-103	20
			kyòŋó-kyé-màbwè	T95	20
			kyòŋó-kyé-mìlábá	T108	20
	MLÒMBÓ(MÌ-)		mìlòmbó(mì-)	T54 T55	21
			mìlòmbó-wé-fìlìjì	T56	21
	(shìŋà)	[L.S.]	2 shìŋà(-)	T35	12
			1 kìlòlóshìŋà(bì-)/ kìlòló(bì-)	T36 T37	12
	(m̀béètá)		m̀béètá(-)	T94 T96 T110	20
			m̀béètá-wé-màbwè	T97	20
	(ǹdúbú)		ǹdúbú(-)	T67	20
			ǹdúbú-yé-màbwè/ yàánà-yé-ǹdúbú	T85	20
		[L.S.]	2 m̀kèké(mì-)	T52	19
			1 nyámúnyàmù(-)/ bùnyámúnyàmù(-)	T53	19
		[L.S.]	2 kìfyùnù(bì-)/ m̀fùnù(-)	T29 T31	11
			1 ǹkòngwè(-)	T30	11
			kàbèéwè(tù-)/ mǎnzà(-)	T15	07
			kàbwámèénò(tù-)/ kàbwáŋàáŋà(tù-)	T11	05

図 6—2

kàngòóngò(tù-)	T41	14
kàshíshí(tù-)	T14	07
kàùbáò(tù-)/ kìpángà(bì-)	T76	20
kàvúngwé(tù-)	T34	11
kìílúfìfí(bì-)	T105	20
kìkàlàkàtà(bì-)	T81	20
kìkùlìkùlì(bì-)	T119	20
kìlàngalà(bì-)	T20	08
kìlòmò(bì-)	T70	20
kìndábùlùlù(bì-)	T77 T83	20
kìtébò(bì-)/ m̀bàsá(-)	T79	20
kìtìŋà(bì-)/ kìtìngà(bì-)	T23	20
kìzòlè(bì-)	T69	20
làlà(mà+)	T58 T64 T66 T92 T93	20
m̀lìbà(-)	T16	08
m̀lóŋó(mì-)	T21	08
m̀shìyà(mì-)	T44	16
m̀sóndéjà(mì-)/ kìsóndójà(bì-)	T78	20
lùkóòkó(-)	T71	20
mǎnzè(-)	T12	06
m̀bánè(-)/ m̀lùbà(mi-)	T38	12
m̀bàngà(-)	T60	20
m̀bíísú(-)/ ŋ̀gúùkú(-)	T28	11
m̀nèkè(-)/m̀nèkè(mì-)	T32 T33	11
m̀vùlù(-)/ kìbóndè(bì-)	T27	11
ndàfwà(-)/ m̀lòmò(mì-)	T91	20
ndàŋá(-)	T109	20
ndèngèlà(-)	T61	20
ǹdùmì(-)	T40	14
ǹŋèé(-)	T99	20
ngòlòò(-)	T13	06
ǹgòná(-)	T26	11
ǹgùé(-)	T62	20
ŋùnŋùlà(-)	T90	20
njéènjá(-)	T75	20
kímbwì(-)	T98	20
nyìkà(-)	T39	13

図 6—3



(→T 109) は高熱を出してその揚句頭がおかしくなった人に食べさせてはいけない．空中を飛ぶこの魚は狂気を助長するかもしれないから．またこれを禁忌として食べない氏族もある．またコイ科の小魚の漁法について，ある特定の川にだけ適用される禁忌があったという (伊谷，1977，p. 475，p. 500)．

禁忌ではないが食用としない魚は，エニャ 3，ロケレ 3，ブワリ 4，トングウェ 1 である．エニャのそれは，体長 10 cm に満たぬ小魚 (Z 56，76，119) ばかりであった．しかし，ただ小さいというだけではなく，Z 56 は後述のように呪薬に用いられ，Z 76 は“魚であるのに鳥のように飛ぶ”という習性をもつ魚であった．またフグは，ことにその内臓を食べないという人が多い．ロケレでは，フラクトラエムス科の小魚はあまりにも色が鮮かなのと，“その血がヒトの血のようだから”食べない．2 種のフグも食べない (Gosse，1962，p. 68)．ブワリでは，ハイギョ (T 1) はニシキヘビのようだから食べない．コイ科の小魚 (T 21) は，頭の中を傷つけるから食べない．メダカ (T 44) も食べないが，あるいはその色の鮮かさと関連があるのかもしれない．そのほか，デンキナマズを食べない人が多く，また鱗がない大型の魚を食べない女性が多い．トングウェではフグを「毒はないが肉がよくない」といって食べない．そのほかに食物としての評価がきわめて低い魚は少なくないが食べない魚はフグだけである (伊谷，1977，p. 475)．

呪薬に用いられる魚は，エニャ 3，ロケレでは不詳，ブワリ 0，トングウェ 3 である．エニャでは呪薬に用いられる魚は，すべて他の植物性呪薬と混ぜて，体に傷をつけて塗り込める．コイ科の小魚 **mùntítínfìì** (Z 56) は，魚 (**ǹflíí**) でありながら木 (**mùntí**) のように堅いからという理由で男性の精力剤となる．デンキナマズ (Z 100) を塗り込めると敵を倒す力がつき，フグ (Z 134) はその丈夫な皮故に刃物で切られても傷を受けない呪薬になる．ブワリ族は魚を呪薬には用いない．トングウェは，オオナマズ (→T 35) の脂肪をスナノミよけに足に塗る．デンキナマズ (→T 39) の使用法は前述のとうり．フグ (→T 57) は，男性の精力剤，邪術よけ，畑の豊作祈願にと 3 様に役だつが，いずれも体をふくらませるという特性に由来する用法と考えられる (掛谷，1978，p. 7)．

魚に対する関与についてのより正当な比較は，もっと広い文脈，たとえば動物全体の認知体系の中で捉えてゆかなければならない問題であろう．しかし，ここで比較を試みた 4 つのバントゥー社会では，漁撈活動以外の魚に対する関与の様態に類似のパターンが存在することに気付くのである．ザイール川沿いの方がタンガニイカ湖畔よりも，超自然的要素が色濃く表われているという印象を受けるのだが，それにもかかわらずこれら 4 つの社会には，そういった限定を受けた魚種にも，またその理由づけにも共通点を見い出すこと

ができる．この共通点が，バントゥーに共通するものであるか否か，あるいはそれがより広い「人の知的メカニズムにもっとも基本的な属性」であるのかといったことがらを問題にするためには，もう少し多くの部族からも比較資料を得る必要がありそうである．

4.2. 魚類の民俗分類について

4.2.1. 民俗分類の構造の比較

ザイール川でもタンガニイカ湖でも魚類は「さかな」に相当する単一の包括名を与えられており，その範囲は，分類学上の硬骨魚類綱と一致していた．もっとも包括的な「さかな」に当る方名と，他の方名を含むことがない個別名の間に介在する方名の数は，ソンゴーラ族エニャ支族の場合は4，ブワリ族，ベンベ族，ヴィラ族では1，ソンゴーラ族クコ支族とビンジャ支族ではそれがなかった．民俗分類体系がいくつの層に有節化されているかが，その体系の複雑さを表わす指標になりうるとすれば，ザイール川の漁撈民であるエニャ支族の体系がきわだって複雑であり，タンガニイカ湖漁撈民3部族の体系はかなり単純なものであり，ザイール川沿いでも森林の中に居住する焼畑農耕民の体系はまことに単純であるということができよう．民俗分類体系がいくつの層に有節化されているかは，その体系が含んでいる個別名の数にも包括名の数にも関連があると考えられる．そのことは表10のエニャ支族とクコ支族の個別名数の比較，エニャ支族とブワリ族の包括名数の比較から明らかであろう．

本報では，方名のラベルがはられていないカヴァート・カテゴリーのうち，生長段階によって方名が変る“出世魚”と「～でない」ということでくくられているカテゴリー〔R〕だけを取りあげている．表10に示すように“出世魚”の系列の数はザイール川漁撈民，タンガニイカ湖漁撈民，ザイール川流域森林農耕民の順に減少している．この傾向は，上述の層および包括名の数の傾向と一致している．

ザイール川とタンガニイカ湖の間で見られる漁撈専業グループ間の差をどのように理解すればよいのであろうか．そのために，魚の民俗分類の機能的側面を，魚類相および生業活動との関連で見ておきたい．

4.2.2. 魚類相と民俗分類

ある集団の生活環境内に生息している魚類の種類のすべてを明らかにすることは，民族魚類学的調査の要件のひとつであろう．しかしある地点に何種の魚類が分布しているかを正確に把握することはかなり困難である．ザイール川では，下流のキンシャサ付近で235種，中流のヤンガンビ付近で239種が記録されている（Poll et Gosse, 1963）．キンドゥの上流のシャバ地方では，全部で182種が報告されているが（Poll, 1976），一地点ではこの数値をかなり下まわっているであろうから，キンドゥ周辺には150～200種程度が分布していると一応考えておくことにする．一方タンガニイカ湖では，ウヴィラ付近での調査によれば，湖の北端に流入するルジジ川を含めてもせいぜい110種程度であるという（高村健二，私信）．ウブワリ半島付近にはルジジ川のような大河がないのでせいぜい100種程度と考えられる．魚の個別名の数を比べてみると，ブワリで79，ソンゴーラのエニャ支族で108と後者が前者の約1.4倍になっている．ベンベ73，ヴィラ63という値も，調査期間の短かさを考えれば，ほぼブワリ族と同じ程度と考えられる．タンガニイカ湖の近くに居住するが漁撈専業民ではない部族については，トングウェ58（伊谷，1977），という値が得られている．ザイール川のキサンガニ下流に居住するロケレ族は漁撈と交易を主生業としているが，そのYaokandja支族で148，Yawembe支族で131の個別名が得られている（Gosse, 1961, p. 378-385）．同じ漁撈専業民でも，ザイール川の方がタンガニイカ湖より多くの魚の方名を認知しており，それは分布する魚種の数を反映していると，この段階では考えることができる（表10参照）．

しかし，魚の個別名は，魚種との対応が多対1になっているものが多い．そこで多対1または多対多の対応になっているものは，種の数の方でかぞえるという操作を加えると，ブワリ72，エニャ

表 10　魚類の民俗分類体系の比較

	TANGANYIKA 湖				ZAIRE 川			
					SONGOLA			LOKELE
グループ名	Bwari	Bembe	Vira	Tongwe	Enya	Kuko	Binja	Yaokandja
個別名数	79	73	63	58	108	38	28	148
包括名数	4	3	3	2	12	1	2	?
“出世魚”の系列数	8	4	6	1	18	2	1	57
“出世魚”の個別名	20	10	13	2	43	4	2	130
レヴェルの数	3	3	3	3	6	2	3	?
出典	本報			(伊谷, 1977)	本報			(Gosse, 1961)

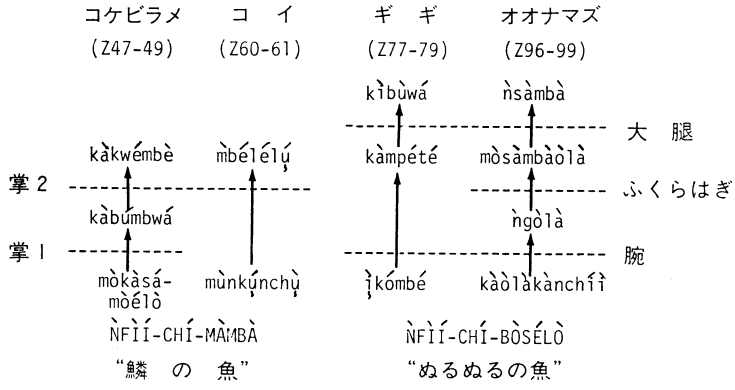


図 7　魚類の成長段階の区分——ソンゴーラ族エニャ支族の場合.
[ǸFÌÍ-CHÍ-MÀMBÀ (鱗の魚) から Z 47～49, Z 60～61 の 2 系列を, ǸFÌÍ-CHÍ-BÒSÉLÒ (ぬるぬるの魚) から Z 77～79, Z 96～99 の 2 系列を選んで示す.]

85, ロケレ・ヤオカンジャ 75 とそれほど大きな差はなくなってくる. ザイール川の魚の分類体系は, ひとつの種に成長段階によって異なる方名を与える場合が多いというのがタンガニイカ湖と比較した場合の特徴であるといえよう.

タンガニイカ湖の魚類相の特徴は, カワスズメ科が約 70% を占めることで, その多くは, 15 cm に満たない小魚である. ブワリ族, ベンベ族, ヴィラ族のいずれもが, カワスズメ科の小魚をすべてほうり込む LÈNDÀ (ヴィラ語も同じ, ベンベ語は ìLÉNDÀ) というフォーク・カテゴリーをもっていることは, このようなタンガニイカ湖魚類の種組成と深いかかわりがあると考えられる.

エニャ支族で“出世魚”〔L. S.〕の系列に入れられている魚種は例外なく大きくなる魚であった. 体長が 50 cm 以上になる魚は, ザイール川では筆者が見たものだけで 17 種を数える一方, タンガニイカ湖では 5 種のみであった. エニャ支族では生長するにつれて名が変る魚の, 名が変る境界の大きさがほぼきまっているという特徴があった. ǸFÌÍ-CHÍ-MÀMBÀ (鱗の魚) では体高を ìchànjà (掌) で表わし, “掌 1 つ”と“掌 2 つ”がその境界になっている. ǸFÌÍ-CHÍ-BÒSÉLÒ (ぬるぬるの魚) では mbé-kàbókò (腕ほど), mbé-kìkúchù (ふくらはぎほど), mbé-ìbìmbì (ふとももほど) の 3 つの尺度が境界になっている (図 7). このことは, 前者が最大 3 つの生長段階からなり, 後者が最大 4 つの生長段階からなる

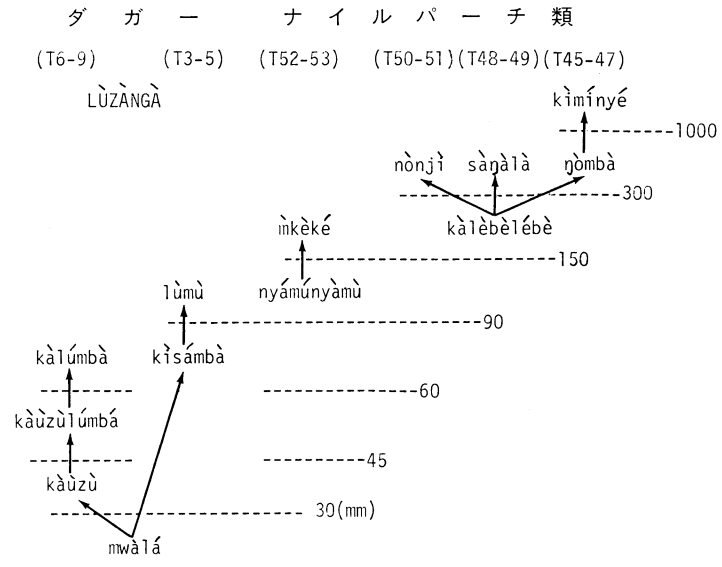


図 8　魚類の成長段階の区分——ブワリ族の場合.
[ダガー (T 3～9) とナイルパーチ類 (T 45～53) の例を示す. 数字は体長 (standard length) をミリメートルで表わす.]

ことと対応している.

タンガニイカ湖では獲れる量が多いダガー2種 (T 3～9) が体長 100 mm 以下の小魚であるにもかかわらず3から4の段階に分けられている (図8). 中型の mìkèké や大型のナイルパーチ類も"出世魚"ではあるが, ザイール川のような大きさとの関連は希薄になっているように思われる.

4.2.3. 生業経済と民俗分類

ザイール川のソンゴーラ族の漁法として 25 種類を記録した. 森林に居住するクコ支族にだけ認められるもの (f 42～45), 今ではおこなわれないもの (f 54, f 57) を除くと漁撈民であるエニャ支族は, 19 の漁法を季節と水位変動に応じて使い分けている. さまざまな漁法の中で現在もっとも頻繁な活動が見られるのは, 流し網漁 (f 51～53), 減水期に活動のピークをもつロレカ漁 (f 46), 満水期にピークをもつ刺し網漁 (f 58) である. ナイロン製の網が普及する以前は現在よりも釣り (f 31～36) の重要性が大きかったというが, 漁撈活動の中心は, 網漁とロレカ漁に置かれていたようである. ロレカ漁で獲れる魚は, NFÌÍ-CHÍ-LÓLÈKÀ (ロレカの魚) と総称されるが, 概して小魚が多い. それに対して網漁では, 網目の大きさに対応したさまざまな大きさの魚が獲れる. 昔は, けもの用のハンティング・ネットと全く同じものを用いていたがその網目は, 指 6～7 本分 (màkìlà) と指4本分 (kàkìlà) の流し網が主であった. ある網の目で獲れる魚の大きさはほぼ一定していて, 魚の大きさを, 体長ではなくて体高または太さで表現するエニャ支族の認知様式は, このような網漁の存在と一定の結びつきをもっていたのかもしれない. また, 魚の大きさに関して, 1) 網にかからぬほど小さなもの, 2) kàkìlà で獲れるもの, 3) màkìlà で獲れるもの, 4) 網目に入らぬほど大きなものという4つの段階分けが, 漁獲そのものの中に自然にあらわれたと考えることができる. このことが, 1) エニャ支族では体の大きい魚だけが"出世魚"になりうる, 2) "出世"段階の境界が図7に見たように「鱗の魚」と「ぬるぬるの魚」のそれぞれについてほぼ一定しており, 整合性があるという魚類の民俗分類体系の形成に結びついているのではないかと考え

る.

エニャ支族の魚類の民俗分類のもう一つの特徴は民俗分類のレヴェルが，同じバントゥー語系のトゥンブウェ語の例（松井，1979，p. 24）などと比べて多いことである．このレヴェルの多さのよって来たるところは，1）魚類の民俗分類では通常カヴァートになっている，“鱗の有無”，“毒棘の有無”に基くカテゴリーがエニャ支族ではオヴァートに命名されているという点と，2）対個別名比 11.4% ということから明らかなように，比較的多くの包括名をもつという2点であると考えられる．ここでは，包括名が多いことの意味だけを考察しておきたい．エニャ支族の成年ならば，魚の姿を見て，ほとんど即座にその個別名を与えることができるからエニャ支族内で多くの包括名が果たしている役割は理解し難く思われる．ここで，エニャ支族がクコ支族との間でおこなっている伝統的な物々交換との関連を考えてみたい．エニャ支族の男は，魚をクコ支族の女のもたらす農作物と週一度の物々交換市（kìchùkà-kí-kàyè-kèyèkè，図2参照）で交換している．魚名を詳しく知らない農耕民の女たちとのコミュニケーションのために，多数の個別名に代るものとしていくつかの包括名が用意されたと考えることは自然である．クコ支族がエニャ支族の包括名（MÀNDÀ, MÒKÀSÁ, ̀MPÈNGÈLÈ 等）と同じ方名を個別名として用いていることは，上記のような物々交換関係の累積と関係があろう．魚の共通語名の機能もこのような，異なる生活環境と生業をもつ集団間のコミュニケーションを助けるという点で理解できよう．

タンガニイカ湖で取り上げた3部族は，現在いずれもダガー漁に著しく偏った漁撈生活を営んでいる．これについで重要なのは，アカメ科の小型の1種（T 52）と比較的大型の3種（T 46, T 48 T 50），それとカワスズメ科の1種（T 62）を対象とする漁撈活動である．ウヴィラの市場では，このほかにオオナマズ（T 35）やギギの1種（T 34）もしばしば見かけた．ブワリ族には既述の17種類の漁法がありはしたが，ダガーを対象とするたも網（f 86）と地曳網（f 84）以外は誰もがおこなう漁法ではなく，現在では全くおこなわれなくなっている漁法も5つ（f 64, f 66, f 67, f 81, f 82）を数えた．ブワリ族は，伝統的に焼畑への依存度が低く，人々のほとんどはダガーによる現金収入に頼って生活している．彼ら自身が言うように「ダガー以外の魚は食べる分しか獲らない」のである．このような換金経済のもとで，経済的に重要な魚種に多くの生長段階が見られるに至っている（図8参照）．ブワリ族のダガーの民俗分類の構造は，ヴィラ族のそれとほとんど同一である．ブワリ，ヴィラの両部族より遅れて湖岸に進出し，漁撈に専業化したといわれるベンベ族のそれもほとんど同じである．このことは，生長段階による価格の違いといった経済的要因が，民俗分類の体系に直接インパクトを与えうるということの傍証になろう．

筆者がタンガニイカ湖で採集した魚種の多くは，ダガーの地曳網の中に混り込んでいたものであった．これらは，ダガー干し場にダガーとともに干され，ダガーが乾燥すると袋に詰められるのに対し，ひからびたまま干し場に打ち捨てられていることが多い．現在のブワリ族の生業形態からすれば，彼らが79もの魚の個別名をもっているというのは認知体系の方がエラボレートされすぎているという印象をまぬかれない．現在のようにダガーに極度に依存した専業的換金漁業が確立したのは，たかだか20年来のことであるという．より換金経済の度が低かった昔の漁撈生活の中で使用されてきた魚名のあるものは，次第に使われることがなくなってゆくといった過程にあるのだと考えてよいように思う．

謝　辞

本研究は文部省科学研究費補助金（昭和53年度課題番号 304124，担当者米山俊直教授，および昭和54年度課題番号 404130，担当者川那部浩哉教授）によって進められた．米山，川那部両先生の暖かい御理解と御助力に感謝する．調査にあたってはザイール科学庁 I. R. S. (Institut de

Recherche Scientifique) からは共同研究員の資格を与えられた．タンガニイカ湖調査隊のメンバーである山岡耕作氏と高村健二氏の御尽力がなければ，まがりなりにも魚の同定を終えることはできなかった．Kisesa Mvano 氏をはじめとする Ubwari, Some 村の方々，Ramazani Fundi-Lono 氏をはじめとする Tongomacho 村の方々の協力に深く感謝する．東京水産大の多紀保彦先生には魚の和名についての御教示を賜わった．M. Poll 先生とベルギー王立中央アフリカ博物館 (Kon. Mus. Tervuren, Belg.) は刊行物からの魚の絵の引用を許可された．Poll 先生にはザイール川の魚の分類と生態について御教示を賜わり，多数の文献を送っていただいた．A. Coupez 先生は中央アフリカ博物館所蔵の未刊行言語調査資料の閲覧を許可された．池田次郎先生をはじめとする京都大学理学部自然人類学研究室のみなさんにはゼミナールを通じて御批判をいただいた．

伊谷純一郎先生には研究の初期の段階からまとめに至るまでまことに懇切な御指導を賜わった．

引用文献

Akimichi, T.: The Ecological Aspect of Lau (Solomon Islands) Ethnoichthyology, *The Journal of the Polynesian Society*, Vol. 87, 1978.

Anderson, E. N. Jr.: Sacred Fish, *Man* (n.s.), Vol. 4, 1969.

Anderson, E. N. Jr.: The Ethnoichthyology of the Hong Kong Boat People, L. Tsu-k'uang ed., *Asian Folklore and Social Life Monographs*, Vol. 29, The Orient Cultural Center, Taipei, 1972.

安溪遊地: 原生林のなかの漁撈—中央アフリカ・ソンゴーラ族—,『アニマ』7 巻 7 号 1979.

安溪遊地: ソンゴーラ族の農耕生活と経済活動—中央アフリカ熱帯雨林下の焼畑農耕—,『季刊人類学』12 巻 1 号 1981.

Banister, K. E. and R G. Bailey: Fishes collected by the Zaïre River Expedition, 1974-75. *Zool. J. Linn. Soc.*, Vol. 66, 1979.

Bastin, Y.: Bibliographie Bantoue Sélective, *Archives d'Anthropologie*, No. 24, Musée royal de l' Afrique centrale, Tervuren, 1975.

Berlin, B., D. E. Breedlove and P. H. Raven: *Principles of Tzeltal Plant Classification: an Introduction to the Botanical Ethnography of a Mayan Speaking People of Highland Chiaps*, Academic Press, New York 1974.

Boone, O.: *Carte Ethnique du Congo, Quart Sud-est*, Annales, Série in 8°, Sciences Humaines, no. 37, Musée royal de l'Afrique centrale, Tervuren, 1961.

Boulenger, G. A.: *Catalogue of the Fresh-water Fishes of Africa in the British Museum*, Vol. 1-4, London, 1909-1916.

Brandt, A. von: *Fish Catching Methods of the World*, revised ed., Fishing News (Books), 1972.

Brichard, P.: *Fishes of Lake Tanganyika*, T. F. H., Neptune, 1978.

Bulck, S. J. van: Les Recherches Linguistiques au Congo Belge—Résultats Acquis Nouvelles Enquêtes à Entreprendre, *Mém. Inst. Royal Colonial Belge, Mémoires*—Collection in 8°, Tome 14, Bruxelles, 1948.

Bulmer, R. H., J. I. Menzie and F. Parker: Kalam Classification of Reptiles and Fishes, *Journal of the Polynesian Society*, Vol. 84, 1975.

David, L. et M. Poll: Contribution à la faune ichthyologique du Congo belge, collection du Dr. H. Schouteden et d'autre récolteurs, *Ann. Mus. Congo*. Zool., Sér. I, Tome 3, Fasc. 5, 1937.

Delhaise, C.: Chez les Wasongola du Sud, *Bulletin de la Société Royale Belge de Géographie*, Vol. 33, 1909.

Gery, J.: *Characoids of the World*, T. F. H., Neptune, 1977.

Gosse, J. P.: Les méthodes et engins de pêche des Lokele, *Bulletin agricole du Congo belge*, Vol. 52, 1961.

Gosse, J. P.: Le poisson dans les coutume et les proverbes lokele, *Africa-Tervuren*, Vol. 8, 1962.

Gosse, J. P.: Le milieu aquatique et l'écologie des poissons dans la région de Yangambi, *Annales*, Série in 8°, Sciences Zoologiques, No. 116, Musée royal de l'Afrique centrale, Tervuren, 1963.

Günther, S.: *Freshwater Fishes of the World*, translated and revised by Tucker, D. W., T. F. H., Neptune, 1973.

Guthrie, M.: *Comparative Bantu I*, Gregg Press, 1967.

Hunn, E. S.: *Tzeltal Folk Zoology, the Classification of Discontinuities in Nature*, Academic Press, New York, 1977.

伊谷純一郎:「トングウェ動物誌」, 伊谷純一郎・原子令三編,『人類の自然誌』雄山閣, 東京, 1977.

Johnson, F.: *A Standard Swahili-English Dictionary*, Oxford Univ. Press, Oxford, 1939.

掛谷　誠: シコメロの素材と論理—トングウェ族の動物性呪薬—,『アフリカ研究』, 17 巻, 1978.

松井　健: フォークカテゴリーの位相問題—フィリピン

・バタン島における民俗分類の研究から—，『民族学研究』43 巻，1978.
松井 健: エスノ・サイエンスとフォーク・タクソノミー——その方法論的諸問題，谷泰編『人類学方法論の研究』，京都大学人文科学研究所，1979.
MEEUSSEN, A. E.: *Notes bembe*, m. s., Tervuren, 1951 a.
MEEUSSEN, A. E.: *Notes binja-N*, m.s., Tervuren, 1951 b.
MEEUSSEN, A. E.: *Notes vira*, m.s., Tervuren, 1951 c
MEEUSSEN, A. E.: Esquisse de la langue Ombo, *Ann. Mus. Congo*, Science de l'homme, Linguistique, Vol. 4, Tervuren, 1952.
MORRILL, W. T.: Ethnoichthyology of the Cha-Cha, *Ethnology*, Vol. 6, 1967.
NICHOLS, J. T. and L. GRISCOM: Fresh Water Fishes of the Congo Basin obtained by the American Museum Congo Expedition, 1909-1915, *Bull. Amer. Mus. Nat. Hist.*, Vol. 37, 1917.
POLL, M.: *Poissons non-cichlidae, Résultats Scientifiques Exploration Hydrobiologique du Lac Tanganyika (1946-1947)*, Vol. 3, Fasc. 5a, Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique, 1953.
POLL, M.: *Poissons cichlidae, Résultats Scientifiques Exploration du Lac Tanganyika (1946-1947)*, Vol. 3, Fasc. 5b, Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique, 1956.
POLL, M.: Les genres des poissons d'eau douce de l'Afrique, *Ann. Mus. Congo*, Série in 8°, Sciences Zoologiques, Tervuren, 1957.
POLL, M.: Recherches sur la faune ichthyologique de la région du Stanley-Pool, *Ann. Mus. Congo*, Série in 8°, Sciences Zoologiques, Tervuren, 1959.
POLL, M.: Revision de Characidae nains africains, *Annales du Musée royal de l'Afrique centrale*, Série in 8°, Sciences Zoologiques, Tervuren, 1967.
POLL, M.: Révision des Synodontis africains (famille Mochocidae), *Annales du Musée royal de l'Afrique centrale*, Série in 8°, Sciences Zoologiques, Tervuren, 1971.
POLL, M.: Nombre et distribution géographique des poissons d'eau douce africains, *Bulletin du Muséum National d'Histoire Naturelle*, 3e Série, no. 150, mai-juin, Écologie générale, 6, 1973.
POLL, M.: Poissons, *Explor. Parc Nat. Upemba.*, Mission G. F. de Witte, Fasc. 73, 1976.
POLL, M. et J. P. GOSSE: Contribution à l'étude systématique de la faune ichthyologique du Congo central, *Annales du Musée royal de l'Afrique centrale*, Série in 8°, Sciences Zoologiques, Tervuren, 1963.

Folk-knowledge the Fish among the Songola and the Bwari—Comparative Ethnoichthyology of the Zaïre River and Lake Tanganyika Fishermen

Yuji ANKEI

A field survey in collaboration with the Institut de Recherche Scientifique was carried out near Kindu and Baraka, Région du Kivu, République du Zaïre (Sep. 1979-Feb. 1980).

Folk-knowledge of the fish is described in detail for the two areas. The author identified 99 species from the Zaïre River and 97 species from Lake Tanganyika.

Songola fishermen (Enya group) along the Zaïre River had 108 vernacular names and 12 inclusive folk categories of the fish, consisting of six levels of categorization. There existed 18 series of fishes, in which one fish has two to four different vernacular names according to its life-cycle stages (L.S. fish). All L.S. fishes of the Enya group were large-sized fishes and their names changed by growth size. This fact was probably in accordance with the mesh sizes of traditional fishnets.

Bwari fishermen of northern Tanganyika had 79 vernacuar names and 4 inclusive folk categories, consisting of three levels. There existed 8 L.S. fishes. They were diverse in body size and a small clupeid NDAGAA, one of the most abundant and important fishes for the Lake Tanganyika fishermen, had as many as four life-cycle stages according to its market price.

Thus, Lake Tanganyika fishermen had a simpler system of folk-taxonomy of the fish than the Zaïre River fishermen. This differrence might be understood by the difference in the composition of the fish fauna of the two areas; in Lake Tanganyika while small-sized cichlid species (called inclusively as LENDA by the Bwari) are dominant, NDAGAA prevails in the catch.

(Received December, 1980)